

東京大学大学院教育学研究科附属海洋教育センターとの海洋教育研究拠点としての連携に関する協定

# 大牟田の海洋教育



「有明海や三池港を生かした  
大牟田海洋教育プロジェクト」

大牟田市教育委員会

大牟田市海洋教育推進協議会

協力：東京大学大学院教育学研究科附属海洋教育センター



～・～・～・～・～・～・～ はじめに ～・～・～・～・～・～・～

平成24年1月に大牟田市内全小学校・中学校・特別支援学校がユネスコスクールに加盟し、「ユネスコスクールのまち おおむた」としてESDを市をあげて取り組み始めてから10年が経過しました。その間、明治日本の産業革命遺産で三池炭坑関連資産に関する世界遺産学習や郷土学習、さらには、エコタウンとしての環境学習や少子高齢化に対応した福祉学習など、子供たちが見出した地域課題の解決に向けて、ESDに主体的に取り組み、多くの成果を残すことができました。

また、SDGs達成を目指して、大牟田の地域課題の解決に向けて重点化した「大牟田版SDGs」を作成しました。「大牟田版SDGs」では、「4質の高い教育をみんなに」と「17パートナーシップで目標を達成しよう」を基盤として掲げ、6つの重点目標を設定し、学校教育のみならず、行政や各種団体が一体となってSDGs/ESDの推進を図って参りました。現在、内容を充実したVer.2を作成しました。

このような市全体での実績が認められ、令和元年12月には教育委員会としては全国初となる「ジャパンSDGsアワード特別賞」を受賞することができました。これもひとえに、大牟田のSDGs/ESD推進に対して、これまでに様々な角度からご指導、ご協力いただきました関係各位のお陰であると心から感謝しているところです。

本年度はコロナ禍ということで、実践や交流が行いにくいという状況でしたが、みなと小学校、天領小学校、駛馬小学校、天の原小学校の4校は、東京大学大学院教育学研究科附属海洋教育センターのご指導の下、海洋教育推進校として、大牟田の西に広がる「宝の海 有明海」をテーマとした海洋教育の推進に精力的に取り組んで参りました。実質4年目を迎えた今年度は、駛馬小学校が新たに推進校として加わり、デルタ型としての機能をより高められるよう、各学校の特徴を生かした教材や単元計画の工夫をしたり、整理したりして取り組んで参りました。また、オンラインによる4校の交流を効果的に行うという新たな取組も行い、その足跡をこの実践事例集にまとめました。

また、佐賀県の佐志小学校、入野小学校、沖縄県の船浮小中学校の皆様方には、オンラインによる「九州海洋教育連絡協議会：博多会議」へご参加いただき、本年度も交流を展開することができました。さらには、本年1月には「九州海洋教育こどもサミット」を、対面とオンラインのハイブリッド形式で開催いたしましたところ、海洋教育センターの田中智志センター長様をはじめ、日置光久先生、及川幸彦先生にもご参会いただくとともに、大牟田の4校に加え、九州各地から9校（視聴のみ5校を含む）の参加を得て、14校で交流を行うことができました。今回初めて取り組みましたオンラインによる交流は、各地域の距離感を縮めるとともに、多様な実践の交流により、児童生徒の海洋への関心や行動化への意欲がさらに高まるという交流のよさが伺え、新たな可能性を確認することができました。

現在、世界的な環境問題として、地球温暖化やプラスチックゴミによる海洋汚染など、海に関するグローバルな問題が大きく指摘されています。このような中、ここで学んだ子どもたちは、これからも海に対する関心を持ち続け、持続可能な世界を創る担い手として様々なアプローチをしてくれることと信じています。来年度も、さらに研究実践を広げ、深めていく予定です。今後とも、ご指導、ご鞭撻の程、よろしくお願いいたします。

最後になりましたが、これまで物心両面からご支援・ご指導いただきました東京大学大学院教育学研究科附属海洋教育センターの及川幸彦先生をはじめ関係の先生方、さらには日本財団、笹川財団の皆様には、心から感謝申し上げます。誠にありがとうございました。

令和3年3月

大牟田市教育委員会  
教育長 安田 昌則

～・～・～・～ 海洋教育推進校 校長あいさつ ～・～・～・～

大牟田市教育委員会は東京大学大学院教育学研究科附属海洋教育センターとの海洋教育研究拠点としての連携に関する協定のもと海洋教育に取り組んでいます。本年度から、大牟田市立みなと小学校、天領小学校、天の原小学校に加え、駛馬小学校が推進校となり、4校が大牟田市海洋教育推進校として連携協力しながら海洋教育を推進してきたところです。

海洋教育では、「海と人との共生」という理念の実現を目指し、様々な研究や教育実践が積み重ねられてきています。大牟田市で進める海洋教育においては、大牟田の地域の自然や文化の特徴を生かし、子供たちが、日本有数の干潟をもつ「有明海」の豊かな自然と恵みを知り、海に親しみ、森・川・海の環境を守っていくこと、そして、大牟田のまちの発展の礎となった世界文化遺産「三池港」の歴史や海を通じた世界・他地域とのつながりを知り、海を活用した港湾都市としてのまちづくりへの将来的なビジョンをもつことを大きなコンセプトとして取り組んで参りました。

また、推進校であるそれぞれの学校が、市内を流れる「諏訪川」の上流域と中流域、下流域、そして「三池港」近隣に位置するという立地状況を活かし、森と川と海をつなげた流域での海洋教育（デルタ型海洋教育）を推し進めてきたところです。

さらに、大牟田市内だけではなく九州地域における海洋教育の推進に向け、佐賀県や鹿児島県、沖縄県の教育委員会や学校等との連携拠点として地域間交流も進めてきました。

本年度はコロナ禍の中、これまでと同様の取組は困難な状況でした。しかし、オンラインでの合同授業や会議など内容や方法を工夫しながら、4校合同による実践や学習交流を行い、子供たちの「海と共に生きる」ことへの学びを深めるとともに、子供たち同士のつながりも深めてきました。

「持続可能な開発のための国連海洋科学の10年（2021－2030）」のスタートを迎え、海と人との共生のために自分にできることは何かを考え、自分にできることを身近なところから実行していくという海洋教育での学びは、持続可能な未来を切り拓いていく子ども達を育てることにつながるものだと確信しています。

この冊子は、大牟田市教育委員会・大牟田市海洋教育推進協議会を中心として、東京大学大学院教育学研究科附属海洋教育センターの皆様のご指導のもと、海洋教育で育てる資質・能力を明らかにしながら、海洋教育推進校で取り組んできた実践についてまとめたものです。これを大牟田における海洋教育推進の新たなステップとして、これからさらにカリキュラム開発や実践を積み重ね、海洋教育での学びが子ども達の未来に向けての大きな力となっていくことを願っています。

令和3年3月

大牟田市立みなと小学校 校長 馬籠 秀典  
大牟田市立天領小学校 校長 荒木 秀敏  
大牟田市立駛馬小学校 校長 萩島 弥穂  
大牟田市立天の原小学校 校長 高口 直喜

# 目次

○ はじめに	
1 大牟田の海洋教育のコンセプト	1
・海洋教育とは	
・海洋教育のねらい	
・海洋教育の4つの視点	
・大牟田での海洋教育の意義	
・大牟田における海洋教育の構造	
・海洋教育で育成する資質・能力	
2 海洋教育推進校の全体計画・年間計画	5
・海洋教育推進校（4校）の研究推進計画	
・みなと小学校	
・天領小学校	
・駿馬小学校	
・天の原小学校	
3 海洋教育推進校の海洋教育の実践	15
・みなと小学校	
・天領小学校	
・駿馬小学校	
・天の原小学校	
4 海洋教育推進校の合同による実践	79
・有明海の干潟観察	
・海洋教育オンライン合同授業	
・海洋教育推進校学習交流会	
・「三池港」合同見学	
5 他地域の海洋教育実践校との交流	87
・海洋教育九州・沖縄連絡協議会	
・海洋教育こどもサミット in おおむた	
・全国海洋教育サミット	
6 実践結果の分析と考察	92
7 <参考>発達段階に応じた海洋リテラシー育成目標	95
8 大牟田市海洋教育推進協議会の組織	96
○ おわりに	



# 1 大牟田の海洋教育のコンセプト

## 海洋教育とは

海洋教育は、「海と共に生きる」こと（海との共生）を基礎理念とする初等・中等教育段階における海洋に関する教育を指すものである。

## 海洋教育のねらい

海洋教育は、海洋と人間の関係についての国民の理解を深めるとともに、海洋環境の保全を図りつつ国際的な理解に立った平和的かつ持続可能な海洋の開発と利用を可能とする知識、技能、思考力、判断力、表現力を有する人材の育成を目指す。

（海洋政策研究財団「21世紀の海洋教育に関するグランドデザイン」より）

## 海洋教育の4つの視点

### 海に親しむ



海の豊かな自然や身近な地域社会の中での様々な体験活動を通じて、海に対する豊かな感受性や海に対する関心等を培い、海の自然に親しみ、海に進んで関わろうとする児童・生徒を育成する。

### 海を知る



海の自然や資源、海をとりまく人や社会との深いかかわりについて関心を持ち、進んで調べようとする児童・生徒を育成する。

### 海を守る



海の環境について調べる活動やその保全活動などの体験を通じて、海の環境保全に主体的に関わろうとする児童・生徒を育成する。

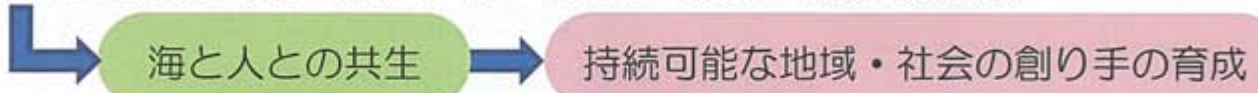
### 海を活用する



水産物や資源、船舶を用いた人や物の輸送、また、海を通じた世界の人々との結びつきについて理解し、それらを持続的に利用することの大切さを理解できる児童・生徒を育成する。

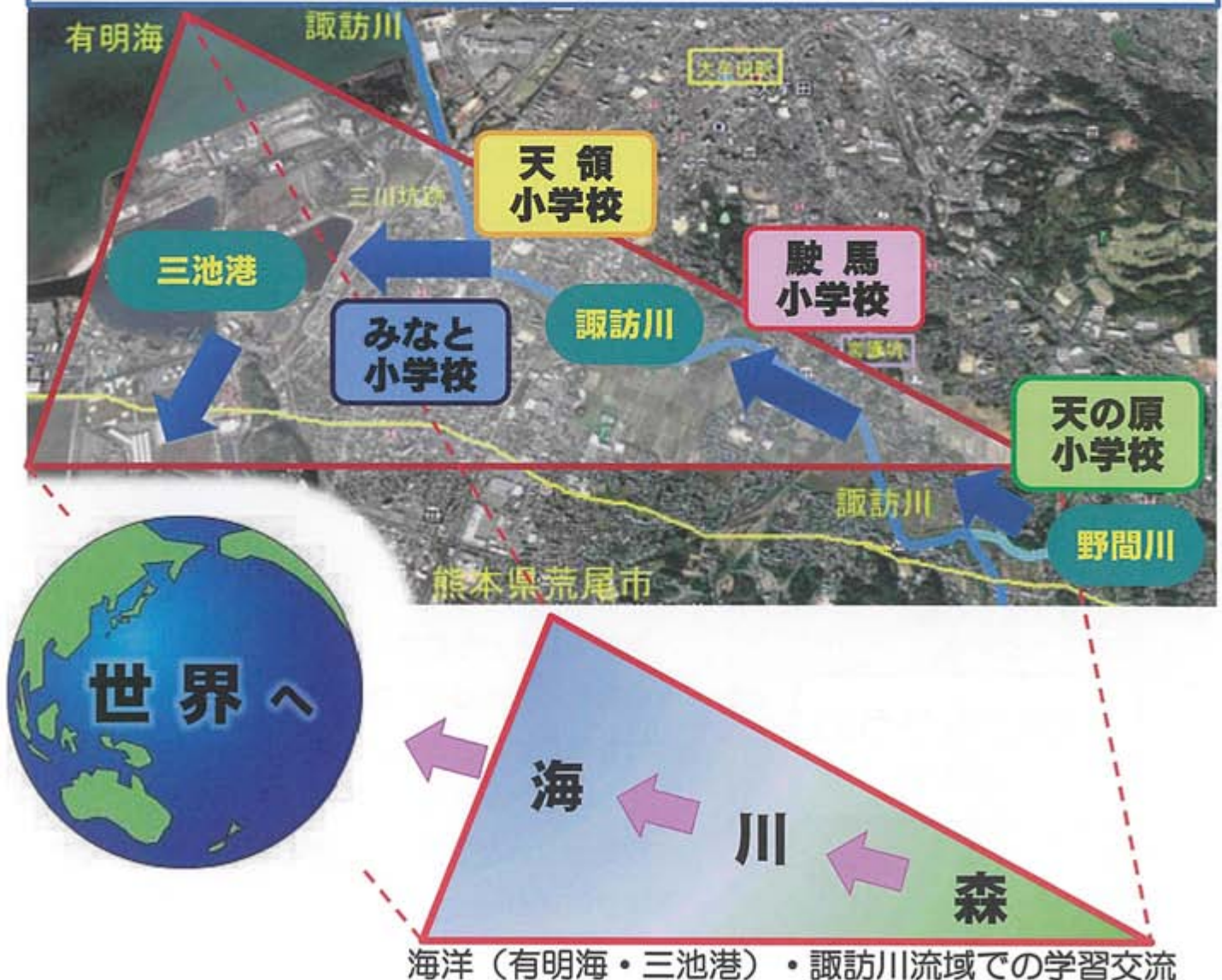
## 大牟田での海洋教育の意義

- 日本有数の干潟をもつ宝の海「有明海」の豊かな自然と恵み（水産物）を知り、海に親しみ、森・川・海の環境を守る（環境的側面）
- 大牟田のまちの発展の礎となった世界文化遺産「三池港」の歴史や海を通じた世界・他地域とのつながり（貿易）を知り、海を活用した港湾都市としてのまちづくりへのビジョンをもつ（社会・経済的側面）



## 大牟田における海洋教育の構造

森と川と海をつなげた流域での海洋教育  
（デルタ型海洋教育）



## 海洋教育で育成する資質・能力

### 学習指導要領における 育成すべき資質・能力

### 大牟田の海洋教育において 育成する資質・能力

生きて働く

知識  
技能

の習得



有明海や三池港をもとに、海と人の共生のために必要となる自然・社会のひと・もの・ことやそのつながりについて多様性、相互性、有限性、公平性、連携性、責任性などの視点から理解するとともに、課題解決の方途について探究する技能を身につけることができるようにする。

未知の状況にも対応できる

思考力  
判断力  
表現力

等の育成



有明海や三池港での体験・調査などを通して、海と人や社会とのつながりについて多面的・総合的に考えるとともに、持続可能な地域・社会の未来像を予測し、その構築へ向けた行動の在り方について実現可能性の視点から考え、判断し、他者によりよく伝わるように表現することができるようにする。

学びを人生や社会に  
生かそうとする

学びに向かう力  
人間性

等の涵養



有明海や三池港についての学習を通して、海と人や社会との相互のつながりに関心をもち、つながりを尊重するとともに、海と人との共生のために主体的にかかわり、他者と協力しながらよりよく行動しようとする態度を身につけることができるようにする。



## 大牟田の海洋教育において 目指すこどもの姿

○海と人の共生にかかわるひと・もの・ことやそのつながりについて、以下の視点で理解する。

多様性：多種多様な生物がそれぞれに適した環境で生きていること。

相互性：生物やもの、ことは関係し合って（影響し合って）いること。

有限性：生物や環境は有限であり、その関係は変化し、戻ることはないこと。

公平性：共生が持続可能であるためには、開発や利用が全てのものや次の世代にも公平・公正でなければならないこと。

連携性：共生が持続可能であるためには、人やもの、ことが調和し、協力しなければならないこと。

責任性：共生が持続可能であるためには、人は責任をもって行動しなければならないこと。

○課題解決のために適切な手段を選び、目的に応じて調べ、整理する。

○事物やその関係を多角的（立場や影響）に捉え、総合的に判断し、よりよく伝わるように効果的に表現する。

○持続可能な共生の未来像を予測し、その実現に向けた行動の在り方を実現性や効果性の視点で考え（批判的思考）、順位付けたり取捨選択したりし、視覚的に表す。

○海と人の共生にかかわるひと・もの・ことやそのつながりに関心をもち、主体的にかかわろうとする。

○他の立場のひとやことに思いを巡らせてつながりを尊重し、協働しながらよりよく行動しようとする。

## 具体的な学習活動

### 3年「有明海の干潟観察」

### 5年「三池港」合同見学

干潟にすむ生き物調べ	【みなと3年】
元三池海水浴場のごみ分別	【みなと4年】
大雨の被害状況調査	【みなと5年】
三里漁協漁師さん取材	【みなと6年】
干潟にすむ生き物調べ	【天 領3年】
諏訪川河口部環境調査	【天 領4年】
三池港の役割と周辺施設調べ	【天 領5年】
三池港の役割調べ	【天 領6年】
干潟にすむ生き物調べ	【駿 馬3年】
諏訪川のごみ調査	【駿 馬4年】
石炭輸出の歴史調べ	【駿 馬5年】
海底資源「石炭」のでき方調べ	【駿 馬6年】
生き物の生態の交流	【天の原3年】
ゴミ調査結果の交流	【天の原4年】
水の恩恵・影響に関する交流	【天の原5年】
森林の視点からの環境保全に関する交流	【天の原6年】

### 3・4・5・6年「海洋教育オンライン合同授業」

4校のごみの量と種類の比較	【みなと4年】
消防団、公民館、防災対策室への取材	【みなと5年】
各発信方法・行動の行動協議	【みなと6年】
低学年への呼びかけ内容	【天 領3年】
家庭・地域への啓発ポスター作成	【天 領4年】
校内・地域への新聞・パンフレット作成	【天 領5年】
下学年へのポスター・新聞作成	【天 領6年】
ごみの量と種類分別	【駿 馬4年】
宮原坑ロード作成	【駿 馬5年】
海の恩恵「石炭」と宮原坑のつながり	【駿 馬6年】
調べた生き物の紹介・発信	【天の原3年】
調べたゴミ問題の発信	【天の原4年】
山・川・海のつながりの発信	【天の原5年】
竹害解決策の提案・発信	【天の原6年】

### 6年「海洋教育推進校学習交流会」

### 6年「海洋教育こどもサミット」

表現物発信	【みなと3年】	ポスター掲示	【みなと4年】
リーフレット配布	【みなと5年】	各活動実施	【みなと6年】
うみまつり実施	【天 領3年】	家庭・地域への発信	【天 領4年】
三池港のすばらしさの発信			【天 領5年】
海洋教育サミットでの交流・発信			【天 領6年】
すわ川ランド実施	【駿 馬3年】	ポスター掲示	【駿 馬4年】
リーフレット配布	【駿 馬5年】		
宮原坑子どもボランティアガイドで来場者に発信			【駿 馬6年】
野間川生き物調査			【天の原3年】
鳴川ゴミ・水質調査			【天の原4年】
山と農業の関わり調査			【天の原5年】
里地・里山調査、間伐体験			【天の原6年】

## 2

## 海洋教育推進校の全体計画・年間計画

## 大牟田市海洋教育推進校(4校)の研究推進計画

月	みなと小学校	天領小学校	駛馬小学校	天の原小学校
4	○研究計画の立案 ○研究推進委員会	○研究計画の立案 ○研究推進委員会	○研究計画の立案 ○研究推進委員会	○研究計画の立案 ○研究推進委員会
5	海洋教育推進協議会ワーキンググループ会議			
	海洋教育推進協議会			
6	大牟田海洋教育連絡会議（オンライン会議）			
7	大牟田海洋教育連絡会議（オンライン会議）			
8				
9	海洋教育九州・沖縄連絡協議会 in 博多（オンライン会議）			
	海洋教育推進協議会ワーキンググループ会議			
	海洋教育推進協議会ワーキンググループ会議			
	大牟田海洋教育連絡会議（オンライン会議）			
	大牟田海洋教育推進校学習交流会（6年 オンライン学習交流会）			
	海洋教育推進協議会ワーキンググループ会議			
	3年「有明海の 干潟観察」	3年「有明海の 干潟観察」	3年「有明海の 干潟観察」	3年「有明海の 干潟観察」
10	6年 海洋教育オンライン合同授業①			
	3年 海洋教育オンライン合同授業①			
	5年 海洋教育オンライン合同授業①			
	4年 海洋教育オンライン合同授業①			
	ユネスコスクール・ESD全国実践交流会 in 大牟田 海洋教育分科会			

月	みなと小学校	天領小学校	駿馬小学校	天の原小学校
11	大牟田海洋教育連絡会議（オンライン会議）			
	「三池港」出前講座			
	海洋教育推進協議会ワーキンググループ（校長）会議			
	3年 海洋教育オンライン合同授業②			
	6年 海洋教育オンライン合同授業②			
	4年 海洋教育オンライン合同授業②			
	5年 海洋教育オンライン合同授業②			
12	大牟田海洋教育連絡会議（オンライン会議）			
	海洋教育推進協議会			
	海洋教育推進協議会ワーキンググループ会議			
	大牟田海洋教育連絡会議（オンライン会議）			
1	海洋教育推進協議会ワーキンググループ会議（こどもサミットinおおむたリハーサル）			
	海洋教育こどもサミット2021 in おおむた			
	ユネスコスクール集会 成果・ポスター展示	ユネスコスクール集会 成果・ポスター展示	ユネスコスクール集会 成果・ポスター展示	ユネスコスクール集会 成果・ポスター展示
	海洋教育推進協議会ワーキンググループ会議			
	大牟田海洋教育連絡会議（オンライン会議）			
2	第8回全国海洋教育サミット（オンラインで発表） 6年 海洋教育オンライン合同授業③			
	4年 海洋教育オンライン合同授業③			
	3年 海洋教育オンライン合同授業③			
	5年 海洋教育オンライン合同授業③			
3	○研究のまとめ	○研究のまとめ	○研究のまとめ	○研究のまとめ

<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 日本国憲法</li> <li>○ 教育基本法</li> <li>○ 学校教育法</li> <li>○ 学習指導要領</li> <li>○ 海洋基本法</li> <li>○ 国連「持続可能な開発のための海洋科学の10年」</li> </ul>	<p><b>学校教育目標</b></p> <p>自他を大切に、豊かな心と健康な身体を持ち、主体的に学びあえる児童の育成</p> <p>かしこい子（きまりを守り、よく考えて行動したり学んだりできる子ども） やさしく思いやりのある子（他人を思いやり、友だちと協力して行動できる子） たくましい子（運動に親しみ最後までやりぬく強い心を持った子） 志を持った子（将来の思いや願いを持ち、目標に向かって頑張る子）</p> <hr/> <p><b>本年度重点目標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ つないで考え、よりよく行動できる子どもの育成             <ul style="list-style-type: none"> <li>・考えをつなぎ、よりよい考えを表現できる子ども</li> <li>・人と人とのつながりを大切に、支え合える子ども</li> <li>・明日へつながる目標をもち、最後までがんばる子ども</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 子どもの実態             <ul style="list-style-type: none"> <li>・活動的である</li> <li>・仲間づくりが上手で友達が多い</li> <li>・実体験が乏しい</li> </ul> </li> <li>○ 保護者の願い</li> <li>○ 教師の願い</li> <li>○ 地域の特性             <ul style="list-style-type: none"> <li>・世界遺産「三池港」</li> <li>・広大な干潟</li> </ul> </li> </ul>
---	---	--

**海洋教育のねらい**

○ 海洋と人間の関係についての国民の理解を深めるとともに、海洋環境の保全を図りつつ、国際的な理解に立った平和的かつ持続可能な海洋の開発と利用を可能とする知識、技能、思考力、判断力、表現力を有する人材の育成を目指す。この目的を達成するために、海洋教育は、海に親しみ、海を知り、海を守り、海を活用する学習を推進する。

**本校の海洋教育目標**

○ 海洋と人間とのつながりに関心をもち、海洋と共生するために様々な立場の人と協働して行動する。

○ 海洋の価値や共生のあり方を多角的に考え、自分でできることを判断し、様々な立場の人と意見交流したり発信したりする。

○ 海洋の多様性や脆弱性、人間生活との密接な関わりを理解する。

<p>各教科等との関連</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 各教科や道徳、特別活動での学習や体験を通して課題意識をつなぐ。</li> <li>○ 総合的な学習の時間での学びを各教科等に生かす。</li> <li>○ 生活科学学習での活動の経験を生かす。</li> </ul>	<p><b>各学年の海洋教育の内容</b></p> <table border="1"> <tr> <td style="text-align: center;">3年</td> <td>『有明海の生き物を調べよう』 干潟観察を通して有明海の生き物に関心をもち、漁師さんのお話や資料から有明海の生き物を調べ、まとめる。まとめたことを4校で交流し、「生物はそれぞれに適した環境の中で生活している（生物多様性）」ことを学ぶ。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">4年</td> <td>『有明海の環境を調べよう』 有明海のごみについて関心をもち、元三池海水浴場のごみを調査、分別して、浮遊ごみが多いことをまとめる。まとめたことを4校で交流し、「浮遊ごみが海に流れ、ごみのたまり場となっている」ことを学ぶ。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">5年</td> <td>『有明海と人とのつながりを調べよう』 有明海を中心とした海洋が人に与える影響に関心をもち、令和2年7月豪雨が海洋温暖化によってもたらされていることを調べ、まとめる。また、被災の視点で校区の危険箇所等について調べ、防災マップにまとめ、4校で交流する。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">6年</td> <td>『有明海とともに生きるために』 有明海の漁獲量が減少していることに関心をもち、海洋の無機質化について調べ、まとめる。まとめたことから自分が行動できることを考え、グループで実施案を練り、実行する。そして、実行したことを4校で交流する。</td> </tr> </table>	3年	『有明海の生き物を調べよう』 干潟観察を通して有明海の生き物に関心をもち、漁師さんのお話や資料から有明海の生き物を調べ、まとめる。まとめたことを4校で交流し、「生物はそれぞれに適した環境の中で生活している（生物多様性）」ことを学ぶ。	4年	『有明海の環境を調べよう』 有明海のごみについて関心をもち、元三池海水浴場のごみを調査、分別して、浮遊ごみが多いことをまとめる。まとめたことを4校で交流し、「浮遊ごみが海に流れ、ごみのたまり場となっている」ことを学ぶ。	5年	『有明海と人とのつながりを調べよう』 有明海を中心とした海洋が人に与える影響に関心をもち、令和2年7月豪雨が海洋温暖化によってもたらされていることを調べ、まとめる。また、被災の視点で校区の危険箇所等について調べ、防災マップにまとめ、4校で交流する。	6年	『有明海とともに生きるために』 有明海の漁獲量が減少していることに関心をもち、海洋の無機質化について調べ、まとめる。まとめたことから自分が行動できることを考え、グループで実施案を練り、実行する。そして、実行したことを4校で交流する。	<p>地域との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 各種教育施設や社会教育関係団体等</li> <li>・世界文化遺産「三池港」と有明海を学ぶ会</li> <li>・三里漁業協同組合</li> <li>・荒尾干潟水鳥湿地センター</li> <li>○ 地域の教材や学習環境の積極的な活用</li> </ul>
3年	『有明海の生き物を調べよう』 干潟観察を通して有明海の生き物に関心をもち、漁師さんのお話や資料から有明海の生き物を調べ、まとめる。まとめたことを4校で交流し、「生物はそれぞれに適した環境の中で生活している（生物多様性）」ことを学ぶ。									
4年	『有明海の環境を調べよう』 有明海のごみについて関心をもち、元三池海水浴場のごみを調査、分別して、浮遊ごみが多いことをまとめる。まとめたことを4校で交流し、「浮遊ごみが海に流れ、ごみのたまり場となっている」ことを学ぶ。									
5年	『有明海と人とのつながりを調べよう』 有明海を中心とした海洋が人に与える影響に関心をもち、令和2年7月豪雨が海洋温暖化によってもたらされていることを調べ、まとめる。また、被災の視点で校区の危険箇所等について調べ、防災マップにまとめ、4校で交流する。									
6年	『有明海とともに生きるために』 有明海の漁獲量が減少していることに関心をもち、海洋の無機質化について調べ、まとめる。まとめたことから自分が行動できることを考え、グループで実施案を練り、実行する。そして、実行したことを4校で交流する。									

**教材化の工夫**

- 地域の教育資源の活用
  - ・地域のひと・もの・ことに進んでかかわりを持つため、校区周辺の自然や人材・行事などの学習素材を調査し整備する。
  - ・総合的な学習の時間や諸行事に協力・支援できる人材を募り整理する。
- 教材化の視点
  - ・各教科や道徳、特別活動との関連から地域のひと・もの・ことへ子どもの課題意識がつながるよう教材化する。
  - ・各教科等で得た知識や技能を総合的に発揮できるように教材化する
  - ・人や自然とのふれあいや道徳などで培った心情をさらに深めるよう教材化する。

※『世界文化遺産「三池港」と有明海を学ぶ会』との連携をとる。

**問題解決的な学習過程**

- 「課題をつかむ」段階
  - ・教科学習の発展として
  - ・行事などへの主体的なかかわりから
  - ・生活の中の気づきから
  - ・様々な体験から
- 「計画・追究する」段階
  - ・どこで、どのような方法で調べるか
  - ・だれに、どのようにして伝えるか
- 「まとめ・表現する」段階
  - ・分かったことや感想を自分の言葉でまとめる。
  - ・まとめたことをもとに交流する。
  - ・活動をふりかえり、見直す。

※ 体験活動を適切に位置づける。

※ 言語活動の充実を図る。

**指導方法・指導体制の工夫**

- 教師の適切な指導
  - ・児童生徒の学習状況に応じた適切な指導
- 学習形態の工夫
  - ・学年の枠を超えた学年での取組
  - ・学年の枠を超えた異学年での取組
  - ・課題別グループによる取組
  - ・表現方法別グループによる取組
- 指導体制の工夫
  - ・G Tの活用『世界文化遺産「三池港」と有明海を学ぶ会』との連携
  - ・T Tの活用（学年での連携、担任外教職員との連携）
- 学習環境の工夫
  - ・活動内容による場の設定の工夫（ランチルーム、体育館等）
  - ・調べ学習に対応できる学校図書館の資料の整備・充実化
  - ・調べ学習やまとめの学習で使用できるコンピュータソフトの整備・充実化
- 評価の工夫
  - ・自己評価、相互評価

※総合的な学習における評価方法等の工夫改善

令和2年度		海洋教育年間指導計画											
学年	単元名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
3年生	有明海の生き物を調べよう	関連等											
		海を知る 海に親しむ											
4年生	有明海の環境を調べよう	関連教科・学習等											
		海を守る 海に親しむ											
5年生	有明海と人とのつながりを調べよう	関連教科・学習等											
		海を活用する 海に親しむ											
6年生	有明海とともに生きるために	関連教科・学習等											
		海を活用する 海に親しむ											

「有明海の生き物を調べよう」

- ①干潟を観察し、たくさんの生き物がいることを知る。
- ②有明海の海中の生き物について調べる。
- ③調べたことをまとめ、4校で交流する。
- ④4校で調べたことをまとめ、ポスター等で発信する。

社会「暮らしのくらし」地域にのこる年中行事

「有明海の環境を調べよう」

- ①元三池海水浴場のごみを調べ、清掃する。
- ②ごみを分別し、種類や量をまとめる(浮遊ごみが多い)。
- ③まとめたことを、4校で交流する。
- ④ごみが海に溜まっていることから、ポイ捨てをしないことなどを呼びかけるポスターを作成し、発信する。

社会「暮らしのくらし」地域にのこる年中行事

「有明海と人とのつながりを調べよう」

- ①令和2年7月豪雨の原因を調べる。
- ②減災の視点で、校区の危険箇所や自助に必要な事柄について調べる。
- ③調べたことをまとめ、4校で交流する。
- ④リーフレット等を作成し、地域に発信する。

社会「暮らしのくらし」地域にのこる年中行事

「有明海とともに生きるために」

- ①海洋の温暖化など、地球上の諸課題とその対応について調べる。
- ②漁師さんの話から、漁獲量が減少していることや、その原因について調べ、自分たちができることを考える。
- ③考えたことをまとめ、4校で交流する。
- ④自分たちができることを実行する。

社会「暮らしのくらし」地域にのこる年中行事

社会「暮らしのくらし」水はどこから

社会「暮らしのくらし」水はどこから

社会「暮らしのくらし」水はどこから

・近代化遺産見学  
・海洋教育学習交流会(合同)

社会「暮らしのくらし」水はどこから

社会「暮らしのくらし」水はどこから

社会「暮らしのくらし」水はどこから

社会「暮らしのくらし」水はどこから

社会「暮らしのくらし」水はどこから

社会「暮らしのくらし」水はどこから

社会「暮らしのくらし」水はどこから

社会「暮らしのくらし」水はどこから

社会「暮らしのくらし」水はどこから

社会「暮らしのくらし」水はどこから

社会「暮らしのくらし」水はどこから

関係法令等 ○日本国憲法 ○教育基本法 ○学校教育法 ○海洋基本法 ○海洋基本計画 ○福岡の教育ビジョン	学校の教育目標 共に未来を築く、心豊かで、かしこくたくましい子どもの育成	児童生徒の実態 ・学力は全国の平均点を下回っている。 ・相手意識が少ない ・実体験が乏しい ・素直である ・自主性、主体性がやや不足
	本年度の重点目標 思考力・表現力の向上を図る学習活動の充実 「多面的に考え、相互に対話できる子どもを育てる」 必然性のある学習課題で、主体的に協働的に学ぶ子どもを育てる	地域の特徴 ・豊かな有明海がある。 ・県をまたぎ約24kmの長さをもつ2級河川諏訪川がある。
	海洋教育のねらい 海洋教育は、海洋と人間の関係についての国民の理解を深めるとともに、海洋環境の保全を図りつつ国際的な理解に立った平和的かつ持続可能な海洋の開発と利用を可能とする知識、技能、思考力、判断力、表現力を有する人材の育成を目指す。この目的を達成するために、海洋教育は、海に親しみ、海を知り、海を守り、海を活用する学習を推進する。	

本年度の重点目標 ○ 宝の海である「有明海」や世界遺産である「三池港」に関心を持ち、課題を意欲的に解決できる子どもを育てる。 ○ 自分の問いをもち、課題に対して多面的に考えたり、様々な事物・事象を関係づけながら学習を進め、他者と対話しながら思考を深める子どもを育てる。
--

各学年の海洋教育の内容	
3年	○見つけたよ 海の生き物！ 干潟観察活動を通して、干潟の楽しさを感じたり、生き物に興味を持ったりして、生き物調べを行う。さらに、環境と生き物を関係づけ、図鑑等を作成し、有明海と環境について全校児童に伝える。
4年	○つながろう つなげよう わたしたちと諏訪川と有明海 諏訪川でのカヌー体験や水質検査を通して、地域の諏訪川や有明海の問題を知る。さらに、生活排水と河川環境を関係づけながら自分達ができることを考え、地域を呼びかける。
5年	○有明海と人の関わりを調べよう 世界遺産「三池港」の成り立ちや役割調べを通して、三池港のよさを見いだす。さらに、水産資源の減少と海洋における輸出入などの運輸を関係づけながら自分達ができることを考え、地域や全校児童に呼びかける。
6年	○海と人との共生 有明海の沿岸部開発の調査を通して、大牟田と海とのつながりを調べる。さらに、沿岸部開発と環境を関係づけながら、海と人が共生できる大牟田のまちづくりや自分ができることを考え、地域や東京大学で呼びかける。

各教科	特別活動	道徳	総合
【国語】 ・海や川に関する本を読んだり、辞典を使って調べたりする力を育てる。 【算数】 ・長さや量などの数量的な見方の向上を図る。 【社会】 ・社会的事象の特色や相互の関わりについて考える力を高める。 【理科】 ・実体験を伴う活動を通して、生物と環境のかかわりについての見方や考え方を養う。	・話し合い活動で、自分の考えを適切に表現したり、効果的な発表をしたりする力を養うとともに、友達の意見を正しく理解する力を養う。 ・身の回りの安全や防災について知り、自分や他の生命を尊重し、危険を予測し日常生活を安全に保つために必要な事項を理解する。	【低学年】 生命を大切にすることや、郷土の自然に愛着をもつ。 【中学年】 生命の尊さを感じ取り、生命あるものを大切にしたり、自然を大切にすることや、自然を大切にすることや、自然の偉大さを知り、自然環境を守ろうとする態度を養う。 【高学年】 生命がけがれのないものであることを知り、自他の生命を尊重することや、自然の偉大さを知り、自然環境を守ろうとする態度を養う。 【共通】 自分たちの住む郷土を愛する心情を養う。	【学習方法に関して】 課題解決に必要な情報を収集、整理し、分析する力を高める。 【自分自身に関すること】 様々な社会的事象と自分達の生活を関係づけながら思考する力を高める。 【他者や社会との関わりに関すること】 友達等と共同して課題を解決しようとする力を高めたり、学校や地域の活動に積極的に参加しようとする態度を養う。 【自己の生き方】 有明海に愛着をもち、海の生物を大切にしたり、自然環境を守っていかうと考えたりする。

地域・家庭との連携
地域・家庭へ海洋教育への理解を図り、学習活動への協力を依頼したり、参加してもらったりして、海洋教育への理解を深める。

他校との連携
天領小学校、天の原小学校、みなと小学校、駿馬小のWGを中心に、連絡・調整しながら活動を計画・実施していく。

令2年度		海洋教育年間指導計画												
学年	単元名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
3年生	見つけたよ 海の生き物！	関連等 海に親しむ 海を知る	有明海の生き物のおもしろさを伝える 天領海祭りを聞こう！ ・合同干潟観察会 ・生き物調べ	有明海の生き物と環境を考えよう。 ・ムツゴロウなどの珍しい生き物の生態 ・ハゼやペンギンなどの身近な生き物の生態 ・生物と環境の関連調べ	生き物と環境をテーマに天領小海祭りをしよう ・生き物図鑑 ・有明海の生き物をモチーフにしたつりゲーム	関連教科・学習等	社会：田「わたしたちのまちのようす」 社会：田「海沿いの仕事」 社会：田「海沿いの仕事」	有明海と有明川 ・調査川の上流から下流までの水質検査 ・生物指標を用いた水質検査 ・生活排水がどれくらい川や海の環境に影響を与えるのかを考える	つながろう！私たちが天領川と有明海 ・ポスター作り ・お手紙作り ・環境安全を呼びかける「川の日」イベント	関連教科・学習等	理科：田「季節と生き物」 理科：田「季節と生き物」 理科：田「季節と生き物」	つながろう！私たちが天領川と有明海		
		関連教科・学習等	社会：田「わたしたちのまちのようす」 社会：田「わたしたちのまちのようす」	社会：田「ふれあいの森」 理科：田「雨の行方」 理科：田「ふれあいの森」 理科：田「季節と生き物」	社会：田「わたしたちのまちのようす」 社会：田「わたしたちのまちのようす」	社会：田「くらしとごみ」 社会：田「くらしとごみ」 理科：田「季節と生き物」	社会：田「くらしとごみ」 社会：田「くらしとごみ」 理科：田「季節と生き物」	社会：田「くらしとごみ」 社会：田「くらしとごみ」 理科：田「季節と生き物」	社会：田「くらしとごみ」 社会：田「くらしとごみ」 理科：田「季節と生き物」	社会：田「くらしとごみ」 社会：田「くらしとごみ」 理科：田「季節と生き物」	社会：田「くらしとごみ」 社会：田「くらしとごみ」 理科：田「季節と生き物」	社会：田「くらしとごみ」 社会：田「くらしとごみ」 理科：田「季節と生き物」		
4年生	つながろう つなげよう 私たちが天領川と有明海	関連教科・学習等	カヌー体験をしよう！	つながろう！私たちが天領川と有明海 ・生き物、植物教室	三池港の成り立ちや外国とのつながりについて知ろう ・三池港出前講座 ・船上からの海洋ゴミ観察	人と海のつながりについて考えよう	人と海のつながりについて考えよう	人と海のつながりについて考えよう	人と海のつながりについて考えよう	人と海のつながりについて考えよう	人と海のつながりについて考えよう	人と海のつながりについて考えよう		
		海を活用する 海を知る	社会：田「季節と生き物」 理科：田「季節と生き物」	社会：田「くらしとごみ」 社会：田「くらしとごみ」 理科：田「季節と生き物」	社会：田「くらしとごみ」 社会：田「くらしとごみ」 理科：田「季節と生き物」	社会：田「くらしとごみ」 社会：田「くらしとごみ」 理科：田「季節と生き物」	社会：田「くらしとごみ」 社会：田「くらしとごみ」 理科：田「季節と生き物」	社会：田「くらしとごみ」 社会：田「くらしとごみ」 理科：田「季節と生き物」	社会：田「くらしとごみ」 社会：田「くらしとごみ」 理科：田「季節と生き物」	社会：田「くらしとごみ」 社会：田「くらしとごみ」 理科：田「季節と生き物」	社会：田「くらしとごみ」 社会：田「くらしとごみ」 理科：田「季節と生き物」	社会：田「くらしとごみ」 社会：田「くらしとごみ」 理科：田「季節と生き物」		
5年生	有明海と人の関わりを調べよう	関連教科・学習等	人と海のつながりについて考えよう	人と海のつながりについて考えよう	人と海のつながりについて考えよう	人と海のつながりについて考えよう	人と海のつながりについて考えよう	人と海のつながりについて考えよう	人と海のつながりについて考えよう	人と海のつながりについて考えよう	人と海のつながりについて考えよう	人と海のつながりについて考えよう		
		海を活用する 海を知る	理科：田「立地を決めて計画しよう」 理科：田「立地を決めて計画しよう」	社会：田「海沿いの仕事」 理科：田「海沿いの仕事」	社会：田「海沿いの仕事」 理科：田「海沿いの仕事」	社会：田「海沿いの仕事」 理科：田「海沿いの仕事」	社会：田「海沿いの仕事」 理科：田「海沿いの仕事」	社会：田「海沿いの仕事」 理科：田「海沿いの仕事」	社会：田「海沿いの仕事」 理科：田「海沿いの仕事」	社会：田「海沿いの仕事」 理科：田「海沿いの仕事」	社会：田「海沿いの仕事」 理科：田「海沿いの仕事」	社会：田「海沿いの仕事」 理科：田「海沿いの仕事」		
6年生	海と人との共生	関連教科・学習等	海と人との共生を考えよう ・地域や市役所の方に町作りを提案する 海洋教育子どもサミット(合同)	海と人との共生を考えよう ・地域や市役所の方に町作りを提案する 海洋教育子どもサミット(合同)	海と人との共生を考えよう ・地域や市役所の方に町作りを提案する 海洋教育子どもサミット(合同)	海と人との共生を考えよう ・地域や市役所の方に町作りを提案する 海洋教育子どもサミット(合同)	海と人との共生を考えよう ・地域や市役所の方に町作りを提案する 海洋教育子どもサミット(合同)	海と人との共生を考えよう ・地域や市役所の方に町作りを提案する 海洋教育子どもサミット(合同)	海と人との共生を考えよう ・地域や市役所の方に町作りを提案する 海洋教育子どもサミット(合同)	海と人との共生を考えよう ・地域や市役所の方に町作りを提案する 海洋教育子どもサミット(合同)	海と人との共生を考えよう ・地域や市役所の方に町作りを提案する 海洋教育子どもサミット(合同)	海と人との共生を考えよう ・地域や市役所の方に町作りを提案する 海洋教育子どもサミット(合同)		
		海を活用する 海を守る	社会：田「新しい時代の取組むべきこと」 社会：田「新しい時代の取組むべきこと」	社会：田「新しい時代の取組むべきこと」 社会：田「新しい時代の取組むべきこと」	社会：田「新しい時代の取組むべきこと」 社会：田「新しい時代の取組むべきこと」	社会：田「新しい時代の取組むべきこと」 社会：田「新しい時代の取組むべきこと」	社会：田「新しい時代の取組むべきこと」 社会：田「新しい時代の取組むべきこと」	社会：田「新しい時代の取組むべきこと」 社会：田「新しい時代の取組むべきこと」	社会：田「新しい時代の取組むべきこと」 社会：田「新しい時代の取組むべきこと」	社会：田「新しい時代の取組むべきこと」 社会：田「新しい時代の取組むべきこと」	社会：田「新しい時代の取組むべきこと」 社会：田「新しい時代の取組むべきこと」	社会：田「新しい時代の取組むべきこと」 社会：田「新しい時代の取組むべきこと」	社会：田「新しい時代の取組むべきこと」 社会：田「新しい時代の取組むべきこと」	





令和2年度		海洋教育年間指導計画										大牟田市立駿馬小学校		
学年	単元名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
3年生	有明海と鹿訪川の生き物を調べよう	関連等												
		海を知る 海に親しむ												
		関連教科・学習等	理科：「こころの不思議」 社会：「わたしたちの国のよさ」											
4年生	クリーンアップ鹿訪川・有明海	海を守る 海に親しむ												
		関連教科・学習等	理科：「環境と私たちの生活」 社会：「環境と私たちの生活」											
5年生	有明海の歴史と産業を調べよう	海を活用する 海に親しむ												
		関連教科・学習等	理科：「環境と私たちの生活」 社会：「日本の工業発展と環境・産業」											
6年生	海や川との共存発掘プロジェクト	海を活用する 海に親しむ												
		関連教科・学習等	理科：「環境と私たちの生活」 社会：「環境と私たちの生活」											



令和2年度		海洋教育年間指導計画							大牟田市立天の原小学校					
学年	単元名	関連等	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
3年生	海や川の生き物のために	海や川に親しむ 関連教科・学習等	総合：天の原校区のいいところを見つけよう	理科：「しげんのかんざつ」 社会：「わたしたちのまちと市」				理科：「動物のすみか」	「海や川の生き物のために」 ・有明海干潟観察 ・野間川生き物調査 ・生き物紹介クイズづくり、校内掲示 ・4校交流学習(200m会議)(10月・11月・3月)					
4年生	海や川の環境のために	海や川を知る、守る 関連教科・学習等	総合：リサイクルの仕組みを調べよう				社会・総合：「環境学習(環境憲法)」 社会：「健康なくらしとまちづくり」		理科：「雨水のゆくえ」 社会：「自然出産にそなえるまちづくり」 社会：「昔から今へと脈々つづき」	「海や川の環境のために」 ・鳴川生き物調査、こみ・水質調査 ・環境保全ホスタづくり ・校区クリーン作戦(ごみ拾い) ・4校交流学習(200m会議)(10月・11月・3月)				
5年生	山・川・海と私たちのために	山・川・海を守る、活用する 関連教科・学習等			理科：「生命のつながり」 社会：「日本の国土とわたしたちのくらし」			理科：「流れる水のほたる」 社会：「水を支える食料生産」	「山・川・海と私たちのために」 ・水田(農業)、源流、開防川調査 ・山(森林)・川・海に関するクイズづくり、校内掲示 ・FMたんと放送(学習の発信) ・4校交流学習(200m会議)(10月・12月・3月)			社会：「国土の自然とどうもに生きる」		
6年生	自然と私たちの未来のために	山・川・海を守る、活用する 関連教科・学習等	総合：大牟田の世界遺産について調べよう		理科：「私たちの生活と環境」「生物どうしの関わり」 理科：「植物の成長と日光・水の関わり」			・近代化遺産見学 ・4校学習交流会	「自然と私たちの未来のために」 ・大牟田市の山(森林)の問題の聴取(環境保全課) ・里地里山見学、間伐体験(夜須高原) ・竹の活用についての提案、竹細工の加工 ・4校交流学習(200m会議)(10月・11月) ・海洋教育こどもサミット(1月：4校合同)			社会：「世界の日本の日本」 理科：「生物と地球環境」		

# 3年

## ストーリーマップ

### 海を知る | 有明海の生き物を調べよう

海 の 時 間	つかむ段階（3時間）	調べる段階（8時間）
	<p>1 校区に面する有明海のことについて、知っていることを出し合う。</p> <p>2 干潟観察でたくさんの生き物と出会い、「諏訪川や干潟、有明海の生き物を調べる」という課題をつくる。</p> <p>知らない生き物がたくさんいるね。他にもいるのか調べてみよう！</p> 	<p>4 有明海の海中にすむ生き物について調べる。</p> <p>漁師さんに有明海の海の中で獲れる魚を教えてもらったよ。フグやヒラメなど、知っている魚もたくさんいるね。他の学校の友だちに教えよう！</p> 
合 同 学 習	<p>3 四校の地域の地理的特徴を基に、調査対象を役割分担する。</p> <p>みなと小学校は海の生き物を調べるんだね。漁師さんに聞いてみよう！</p> 	<p>5 調べたことを交流し、「様々な生き物のことをたくさんの人に発信する」という新たな課題をつくる。</p> <p>面白い生き物がたくさんいるんだね。たくさんの人に知ってもらいたいな。</p> 
	他 教 科 の 関 連	<p>社会科「わたしたちの市のようす」 【教・領 → 内容】</p> <p>○ 大牟田市の西側は有明海に接し、三池港があることを学習している。</p>

### 深める段階（9時間）

- 6 水中の生き物のことをたくさんの人に発信するための方法を考える。
- 7 話し合って決めた方法にしたがって、発信の準備をする。

ボウ



①	「ボウ」の漢字の意味は？
②	「ボウ」の読み方は？
③	「ボウ」の由来は？
④	「ボウ」の歴史は？
⑤	「ボウ」の文化は？

私たちは図鑑を作ったよ。他にも、学校の階段の掲示物や生き物マップ、ポスターをつくって地域の皆さんに生き物のことを知ってもらおう！

### 広げる段階（5時間）

- 8 四校で調べた海の生き物のことについて発信する。

僕たちは四つの学校で調べたことを大きなマップに貼って、学校にかざることにしたよ。どんな生き物がどこにすんでいるか、この地図で知ってもらいたいな。



### 他教科の関連 記号の意味

- ◆ **内容** → 教・領
  - ・学習した内容を教科・領域につなげる
- ◆ **方法** → 教・領
  - ・学習した方法を教科・領域につなげる
- ◆ **教・領** → 内容
  - ・教科・領域で学習した内容を生かす
- ◆ **教・領** → 方法
  - ・教科・領域で学習した方法を生かす

- 9 発信した活動について四校で交流する。

お祭りを開いたりゲームにしたり、いろいろなアイデアで発信しているね。これからの参考にしたいな。



### 社会科「わたしたちのまちのようす」

【教・領 → 方法】

- 絵地図づくりを通して、マップにまとめる手順（方法）を学習している。

### 国語科「つたわる言葉で表そう」

【内容 → 教・領】

- 海洋教育の学習の振り返りを、「伝わる言葉で表そう」の題材にする。

### 3年生「有明海の生き物を調べよう」(25時間)

段階	つかむ段階	調べる段階
配時	3	8
学 習 活 動	<p>1 みなと小学校区に面する有明海のことについて、知っていることを出し合う。①</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・みなと小学校の校区には三池港がある(世界文化遺産)。</li> <li>・有明海で作られる海苔を食べたことがある。</li> <li>・めずらしい生き物がすんでいる。</li> </ul> <p>2 「諏訪川や干潟、有明海の生き物を調べる」という課題をつくる。①</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 有明海や諏訪川には、陸にはいない生態をもつ生き物がたくさん棲息していることを知る(生き物クイズなどを通して)。</li> <li>・身近な川や海には、知らない面白い生き物がたくさんいるんだ。</li> <li>○ 有明海や諏訪川にすむ生き物を調べて、「有明海の生き物博士」になろうという課題をつくる。</li> <li>・生き物がどんな生活をしているか詳しく調べたい。</li> <li>・私たちが生き物のことを調べて、みんなに教えてあげよう。</li> </ul>	<p>4 有明海の中にすむ生き物について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ GTから有明海にすむ生き物について教えてもらおう。②</li> </ul> <p>※ GTとしては「有明海を学ぶ会」の柿川さんや三里漁業協同組合の荒木さんが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・海と違って海の底や浜辺、海の水と川の水が混ざったところなど、生き物によってすむ場所が違っている。詳しく調べてみよう。</li> <li>○ 有明海の中や汽水域にすむ生き物について調べ進める。④</li> </ul> <p>(例) エツ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・他の魚に比べ、平べったい魚。プランクトンを食べて成長する。</li> <li>・きれいな海ではなく、川から運ばれる泥などでにごった海を好む。</li> <li>・川で産卵するが、卵が塩分濃度の高い海域に流れると死んでしまう。</li> <li>・孵化した稚魚は汽水域で成長し、海水域に移動する。</li> <li>・食用として獲られていたために、一時期絶滅しかけていた。</li> </ul>
	<p>【四校合同】</p> <p>3 四校の地域の地理的特徴を基に、調査対象を役割分担する。①</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・みなと小学校：有明海の海中             <ul style="list-style-type: none"> <li>→ノリ、エツ、コノシロ など</li> </ul> </li> <li>・天領小学校：有明海の汽水域、有明海の干潟             <ul style="list-style-type: none"> <li>→トビハゼ、ワラスボ、ムツゴロウ など</li> </ul> </li> <li>・駛馬小学校 天の原小学校：諏訪川の川辺             <ul style="list-style-type: none"> <li>→シロハラコガゲロウ、コガタシマトビケラ など</li> </ul> </li> </ul>	<p>【四校合同】</p> <p>5 四校で調べたことを交流し、生き物についてあまり知られていないという事実から、発信するという新たな課題をつくる。②</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 四校でそれぞれ調べた生き物の生態について交流する。</li> <li>・同じ水の中の生き物でも、好んでいる環境が全く違うんだね。</li> <li>○ 有明海やその周辺の川辺にたくさんさんの種類の生き物がいるということを発信するという、新たな課題をつくる。</li> </ul>

大牟田市立みなと小学校 「海の時間」 カリキュラム

段階	深める段階	広げる段階
配時	9	5
学 習 活 動	<p>6 有明海やその周辺の川にすんでいる生き物を発信するための方法を話し合う。②</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ポスターを作って公民館などに貼ってもらおう。</li> <li>・絵本や図鑑を作って低学年のみんなに読んでもらおう。</li> <li>・大きな「生き物マップ」を作って、学校に掲示しよう。</li> </ul> <p>7 話し合ったことを基に、表現物を作成する。⑦</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ポスターに描く絵と言葉話し合おう。</li> <li>・絵本の物語の流れを考えよう。</li> <li>・生き物マップに載せる内容を考えよう。</li> </ul> <p>※ 4校で調べたことが掲載できるように、それぞれの学校で調べたことをデータ化して4校それぞれに共有しておく。</p>	<p>8 有明海の中での生き物について地域などに呼びかける。③</p> <p>※ 「うみまつり」や学習発表会の機会が発信することも考えられる。その際、天領小学校と天の原小学校が作成した表現物を共有して、一緒に発信することが望ましい。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>【四校合同】</p> <p>9 それぞれの学校で発信したことを交流し、その良さを共有する。①</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習参観で他の学年のおうちの人もポスターを配るの面白い方法だね。4年生のときの参考にしよう。</li> </ul> </div> <p>10 これまでの学習を振り返り、まとめる。①</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・知らなかった生き物のことについて知れてよかった。</li> <li>・生き物にはそれぞれしやすい環境があることが分かったから、その環境をこわさないようにしなければいけない。</li> </ul>



【生き物マップの例：4校で調べてデータ化したものを印刷して作成】

# 4年

## ストーリーマップ

### 海を守る | 有明海の環境を調べよう

海の時間	つかむ段階 (2時間)	調べる段階 (8時間)
	<p>1 有明海の生き物のことについて、知っていることを出し合う。</p> <p>2 海洋のプラスチックごみが問題になっているという話題から「有明海のごみについて調べる」という課題をつくる。</p> <p>僕たちは海にごみを捨てたりしないよ。本当に海にはごみがあるのかな。実際に調べてみよう。</p> 	<p>4 元三池海水浴場のごみの量や種類を調べる。</p> <p>びっくりするくらいたくさんのごみがあったね。分別してみると、ペットボトルなど水に浮かぶごみが多いみたいだ。</p>  
合同学習	<p>3 四校の地域の地理的特徴を基に、調査対象を役割分担する。</p> <p>みなと小学校は海岸のごみを調べるんだね。本当にごみはあるのかな。</p> 	<p>5 四校で調べたことを交流し、ごみが海に与える影響について発信するという新たな課題をつくる。</p> <p>上流のほうは浮かぶごみが少ないよ。川の上流のごみが海に流れているんだ。</p> 
	他教科の関連	<p>海の時間「有明海の生き物を調べよう」 【教・領 → 内容】</p> <p>○ 有明海には多様な生物が、それぞれに適した環境の中で生活していることを学習している。</p>



### 深める段階（10時間）

- 6 海の環境を守ることを呼びかける方法を話し合う。
- 7 話し合ったことを基に、表現物を作成する。



川と海がつながっていること、ごみが流されていることを表した絵にするべきだね。

### 広げる段階（5時間）

- 8 有明海的环境を守ることを地域に呼びかける。



たくさんの種類のポスターが完成したよ。お店や公民館、公園など、たくさんの人が集まるところに貼ってもらって、たくさんの人に見てもらえるようにしよう。

### 他教科の関連 記号の意味

- ◆ **内容** → 教・領  
・学習した内容を教科・領域につなげる
- ◆ **方法** → 教・領  
・学習した方法を教科・領域につなげる
- ◆ **教・領** → 内容  
・教科・領域で学習した内容を生かす
- ◆ **教・領** → 方法  
・教科・領域で学習した方法を生かす

- 9 それぞれの学校で発信したことを交流し、その良さを共有する。

ポスターだけでなく、いろいろな方法で発信していたね。これからの参考にしよう。



### 理科「雨水のゆくえ」

【教・領 → 内容】

- 水が地表を流れて川から海へと流れ込んでいることを学習している（川と海がつながっていることを知っている）。

### 社会科「福岡県と外国とのつながり」

【内容 → 教・領】

- 環境の視点から学習した地域のつながりを広げ、海を介した県全体、世界とのつながりを考える。

## 4年生「有明海の環境を調べよう」(25時間)

段階	つかむ段階	調べる段階
配時	2	8
学 習 活 動	<p>1 有明海の生き物のことについて、知っていることを出し合う。①</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・有明海にしかない珍しい生き物が棲んでいる（前学年の知識）。</li> <li>・人間の生活の影響で絶滅しかけていている生き物もある（前学年の知識）。</li> </ul> <p>2 「有明海のごみについて調べる」という課題をつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 世界の海では海のごみが問題になっているということを知る。</li> <li>・ビニール袋など自然に還らないごみや、網などの漁具が海の生き物の生活に悪い影響を与えているんだな。</li> <li>・マイクプラスチックを魚が食べて、その魚を人間が食べることで、人間にも悪い影響を与えているんだな。</li> </ul> <p>※ ユネスコが作成している動画を視聴させることも考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自分たちに身近で珍しい生き物の棲む有明海にはごみの問題が無い か調べるという課題をつくる。</li> <li>・世界の海と同じように有明海にもごみ問題があるのか調べてみよう。</li> </ul>	<p>4 元三池海水浴場のごみの量や種類を調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 地域の人と一緒に元三池海水浴場の清掃活動を行う。④</li> </ul> <p>※ 保護者や地域の方に清掃活動への参加を広く呼びかける(子どもの見守りを兼ねて)。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・いろいろな種類のごみがたくさん落ちているね。やっぱり、海水浴場で捨てられたごみだけではないみたいだ。</li> <li>○ ごみを持ち帰って分別し、それぞれのごみの量と種類を調べる。②</li> </ul> <p>(例) 海のごみの量と種類</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・浮遊ごみ (ペットボトル、空き缶)</li> <li>→量がとても多い(様々なところから流れてきてしていると推測できる)</li> <li>・花火の燃えかす、漁具</li> <li>→量は少し(現地で捨てられたごみだと推測できる)</li> </ul>
<p>【四校合同】</p> <p>3 四校の地域の地理的特徴を基に、調査対象を役割分担する。①</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 海のごみは、海に直接捨てられるものと、川から海に流れ込むものがあるのではないかとこの予想を立て、調べる場所を分担する。</li> <li>・みなと小学校：元三池海水浴場（沿岸部）</li> <li>・天領小学校：三池堰（河口部）</li> <li>・馳馬小学校 天の原小学校：諏訪川周辺（上流部）</li> </ul>		<p>【四校合同】</p> <p>5 四校で調べたことを交流し、ごみが海に与える影響について発信するという新たな課題をつくる。②</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 四校でそれぞれ調べたごみや水質の問題について交流する。</li> <li>・世界と同じようにごみの問題があるね。水質の問題もあるんだ。</li> <li>○ ごみのポイ捨てなどを防ぐために呼びかけるという新たな課題をつくる。</li> </ul>

段階	深める段階	広げる段階
配時	10	5
学 習 活 動	<p>6 海の環境を守ることを呼びかける方法を話し合う。②</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・効果があるもので、実際に自分たちに行なうことができることに取り組まなくはないね。</li> <li>・ポスターを作ったところを呼びかけてみてみようかな。</li> </ul> <p>7 話し合ったことを基に、ポスターを作成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ ポスターの図柄と文言を考え、意見交流して決定する。②</li> <li>・川から海へとごみが流れている絵がいいね。</li> <li>・海と川の間をつなぐ言葉を言葉でも表現したいね。</li> <li>○ 決定したことを基に、数種類のポスターを作成する。⑥</li> </ul> <p>※ 基本的な図柄と言葉を決定し、ポスターの種類に応じてグループに分かれ、コピー用紙等にネームペンで図柄と言葉を分けて書かせる。</p> <p>スキヤナで取り込んでデータ化し、図柄と言葉を組み合わせるポスターを作成すると、様々な組み合わせが可能で量産できる。</p> <div data-bbox="981 1691 1181 1971"> </div> <div data-bbox="1189 1691 1388 1971"> </div> <p style="text-align: center;"><b>あなたのせいがかもとどどど海の令</b></p> <p style="text-align: center;"><b>ストップ!</b></p> <p style="text-align: center;">海や川は、ごみすてまらぬかいから</p> <p>【ポスターの作成例：図柄と文言を分けてデータ化し組み合わせることで、様々な種類のポスターとなり、量産が可能になる】</p>	<p>8 有明海の環境を守ることを地域に呼びかける。③</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・イオンやゆめタウンなど、たくさんの方が集まる場所に掲示してもらいたいね。</li> <li>・実際に物を買うスーパーやコンビニエンスストアに掲示すると、捨てはだめだと思ってもらえるよ。</li> </ul> <div data-bbox="646 235 845 1086" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【四校合同】</p> <p>9 それぞれの学校で発信したことを交流し、その良さを共有する。①</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ごみだけでなく、水が汚れていることも発信している学校があったね。次の学年の参考にしよう。</li> </ul> </div> <p>10 これまでの学習を振り返り、まとめる。①</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人間の生活が環境をこわして生き物に影響を与えているから、ごみのポイ捨てなどはいけくないね。</li> <li>・これからも、もっと多くの人に知ってもらいたいな。</li> </ul>

# 5年

## ストーリーマップ

### 海を活用する | 有明海と人の生活を調べよう

海の時間

#### つかむ段階 (2時間)

- 1 有明海のことについて、知っていることを出し合う。
- 2 「有明海の人とのかかわりについて調べる」という課題をつくる。

みなと小学校は7月の大雨で大きな被害を受けたね。海は雲をつくるけど、大雨とも関係があるのかな。



#### 調べる段階 (7時間)

- 4 豪雨を発生させる環境の問題や、7月6日の状況について調べる。

大雨はやはり海の温暖化が関係しているね。また、大雨のときに避難した人が少なかったという課題も分かったよ。



『大雨はなぜふるのか』  
調べました。ステータス  
なせふるのかを予想を立てて原因を調べました。  
原因は? 『線状降水帯』  
大雨の原因  
海の温度が高いでこやすい  
(⇒地球温暖化をへらすためには?)

合同学習

- 3 四校の地域の地理的特徴を基に、調査対象を役割分担する。

みなと小学校は大雨の被害と海の間関係を調べていこう。



- 5 四校で調べたことを交流し、課題を詳しく調べるという新たな課題をつくる。

みなと小学校は、自分や地域の人の安全を守るためにできることを考えていこう。



他教科の関連

社会科「わたしたちのくらしと国土」  
【教・領 → 内容】  
○ 日本各地で気候に違いがあることや、地形などが気候に大きな影響を与えていることを学習している。

理科「天気と情報」  
【教・領 → 内容】  
○ 天気が雲などの気候の要素によって変わることや、西から東に向かって変化していくことを学習している。

### 深める段階（9時間）

- 6 自助、共助意識を高めるために自分たちにできることを考える。
- 7 地域をフィールドワークして危険箇所を調べたり、防災バッグの中身を考えたりする。

水の跡を基に、実際に地域でどれくらい浸水したのか調べてみよう。調べたことをマップまとめて、地域のみなさんに危険箇所を教えてあげることができるね。



### 広げる段階（7時間）

- 8 リーフレット等にまとめ、地域などに呼びかける。



地域の方だけでなく、地元のテレビ局の方とも防災バッグの中身について検討したよ。足下の状況を調べるために、棒になるようなものが必要だと思うな。

### 他教科の関連 記号の意味

- ◆ 内容 → 教・領  
・学習した内容を教科・領域につなげる
- ◆ 方法 → 教・領  
・学習した方法を教科・領域につなげる
- ◆ 教・領 → 内容  
・教科・領域で学習した内容を生かす
- ◆ 教・領 → 方法  
・教科・領域で学習した方法を生かす

- 9 それぞれの学校で発信したことを交流し、その良さを共有する。

防災バッグなど、自分たちの考えが他の学校の友だちにも伝わって良かった。



### 社会科「自然災害とともに生きる」

【内容 → 教・領】

- 豪雨の原因について学習したことを基に、地震などの様々な自然災害へと視野を広げて考える。

### 国語科「伝わる表現を選ぼう」

【方法 → 教・領】

- 場面に応じた適切な発信方法やその具体について学習している。

## 5年生「有明海と人の生活とのつながりを調べよう」(25時間)

段階	つかむ段階	調べる段階
配時	2	7
学	<p>1 有明海のことについて、知っていることを出し合う。①</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生活から出ることが生きたるものに悪影響を与えている(前学年の知識)。</li> <li>・排水が川の水を汚し、生き物に悪影響を与えている(前学年の知識)。</li> </ul> <p>2 「有明海の人とのかかわりについて調べる」という課題をつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 身近な生活のほかにも、人は海を利用して話を話合う。</li> <li>・有明海の特長を生かして海苔の養殖が行われているよ。</li> <li>・輸出や輸入、人の行き来のために有明海とどのように関わっているのか調べるという課題をつくる。</li> <li>○ 四年生から視点を広げ、私たちは有明海とどのように関わっているのか調べるという課題をつくる。</li> <li>→ 四年生までは、「人の生活が、実は海に悪影響を与えている」という人→海の関わりだった。五年生は海が人にもたらすものという、海一人のかかわりで考えていく。</li> </ul>	<p>4 豪雨を発生させる環境の問題や、7月6日の状況について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 海洋の温暖化について調べ、自分たちにはできていることを考える。③</li> <li>・地球が温暖化していることで、海の温度も上がっているんだな。</li> <li>・線状降水帯という激しい雨を降らせる雲が発生しやすくなるんだ。</li> <li>・二酸化炭素を出す量を抑えることが、自分たちにはできることだね。</li> <li>○ 7月6日の状況を調べ、自然災害から自分の身を守るためには自助や共助の意識が必要であることを考える。③</li> </ul> <p>○令和2年7月6日におけるみなと校区の主な状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・みなと小学校は正門前が約1.6mの浸水、校舎1階が65cmの浸水。</li> <li>・校内は停電し、翌日、約120名が自衛隊によって救助された。</li> <li>・メディアによって様々な避難情報が出されていたにもかかわらず午後4時時点(本校はすでに浸水)で校区避難所である本校への避難者は0名であった。</li> </ul>
活	<p>【四校合同】</p> <p>3 四校の地域の地理的特徴を基に、調査対象を役割分担する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ それぞれの校区の産業の様子などに着目し、有明海と人の関わりを考え、調査対象を「三池港の輸送」「森林(林業)」「自然災害」に焦点化して調査を役割分担する。</li> <li>・みなと小学校：漁業を介した海とのかかわり(漁業協同組合)</li> <li>・天領小学校：三池港を介した海とのかかわり(輸送、歴史)</li> <li>・駛馬小学校：石炭を介した海とのかかわり(石炭産業)</li> <li>・天の原小学校：林業を介した海とのかかわり(水質改善、保林)</li> </ul>	<p>【四校合同】</p> <p>5 四校で調べたことを交流し、有明海と人の生活が密接に関わっていることを広く理解した上で、現在では様々な課題があることから、その問題について調べるといって新たな課題をつくる。①</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 四校でそれぞれ調べた人と海との関わりについて交流する。</li> <li>○ それぞれの問題も分かったことから、様々な問題に対して自分たちにはできることを考えるという新たな課題をつくる。</li> </ul>





大牟田市立みなと小学校 「海の時間」 カリキュラム

段階	深める段階	広げる段階
配時	9	7
学	<p>6 自助、共助意識を高めるために自分たちに自分たちができることを考える。②</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・被災した経験を基に、防災バッグに必要な中身を考えて、地域の人たちに発信することで、地域の私たちの安全を守ることができる。</li> <li>・避難するときに危険な箇所を調べておいてマップにまとめたら、地域の人たちは助かるんじゃないかな。</li> </ul> <p>7 地域をフィールドワークして危険箇所を調べたり、防災バッグの中身を考えたりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ グループに分かれて地域をフィールドワークし、浸水高を調べたり危険箇所を確認したりし、地図上にまとめると。</li> <li>④</li> <li>・水が濁っていて地面が見えなくなるから、道路のマンホールや側溝の場所を調べておいたほうがいいね。③</li> </ul>	<p>8 リーフレット等にもまとめ、地域などに呼びかける。⑤</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・防災対策室の方や公民館の方などを意見交流して、更に中身をよりよいものにしたいね。</li> <li>・私たちの考えたことで地域のみなさんの安全を守ることができるとか、意見を聞いてみよう。</li> </ul>
習	<p>【四校合同】</p> <p>9 それぞれの学校で発信したことを交流し、その良さを共有する。①</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・私たちが調べた防災のことだけでなく、石炭や水とのかかわり、運輸などの働きによって、人間は海と深くかかわっているね。</li> </ul>	
活	<p>○ 防災バッグの中身を検討し、まとめると。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・停電したり、避難所まで移動したりしなくてはならないから、懐中電灯や傘などの棒となるものがあるといいね。</li> </ul>	<p>10 これまでの学習を振り返り、まとめると。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①</li> <li>・環境などで海に影響を与えるだけでなく、海を活かした産業や、海から気候の影響も受けているんだね。</li> </ul>
動	 <p>※浸水高は跡が消えてしまうので資料を基に巻き尺をあて、実際の高さを実感させることよ。</p>	

# 6年

## ストーリーマップ

### 海を活用する | 有明海とともに生きるために

海の時間	つかむ段階（2時間）	調べる段階（5時間）
	<p>1 これまで海洋教育で学習してきたことについて振り返る。</p> <p>2 「海とこれからも共生するための行動を考える」という課題をつくる。</p> <p>これまでの海洋教育で学んできたことを基に、自分たちにできることを考えていくなだね。</p> 	<p>4 三里漁業協同組合さんから、漁獲量減少についての話を聞き、自分たちにできることを考える。</p> <p>有明海は濁って栄養豊富だったのに、今は 10m 先まで見渡せるくらい透き通っているんだって。きれいになり過ぎることも問題なんだね。なぜ、きれいになり過ぎてしまったのかな。</p> 
合同学習	<p>3 SDGsの意味を確認し、行動対象を役割分担する。</p> <p>私たちが一緒に課題解決のために取り組むことが、SDGs17の目標のためにもなっているんだね。</p> 	<p>5 四校の途中経過を交流し、実行への意欲を高める。</p> <p>低学年にも分かってもらうためにゲーム化して伝えるという方法は、とてもいいアイデアだね。</p> 
	他教科の関連	<p>海の時間「有明海と人とのつながりを調べよう」 【教・領 → 内容】</p> <p>○ 海洋と人は環境や産業の視点で密接に結び付いていることを学習している。</p>



### 深める段階（10時間）

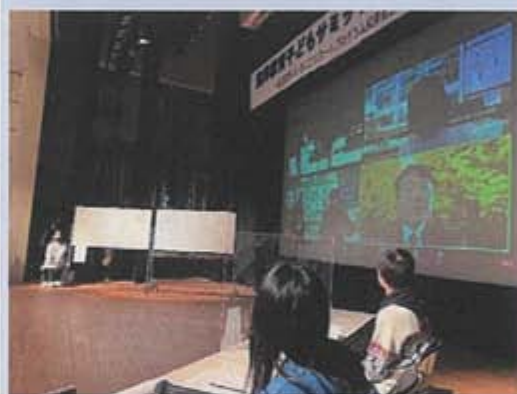
- 6 自分たちにできることを考え、準備したり実行したりする。

募金活動やごみ拾い活動など、自分たちにできることを実行することができたよ。  
また、有明海の問題を知ってもらうために、動画をつくってホームページに載せたり、ポスターやゲームをつくってみんなに知ってもらったりすることもできたよ。  
自分たちにできることがたくさんあるね。



### 広げる段階（8時間）

- 9 みなと小学校で取り組んだ活動について、各所に発信する。



取り組んできたことを「海洋教育こどもサミット2021 in おおむた」や「全国海洋教育サミット」で、様々な方に発信したよ。  
全国の人と交流することで、海洋の問題の共通点や海の違いについて知ることができたね。

### 他教科の関連 記号の意味

- ◆ 内容 → 教・領  
・学習した内容を教科・領域につなげる
- ◆ 方法 → 教・領  
・学習した方法を教科・領域につなげる
- ◆ 教・領 → 内容  
・教科・領域で学習した内容を生かす
- ◆ 教・領 → 方法  
・教科・領域で学習した方法を生かす

### 社会科「世界の人々とともに生きる」

【内容 → 教・領】

- 環境問題等に対して自分たちにできることを実行した考え方をういて、世界の国々との連携について考える。

### 国語科「人を引きつける表現」

【教・領 → 技能】

- 伝えたいことを効果的に表現するための言葉の使い方などを学習している。

6年生「有明海とともに生きるために」(25時間)

段階	つかも段階	調べる段階
配時	2	5
学	<p>1 これまで海洋教育で学習してきたことについて振り返る。①</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な生き物がそれぞれに適した環境で生きている(3年生の知識)。</li> <li>・人の生活で出るごみや排水が悪影響を与えている(4年生の知識)。</li> <li>・産業でも海と密接に関わり、悪影響も与えている(5年生の知識)。</li> </ul> <p>2 「海とこれからも共生するための行動を考える」という課題をつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ これまでの活動を通して認識の基、一人ひとりが行動することの大切さについて話し合う。</li> </ul> <p>→ 「そのときだけ活動しても変わらないこと」を再確認させ、全員で一歩ずつ行動することの大切さを再認識させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 地域の人びととともに、海を守るための活動を考え、実行するという課題をつくる。</li> </ul>	<p>4 三里漁業協同組合さんから、漁獲量減少についての話を聞き、自分たちでできることを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 三味と漁業協同組合さんから、有明海の漁獲量減少の問題と、それに関連する海の変化について話を聞く。②</li> </ul> <p>※ 有明海に関してはこちらが問題である。漁師さんから、実体験として話を聞くことができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 漁協さんのお話から、海の環境変化と影響についてまとめる。②</li> <li>・有明海では、海が汚れていることが問題ではなく、逆に海の水がきれいになり過ぎていることが問題なんだな。</li> <li>・海の変化は私たちが住む陸の開発と大きくかかわっているね。</li> </ul>
活	<p>【四校合同】</p> <p>3 SDGsの意味を確認し、行動対象を役割分担する。①</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ SDGsの目的や内容を確認する(海洋教育で取り組んでいることがSDGsの目的に合致している、というスタンスで)。</li> <li>○ これまでの学習を基に、それぞれの校区の産業の様子や地理的特長に着目して、行動対象を役割分担する。</li> <li>・みなと小学校：漁業協同組合の連携し水産資源を守る活動</li> <li>・天領小学校：港振興室と連携し沿岸部開発を考える活動</li> <li>・駛馬小学校：文化財室と連携し石炭と海の関わりを発信する活動</li> <li>・天の原小学校：森林組合、またはJAと連携し、海への栄養を与えらる役割としての林業の在り方を考える活動</li> </ul>	<p>【四校合同】</p> <p>5 四校の途中経過を交流し、実行への意欲を高める。①</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 四校が調べたことや考えていることを交流する。</li> <li>○ それぞれの視点から行動化することを確認し、連携して行動することへの期待感を高める。</li> </ul>

大牟田市立みなと小学校 「海の時間」 カリキュラム

段階	深める段階	広げる段階
配時	10	8
学 習 活 動	<p>6 自分たちでできることを考え、準備したり実行したりする。⑨</p> <p>※ この段階では、基本的に複数の児童のアイディアを基に実行プランを考えていく。令和2年度は、「地域のごみ拾い」「ポスターやチラシの配布」「植林のための募金活動」「環境問題を訴える動画作成」「低学年が楽しんで環境問題を学べるゲームづくり」が挙げられた。</p> <p><b>【ポスター】</b></p>  <p>4年生と同じく原案を基にデータ化して作成 ペイント機能で着色している</p> <p><b>【ゲーム】</b></p> <p>「人生ゲーム」を参考に、各マスに環境問題や環境を守る取組について書かれている</p>  <p><b>【動画】</b></p> <p>ゴミ拾い活動や節電、学習の様子などをタブレットを用いて撮影し、パワーポイント等で編集している</p> 	<p>9 みなと小学校で取り組んだ活動について、各所に発信する。</p> <p>○ 「海洋教育こどもサミット in 大牟田」や学習発表会、「全国海洋教育サミット」で発信する準備をする。④</p> <p>※ サミットでの発信方法については、天領小学校、天の原小学校と事前に打ち合わせた上で準備を進める。</p> <p>→三校合同を踏まえた上で、個別で発信するか、合同で発信するか</p> <p>○ 「海洋教育こどもサミット in 大牟田」で発信する。③</p> <p>○ 学習発表会で発信する。(時間外)</p> <p>○ 「全国海洋教育サミット」で発信する。(時間外)</p> <p>○ これまでの学習を振り返り、まとめる。①</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分たちの継続した取組が、海をよりよくしていくことに繋がるね。</li> <li>・海の状態が改善されれば、自分たちの生活もよりよくなるんだ。</li> </ul>

# 3年

## ストーリーマップ


### 海を知る | 見つけたよ 海の生きもの

**つかむ段階 (3時間)**

**海  
の  
時  
間**

- 1 干潟見学事前学習会を行い、棲息する生き物について学習する。
- 2 干潟観察会に参加し、干潟で遊ぶ楽しさを感じたり、有明海に棲息する生き物について関心を持ったりする。

知らなかった生き物がいっぱいいるね。生き物のこともっと調べたい！



**調べる段階 (8時間)**

- 4 有明海の干潟に棲息する生き物について調べる。

柿川さんに教えてもらったり、インターネットや図鑑で調べたりして、それぞれの生き物の特徴が分かったよ。他の学校の友だちに教えよう！



**合同学習**

- 3 四校の地域の地理的特徴を基に、調査対象を役割分担する。

天領小学校は干潟の生き物を調べるんだね。インターネットや図鑑が使える！柿川さんにも聞いてみよう！



- 5 調べたことを交流し、「様々な生き物のことをたくさんの人に発信する」という新たな課題をつくる。

面白い生き物がたくさんいるんだね。たくさんの人に知ってもらいたいな。



**他教科の関連**

社会科「わたしたちの市のようす」  
【教・領→内容】

- 大牟田市の西側は有明海に接し、三池港があるということを学習している。

理科「こん虫の育ち方」「植物の育ち方」  
【教・領→内容】

- 生き物によって生活の仕方やエサなど、様々な生態があることを学習している。

国語「気持ちを込めて『来て下さい』」  
【教・領→方法】

- GT等、学校に案内するときの手紙の書き方を知っている。

### 深める段階（7時間）

- 6 干潟の生き物のことをたくさんの人に発信するための方法を考える。
- 7 話し合っただけで決めた方法にしたがって、発信の準備をする。

「海まつり」の時に、干潟の生き物の特徴をまとめた図鑑のようなものを掲示しよう！



### 広げる段階（7時間）

- 8 四校で調べた海の生き物のことについて発信する。

「海まつり」を開いたよ。2年生は楽しんでくれるかな？いろいろなゲームを通して干潟の生き物について知ってもらいたいな！



### 他教科の関連 記号の意味

- ◆ **内容** → 教・領
  - ・学習した内容を教科・領域につなげる
- ◆ **方法** → 教・領
  - ・学習した方法を教科・領域につなげる
- ◆ **教・領** → 内容
  - ・教科・領域で学習した内容を生かす
- ◆ **教・領** → 方法
  - ・教科・領域で学習した方法を生かす

- 9 発信した活動について四校で交流する。

お祭りを開いたりゲームにしたり、いろいろなアイデアで発信しているね。これからの参考にしたいな。



### 国語科「私たちの学校じまん」

【内容→教・領】

- 調べた生き物の中から特徴のある生き物(ムツゴロウなど)を下学年に伝える。

### 国語科「伝わる言葉で表そう」

【内容→教・領】

- 海洋教育の学習のふり返りを「伝わる言葉で表そう」の題材にする。

3年生「有明海・見つけたよ海の生き物！」(25時間)

段階	つかむ段階	調べる段階
配時	3	10
学 習 活 動	<p>1 天領小学校区に面する有明海のことについて知っていることを出し合う。①</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・有明海には三池港がある。</li> <li>・有明海は海苔が有名。</li> <li>・ムツゴロウが住んでいる。</li> <li>・トビハゼが住んでいる。</li> </ul> <p>2 「有明海の生き物を調べて海祭りで紹介する」という課題をつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 生息する生き物や、安全について学習をする。(干潟観察会の事前学習を通して) ①</li> <li>・有明海には知らない多くの生き物があるんだ。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【四校合同】</p> <p>3 三校の地域の地理的特徴を基に、調査対象を役割分担する。①</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・みなと小学校：有明海の海中や汽水域                     <ul style="list-style-type: none"> <li>→ノリ、エツ、コノシロ など</li> </ul> </li> <li>・天領小学校：有明海の干潟                     <ul style="list-style-type: none"> <li>→トビハゼ、ワラスボ、ムツゴロウ など</li> </ul> </li> <li>・天の原小学校：野間川                     <ul style="list-style-type: none"> <li>→シロハラコカゲロウなど</li> </ul> </li> <li>・馳馬小学校：諏訪川の川辺                     <ul style="list-style-type: none"> <li>→コガタシマトビケラなど</li> </ul> </li> </ul> </div>	<p>4 有明海の干潟にすむ生き物について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ GI から有明海にすむ生き物について教えてもらう。③</li> <li>*GTとしては「有明海を学ぶ会」の柿川さんや「荒尾干潟水鳥・湿地センター」の中村館長さんが考えられる。</li> <li>・海と言っても海の底や浜辺、海の水と川の水が混ざったところなど、生き物によって住む場所が違っている。食べ物も違うね。詳しく調べてみよう。</li> <li>○ 有明海の干潟にすむ生き物について調べ進める。⑥</li> </ul> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>(例) ムツゴロウを図鑑で紹介する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・食べ物は藻を食べる。</li> <li>・有明海にしか生息していない貴重な生き物だ。</li> <li>・目がハート色をしているのが特徴だね。</li> </ul> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【四校合同】</p> <p>5 四校で調べたことを交流し、絶滅しかけている種がいるという事実から、その原因を調べるという新たな課題をつくる。①</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 四校でそれぞれ調べた生き物の生態について交流する。</li> <li>・同じ水の中の生き物でも、好んでいる環境が全く違うんだね。</li> <li>○ 調べた生き物の中には絶滅しかけている種もいるという事実から、その理由を調べるという新たな課題をつくる。</li> </ul> </div>

段階	深める段階	広げる段階
配時	7	5
学	<p>6 海中の生き物が絶滅しかけている原因について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 絶滅しかけている原因を予想する。①                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・海に家庭のごみが落ちてきているから、それを食べて死んでしまっている。</li> <li>・以前に比べて、海が汚れている。</li> <li>・アサリの数が減って、海がきれいにならなくなったのではないか。</li> </ul> </li> <li>○ 絶滅しかけている原因について話を聞く。②                     <ul style="list-style-type: none"> <li>* GTとしては「有明海を学ぶ会」の柿川さんや「荒尾干潟水鳥・湿地センター」の中村館長さんが考えられる。</li> <li>・私たちが生活排水に気をつけることが一番大切なことだね。</li> </ul> </li> </ul>	<p>9 有明海の海の生き物の特徴や、絶滅に瀕する問題点、自分達にできることについて低学年に呼びかける。(天領海祭り) ④</p> <p>(例) ムツゴロウ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・目が、ハートなど特徴があるから、模型を作ろう。</li> <li>・絶滅しそうになっていることや、自分たちにはできないことは横造紙にまとめて見てもらおう。ポスターを作るのもいいね。</li> </ul> <p>※ 「うみまつり」や学習発表会の機会が発信することが考えられる。その際、天領小学校と天の原小学校と駒馬小学校が作成した表現物を共有して、一緒に発信することが望ましい。</p>
習	<p>7 絶滅に瀕する原因について調べたことを基に、生き物を守るために自分達にできることを話し合う。②</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生き物を守るために、ゴミを捨てないことが大切だね。</li> <li>・干潟にすんでいる生き物たちのエサになる生き物を増やせばいいんじゃないかな。</li> <li>・低学年にもこのことを伝える必要があるんじゃないかな。</li> </ul>	<p>10 学習の振り返りを行い、自分たちの学習の価値を実感する。①</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ これまでの学習を振り返り、まとめる。</li> <li>・生き物にはそれぞれすみやすい環境があることが分かったから、その環境をこわさないようにしなければいけない。</li> <li>・自分たち人間のことばかり考えていてはいけない。</li> <li>・生き物図鑑を読んでくれている人がいて、うれしかった。質問にも答えることができたよ。</li> <li>・有明海の生き物を実際に見たり、触ったり、捕まえてきて楽しかった。海が好きになったね。</li> <li>・海の環境をまもるために自分たちにはできないことに取り組むことが大切だね。</li> </ul>
動	<p>【四校合同】</p> <p>8 絶滅に瀕する生物の原因について四校で調べたことを交流し、生き物を守るために地域に呼びかけるという新たな課題をつくる。②</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・どの生き物も人間が自分たちのことばかり考えていたから絶滅しかけているんだね。そのこともみんなに伝えよう。</li> </ul>	

# 4年

## ストーリーマップ

### 海を守る | つながろう つなげよう


#### 私たちと諏訪川と有明海

**つかむ段階（5時間）**

**海  
の  
時  
間**

- 1 諏訪川中流域における「カヌー体験」の感想を出し合う。
- 2 諏訪川河口域の「生き物調査」をし、諏訪川河口域の環境を調べるとい課題を設定する。

諏訪川河口域にも多くの生き物がいるね。でも、水は結構濁っているね！



**調べる段階（7時間）**

- 4 諏訪川河口域における「ゴミ調査」「水質調査」などをもとに、生き物に与える影響について考える。

プラスチック・金属・がれきなど、様々な種類のゴミが大量にあったね。生き物たちは棲みにくいんじゃないかな？



**合  
同  
学  
習**

- 3 四校の地域の地理的特徴をもとに、調査対象を役割分担する。

天領小は、諏訪川河口域の環境を調べていくんだね。水質やゴミなどを調べてみよう！



- 5 調べたことを4校で交流し、「川や海的环境を守るためにたくさんの人に発信する」という新たな課題をつくる。

天領小は、自分たちの考えをポスターにしてみよう！



**他教科の関連**

社会科「くらしとごみ」 【教・領→内容】

- ごみを減らしていくために、地域や自治体で行っていることや、自分たちができることを学習している。

社会科「水はどこから」【教・領→内容】

- 水道の水はどこから送られているのか、家庭で使った水はどこに送られているのかを学習している。

国語科「お礼の気持ちを伝えよう」 【教・領域→方法】

- GTとの交流後に送るお礼状の書き方を知っている。



### 深める段階（8時間）

6 川や海を守るために自分たちができることを考え、自分たちの考えを示したポスターを作成する。



川や海をもっときれいにしないといけない！自分たちが出来ることは何だろう？そう、ゴミのポイ捨てをしないよう呼びかけるポスターをつくろう！

### 広げる段階（5時間）

7 川や海を守るための呼びかけをするポスターを校内に掲示したり、近隣のスーパー・コンビニ等において掲示したりしてもらう。

ぼくたちがつくった川や海を守るためのポスターです。店内に貼っていただけませんか？



### 他教科の関連 記号の意味

- ◆ **内容** → **教・領**  
・学習した内容を教科・領域につなげる
- ◆ **方法** → **教・領**  
・学習した方法を教科・領域につなげる
- ◆ **教・領** → **内容**  
・教科・領域で学習した内容を生かす
- ◆ **教・領** → **方法**  
・教科・領域で学習した方法を生かす

8 発信した活動内容について、4校で交流する。

他の学校も、いろんな方法で自分たちの考えを発信しているね。これからの自分たちの活動の参考にしていこう！



### 国語科「パンフレットを読もう」

【教・領→方法】

○パンフレットを読む活動を通して、文章と絵を関連させて表現する方法を学習している。

### 国語科「調べて話そう、生活調査隊」

【内容→教・領】

○校内に発信後の周りの変化を知るためにアンケートなどで調べ、分かったことや考えたことを話す。(題材にする)

4年生「つながるう！つなげよう！私たちと諏訪川と有明海」（25時間）

段階	つかむ段階	調べる段階
配時	5	7
学	<p>1 カヌー体験を行い、諏訪川に興味をもつ。②</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・カヌー体験をした時に、諏訪川にはゴミや洗剤の泡が浮いていた。</li> <li>・干潟観察や自然教室で、昔に比べて生き物が減っていると言っていたな。</li> </ul> <p>2 天領小学校区に面する諏訪川や有明海には、たくさん種類の生物が棲んでいるもの、ゴミの問題があり、生物の生活を脅かしているという事実から、「有明海のごみの問題を調べる」というめあてをつかむ。②</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・環境学習で、人が出すゴミや生活排水によって、川や海が汚れていると学習したけれど、私達の地域はどうか。</li> <li>・地域のゴミがどこから来ているのか、どのような種類のゴミが多いのか詳しく調べてみたいな。</li> </ul>	<p>4 諏訪川河口部付近のゴミの量や種類について調べる。③</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 諏訪川河口部付近のゴミを拾い、分別してゴミの量と種類を調べる。</li> <li>※ マナーアップ作戦との関連を図る。（+行事①）</li> <li>・空き缶やペットボトルが結構多かったな。</li> <li>・人目に付かない草むらの所や人通りが少ない所にゴミがたくさんあった。</li> <li>・やっぱり諏訪川の下流にもゴミがたくさん浮いていた。</li> </ul> <p>5 諏訪川河口部付近の水質について調べる。③</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>※ G.T（ネイチャーガイド柿川先生）の要請も考えられる。</li> <li>・透視度計で図るとどれくらい濁っているかよく分かる。</li> <li>・河口付近は結構濁っていたけれど、中流や上流はどれくらいかな。</li> </ul>
習	<p>【四校合同】</p> <p>3 四校の地域の地理的特徴を基に、調査対象を役割分担する。①</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・みなと小学校：沿岸部（元三池海水浴場）のゴミ調査</li> <li>・天領小学校：諏訪川河口部（三池堰）付近のゴミ及び水質調査</li> </ul> <p>→ 河口部付近の河川の水質の問題から、上流部はどうか天の原小学校に調査の依頼をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・天の原小学校：諏訪川河川部（中流・上流）のゴミ及び水質調査</li> </ul> <p>→ 天領小学校の依頼を受けて、上流部及び中流部の水質調査を行う。</p>	<p>【四校合同】</p> <p>6 四校で調べた事を交流し、ごみが与える影響や生活排水が水質を悪化させる理由を調べるといふ新たな課題を作る。①</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 四校で調べた調査結果について交流する。</li> <li>・海の方に行くほど、川や海に浮いているゴミが多いな。</li> <li>・下流になるほど川の水が汚れているのは、住宅の位置や数と関係があるようだ。</li> <li>○ ゴミが海の影響や生活排水が水質にもたらす悪影響を調べるといふ新たな課題をつくる。</li> </ul>
活		
動		

段階	深める段階	広げる段階
配時	8	5
学 習 活 動	<p>7 ごみや生活排水が生き物にもたらす影響について調べる。⑥</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ ごみや生活排水が生き物に与える影響について資料や GT との交流を用いて調べる。</li> <li>※ GT としては、ネイチャーガイド柿川先生、大牟田市環境保全課が考えられる。</li> <li>・ たったこれだけの食べ残しがこんなに川を汚すとは思っていなかった。</li> <li>・ 私たちが出している生活排水を生き物が棲むことのできる水にするために、こんなにも水が必要とは思わなかったよ。</li> <li>・ 自然の自浄作用があるからそのままで川が汚れていないことも分かったよ。</li> <li>・ 有明海を守るためには、生活排水やゴミに気を付けることも大切だけど、山や森を守ることも大切だとは知らなかったな。山・川・海はつながっているんだね。</li> </ul> <p>8 生活排水や川のゴミが生き物などに与える影響について調べた事をもとに、川の生きもの達を守るために自分達ができることを話し合う。①</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ゴミを捨てないようにしよう。落ちていたら拾いたいな。</li> </ul>	<p>10 川のゴミや生活排水が生き物に与える影響を与えている事や、その解決方法について地域などに呼びかけろ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 呼びかける方法について話し合い、表現物を作成する。④</li> </ul> <p>〈だれに、どこに〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自分達の地域だけでなく、ゴミは川を伝って海に流れてきているから、川の近くのお店や人が集まる公園などに呼びかけよう。</li> <li>・ 大牟田に来る人にもゴミを捨てないで欲しいので駅に呼びかけよう。</li> </ul> <p>〈どんな内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 諏訪川には多くのゴミがあったからゴミを捨てないようと呼びかけよう。</li> <li>・ 諏訪川には、たくさんの洗剤の泡なども見えたから、生活排水を減らしたいね。</li> </ul> <p>〈方法〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 人が足を止めないような場所ならポスターがほしいね。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 地域などに呼びかける（時間外）</li> <li>・ 家庭には詳しい情報を伝えるために、チラシや回覧板などもいいね。</li> <li>○ これまでの学習を振り返り、まとめる。①</li> <li>・ 自分達の生活が海の生き物に大きく関わっていることが分かった。</li> <li>・ 海のことを考えてこれからの自分の生活を行っていくことが大切だ。</li> </ul>
	<p>【四校合同】</p> <p>9 海のゴミや水質が生き物に与える影響について四校で調べた事を交流し、問題解決のために地域に呼びかけるという新たな課題をつくる。</p> <p>①</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 有明海を守るためには、私たちがだけがゴミや生活排水の問題に気を付けても難しいな。</li> <li>・ 保護者の人や、地域の人に伝えないと問題が解決しないと思う。</li> </ul>	

# 5年

## ストーリーマップ


### 海を活用する | 有明海と人の関わりを調べよう

**つかむ段階 (4時間)**

**海  
の  
時  
間**

- 1 近くにある近代化産業遺産「三池港」の  
ことについて、三池港・みなと振興室  
の方から教えてもらう。
- 2 お話しをもとに、三池港と自分たちの  
関わりについて課題を設定する。

まずは、三池港の歴史や役割を調べて  
みたらどうかな？



**調べる段階 (9時間)**

- 4 三池港の役割や、周辺の施設等につい  
て調べる。


三池港って大きい。こんな大きな港が  
100年以上前にできたなんてすごいね。  
三池港ってどうやって作られたんだろ  
う。調べてみたい！



**合  
同  
学  
習**

- 3 四校が調べる対象に重なりが出ない  
ように、調査対象を役割分担する。

三池港を中心とした「運輸」について  
調べてみたら、関わりが分かるかも！？



- 5 調べて分かったことを四校で交流し、  
「三池港の素晴らしさについて多くの人  
に発信する」という新たな課題を作る。

発信の仕方、それぞれの学校で違  
うね。天領小は新聞にまとめてみたらど  
うかな！



**他  
教  
科  
の  
関  
連**

社会科「日本の工業生産と貿易・運輸」  
【教・領→内容】

- 日本の工業生産は、運輸の働きに支えられて成り立っていることを学習している。

社会科「水産業のさかんな地域」  
【教・領→内容】

- 日本の水産業の仕組みを学習している。

### 深める段階（9時間）

6 三池港と人の生活のつながりについて調べて分かったことを、新聞にまとめ発信する準備をする。

三池港は物流の拠点になっているね。また、人の移動にも関わっているし、憩いの場・レジャーの場にもなっていたね。夕日が沈む景色も最高だったね！



### 広げる段階（3時間）

7 三池港の存在が人の暮らしを豊かにしているその素晴らしさを、発信するために壁新聞を掲示する。また、家庭の保護者や地域の人にも発信するために新聞を配る。

三池港の素晴らしさが、多くの人に伝わるといいね！



### 他教科の関連 記号の意味

- ◆ 内容 → 教・領  
・学習した内容を教科・領域につなげる
- ◆ 方法 → 教・領  
・学習した方法を教科・領域につなげる
- ◆ 教・領 → 内容  
・教科・領域で学習した内容を生かす
- ◆ 教・領 → 方法  
・教科・領域で学習した方法を生かす

8 発信したことについて四校で交流し、それぞれの方法の良さを考え、今後の活動に活かす。

地域の人と意見交換した学校もあるんだ！自分たちも取り入れたいね！



### 国語科「みんなが過ごしやすい町へ」

【教・領→方法】

- 調べて分かったことを正確に伝える方法を学習している。

### 国語科「グラフや表を用いて書こう」

【教・領→方法】

- グラフや表の良さや効果を理解し、活用することを学習している。

5年生「有明海と人の生活とのつながり」(25時間)

段階	つかむ段階	調べる段階
配時	4	9
学 習 活 動	<p>1 近くにある近代化遺産「三池港」のことについて、三池港・みなと振興室の方からの話を聞く。②</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 國塚磨さんが大牟田の未来のことを考えて三池港をつくった。</li> <li>・ 三池港には家具ややしらがら、ガソリンなどが運ばれているんだな。</li> <li>・ 三池港はわたしたちのくらしを支えているな。</li> </ul> <p>2 お話をもとに、三池港と自分たちの関わりについて課題をつくる。①</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 有明海にある三池港の役割とわたしたちのくらしとの関わりについて調べ、三池港をみんなに知らせるという課題を作る。</li> <li>・ 三池港がどんな役割があるのか詳しく調べてみたい</li> <li>・ 三池港が使われなくなったら自分たちの生活にも影響が出るかのではないだろうか。</li> <li>・ 三池港の役割や自分たちの生活との関わりについて調べて、みんなに教えてあげよう。</li> </ul>	<p>4 三池港の役割や、周辺施設について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ GTや三池港クルージングから三池港の役割や輸出入、問題点について教えてもらおう。③</li> <li>※ GTとしては港振興課が考えられる。</li> <li>・ 三池港に入ってから船は外国船があり、近くの工場に送られているんだな。送られた後はどんな使い方をするのか調べてみよう。</li> <li>○ 三池港から輸出入された物の行方や三池港の周辺施設などについて調べ進める。⑦</li> </ul> <p>(例) 三池港の周辺施設</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 物流株式会社では、たくさんの国から工業用製品ややしらがらなどを輸入し、近くの工場に運んでいる。→工場で出来た製品は輸出。</li> <li>・ バイオオマース発電所は、輸入したやしらがらを原料に発電している。</li> <li>・ 三池海上保安部→有明海の中で起きる海上の保安と救命</li> </ul>
	<p>【四校合同】</p> <p>3 四校の地域の地理的特徴を基に、調査対象を役割分担する。①</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ みなど小学校：海に起因する自然災害</li> <li>→ 海の自然災害の原因と災害から守るための方法</li> <li>・ 天領小学校：運輸の面から見た三池港の働きと人とのつながり</li> <li>→ 三池港の必要性と家具や石炭の輸入など人と人とのつながり</li> <li>・ 天の原小学校：森林と海の関係や大牟田の森林の様子</li> <li>→ 森林が海に植物性プランクトンを与えている。宅地開発で森林減少</li> <li>・ 駄馬小学校：石炭輸出の歴史。</li> <li>→ 宮原筋と三池港のつながり、大牟田の発展と石炭運輸のかかわり</li> </ul>	<p>【四校合同】</p> <p>5 四校で調べたことを交流し、人の生活と有明海は密接に関わっていることがわかった中で三池港の素晴らしさについて多くの人に発信するという新たな課題をつくる。②</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 四校で調べた人と有明海との関わりについて交流する。</li> <li>・ 有明海は輸出入、森林と様々な関わりがあるんだな。</li> <li>○ 人の生活と有明海の関わりの中で、三池港の素晴らしさを発信しようという新たな課題をつくる。</li> </ul>

大牟田市立天領小学校 「海の時間」 カリキュラム

段階	深める段階	広げる段階
配時	9	3
	<p>6 三池港と人の生活のつながりについて調べて分かったことを、新聞等にまとめ発信する準備をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 三池港の素晴らしさを発信する方法について話し合う。①           <ul style="list-style-type: none"> <li>・方法：新聞・ポスター・リーフレットなど</li> <li>・対象：学校内の人・地域の人。</li> <li>・内容：三池港と人の生活との関わりがわかるように</li> </ul> </li> <li>○ 三池港の素晴らしさを新聞等で表現する。⑤</li> </ul>	<p>7 三池港の存在が人の暮らしを豊かにしているその素晴らしさを知ってもらうために発信する。②</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 校内壁新聞、地域新聞やパンフレットなどを掲示したり、配布したりする。</li> <li>・新聞等を見てももらえるように校内放送で呼びかけをする</li> <li>・他学年の人たちに呼びかけをする。</li> </ul>
学 習 活 動	<p>(例) すげぞ！三池港新聞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・三池港は100年前に作られたが今も輸出入で使われている港である。</li> <li>・三池港に入ってくるものは近くの工場で使われ、また、輸出されて大牟田の産業を支えている。</li> <li>・やがらはバイオオマス発電所に運ばれ、発電。わたしたちの生活に役立っている。</li> </ul>	<p>【四校合同】</p> <p>8 発信したことについて四校で交流し、それぞれの方法の良さを考え、今後の活動に生かす。①</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の人と意見交流した学校もあるから、自分たちも取り入れたいな。</li> <li>・もつと、多くの人たちに三池港の素晴らしさを知ってもらうために、インターネットで紹介する方法もあるんだな。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 三池港の素晴らしさが伝わる内容になっているか見直しをする。①</li> <li>・方法：相手が知りたい（読みたい）と思うものになっているか。 文字・グラフ・挿絵等</li> <li>・内容：運輸、周辺施設との関連、わかりやすさ</li> <li>○ 見直した項目を修正し、よりよい新聞等に作る。②</li> </ul>	

# 6年

## ストーリーマップ


### 海を活用する | 海と人との共生

**つかむ段階 (4時間)**

**海  
の  
時  
間**

- 1 三池港・みなと振興室の出前授業で三池港の歴史・役割を覚えてもらう。
- 2 三池港・沿岸開発と人の共生について調べるとい課題をつくる。

5年生の時より、もっと深く三池港のことについて調べたい。人との関わりについても調べていこう！



**調べる段階 (8時間)**

- 4 国土交通省出前講座・三池港見学、近代化遺産学習等を通して三池港の役割等を詳しく調べる

たくさんの釣り人がいるよ。三池港は物資の運送や人の移動だけでなく、憩いの場・レジャーの場でもあるんだね。



**合同学習**

- 3 四港の地域の地理的特徴をもとに、調査対象を役割分担する。

天領小は、有明海と人との共生について調べていこう！



- 5 調べてきたことを交流し、有明海・三池港と人とのよりよい共生に調べるとい新たな課題をつくる。

有明海・三池港だけでなく、沿岸部開発についても調べていこう！



**他教科の関連**

国語科「私たちにできること」  
【教・領→方法】

- 身の回りにある問題やその解決策について明らかにする方法を学習している。

理科「私たちの生活と環境」  
【教・領→内容】

- 私たちの生活が周りの環境と密接に関わり合っていることを学習している。



### 深める段階（7時間）

6 調べてきたことをたくさんの人に発信する方法を考えたり、発信の準備をしたりする。

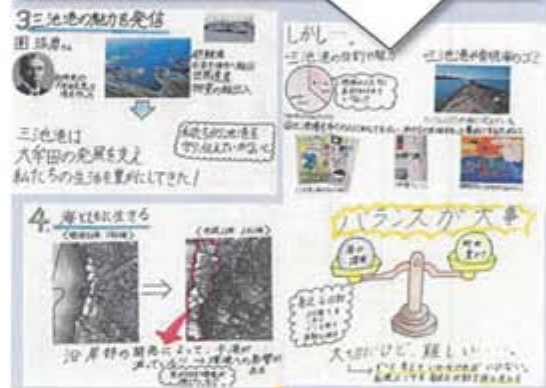
自分たちが調べてきたことを下級生にも伝えよう。そのために三池港の魅力も含めて、ポスターや新聞にまとめて、クラスに配ってみよう！



### 広げる段階（6時間）

7 これまで調べてきて思ったことを下級生に下級生に伝える。

3年生の時から海洋教育をふり返ってみると、人間が自然に色々な影響を与えていたことが分かりました。人間の生活の豊かさばかりを追い求めるのではなく、環境を守っていくことも大切です。そのバランスを取ることが大切なんです！



### 他教科の関連 記号の意味

- ◆ **内容 → 教・領**  
・学習した内容を教科・領域につなげる
- ◆ **方法 → 教・領**  
・学習した方法を教科・領域につなげる
- ◆ **教・領 → 内容**  
・教科・領域で学習した内容を生かす
- ◆ **教・領 → 方法**  
・教科・領域で学習した方法を生かす

8 海洋教育こどもサミット 2021 in 大牟田で九州地区の仲間とも意見の交流を行う。

茶花小、白浜小、天領小の共通点は、それぞれの地域の環境・文化・伝統を守るための取組をしているところだね！



国語科「情報と情報をつなげて伝えるとき」

【教・領→方法】

- 調べたり、集めたりした情報の整理の仕方について学習していることをいやす。

理科「生物と地球環境」

【内容→教・領】

- 海洋教育での学びを地球環境に関する学習につなげる。

6年生「海と人との共生」(25時間)

段階	つかむ段階	調べる段階
配時	4	8
学 習	<p>1 これまで海洋教育で学習してきたことについて振り返る。①</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な生き物がそれぞれに適した環境で生きている。</li> <li>・人の生活で出るごみや排水が悪影響を与えている。</li> </ul> <p>2 三池港・みなと振興室の方々から三池港についての話を聞く。①</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 世界遺産である三池港の歴史や役割についての話を聞き、三池港の魅力について再認識させる。</li> </ul> <p>3 「三池港・沿岸部開発と人との共生」について調べるといふ課題をつくる。①</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 明治36年と平成23年の地図を比較し、沿岸部の開発によって生活は豊かになった反面、海への悪影響もあることに気付かせ、沿岸部の開発と海の豊かさのバランスについて考えるところを確かむ。</li> </ul>	<p>5 三池港の役割等を詳しく調べる。⑥</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 国土交通省出前講座・近代化遺産見学を通して、三池港が果たす役割等を詳しく調べる。</li> <li>・三池港は今でも私たちがの生活に関わる物資を輸出入したり、災害時の船の避難港として利用したりしている。</li> <li>・三池港は、物資の運送や人の移動だけでなく、大牟田市民の憩いの場・レジャーの場でもある。</li> <li>・有明海の水中には、たくさんのゴミが沈んでいる。</li> <li>・三池港を訪れる人が年々減ってきている。たくさんの人に三池港の魅力を知ってもらおうために私たちにできる取り組みを考えていく必要がある。</li> <li>・有明海の環境を守っていくための取り組みについても同様に考えていく必要がある。</li> </ul>
活 動	<p>【四校合同】</p> <p>4 SDGsの意味を確認し、行動対象を役割分担する。①</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ SDGsの目的や内容を確認する(海洋教育で取り組んでいることがSDGsの目的に合致している、というスタンスで)。</li> <li>○ これまでの学習を基に、それぞれの校区の産業の様子や地理的特長に着目して、行動対象を役割分担する。</li> <li>・みなと小学校：漁業協同組合と連携し水産資源を守るために活動</li> <li>・天領小学校：港振興室と連携し沿岸部開発の持続可能性を考える活動</li> <li>・天の原小学校：森林組合、またはJAと連携し、海への栄養を与える役割としての林業の在り方を考える活動</li> </ul>	<p>【四校合同】</p> <p>6 四校の途中経過を交流し、実行への意欲を高める。②</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 四校が計画したプランや地域との協議の経過を交流する。</li> <li>○ 「水産面」「開発面」「森林保全面」から大きく動き出すことを確認し、連携して行動することへの期待感を高める。</li> </ul>

大牟田市立天領小学校 「海の時間」 カリキュラム

段階	深める段階	広げる段階
配時	7	6
学 習 活 動	<p>7 調べたことを発信するための方法を考えたり、発信の準備をしたりする。            ⑦ ○ 自分たちがこれまでに調べてきたことを「誰に」「どのような方法で」発信していくのかを考えたり、発信の準備をしたりする。</p> <p>〈例〉三池港の魅力を伝えるための取り組み            (誰に) 下級生や大牟田市内の人々            (方法) ・ポスターの作成 ・新聞にまとめて配布            ・三池港について PR する動画の作成            ・三池港の模型を作って、紹介する。            ・パンフレットを作成・配布</p> <p>〈例〉有明海を守るための取り組み            (誰に) 下級生や大牟田市内の人々            (方法) ・ポスターの作成・呼びかけ            ・新聞にまとめて配布</p>	<p>8 天領小学校で取り組んだ活動について、各所に発信する。            ○ 「海洋教育こどもサミット in 大牟田」や「全国海洋教育サミット」、下級生などへ発信する準備をする。①            ※ サミットでの発信方法については、天領小学校、天の原小学校と事前に打ち合わせた上で準備を進める。            →三校合同を踏まえた上で、個別で発信するか、合同で発信するか</p> <p>○ 「海洋教育こどもサミット in 大牟田」で発信する。③            ○ 「全国海洋教育サミット」で発信する。(時間外)            ○ 下級生や大牟田市内の人たちへ向けて発信する。①+ (時間外)</p> <p>○ これまでの学習を振り返り、まとめる。①            ・自分たちの継続した取組が、海をよりよくしていくことに繋がるね。            ・海の状態が改善されれば、自分たちの生活もよりよくなるんだ。</p>

# 3年

## ストーリーマップ

### 海を知る | 有明海と諏訪川の生き物を調べよう

海の時間

#### つかむ段階 (3時間)

- 1 校区にある世界文化遺産「宮原坑」と諏訪川の先にある有明海のことについて、知っていることを出し合う。
- 2 干潟観察でたくさんの生き物と出会い、「諏訪川や干潟、有明海の生き物を調べる」という課題をつくる。

めずらしい生き物がたくさんいるね。他にもいるのか調べてみよう！



#### 調べる段階 (8時間)

- 4 諏訪川の支流「鳴川」にすむ生き物について、実際に行って調べる。

柿川さんに鳴川にすむ魚を教えてもらったよ。オイカワやカダヤシなど、初めて見た魚もたくさんいるね。他の学校の友だちに教えよう！



- 3 四校の地域の地理的特徴を基に、調査対象を役割分担する。

駿馬小学校は諏訪川を調べるんだね。ネイチャーガイドの柿川さんや大牟田生物愛好会の嶋田さんに聞いてみよう！



- 5 調べたことを交流し、「様々な生き物のことをたくさんの人に発信する」という新たな課題をつくる。



生き物にも自分の住み家があるんだね。いろんな生き物がたくさんいたよ。みんなに教えたいな。

他教科の関連

社会科「わたしたちの市のようす」

【教・領 → 内容】

- 大牟田市の西側は有明海に接し、諏訪川が有明海に流れていることを学習している。

理科「こん虫の育ち方」「植物の育ち方」

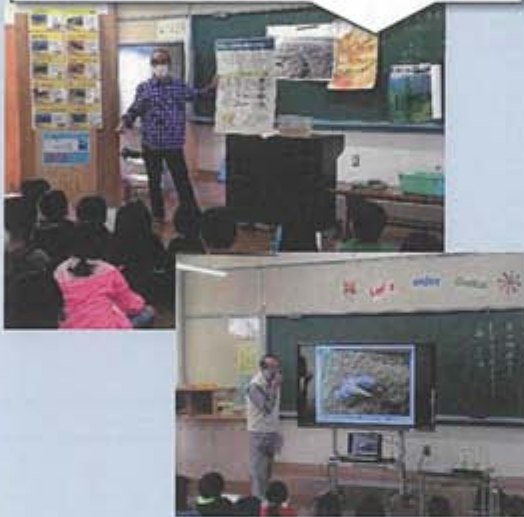
【教・領 → 内容】

- 生き物によって生活の仕方や餌など、様々な生態があることを学習している。

### 深める段階（7時間）

- 6 水中の生き物のことをたくさんの人に発信するための方法を考える。
- 7 話し合っただけの方法にしたがって、発信の準備をする。

生き物マップを作ることにしたよ。わからないことは GT の嶋田さんや柿川さんに聞いてみよう。



### 広げる段階（7時間）

- 8 四校で調べた海の生き物のことについて発信する。



よ。私たちは生き物マップを作ったよ。公民館に掲示して地域の皆さんにも生き物のことを知ってもらおう。



「すわ川ランド」をひらいて1年生に生き物の紹介クイズをしたよ。

### 他教科の関連 記号の意味

- ◆ **内容 → 教・領**  
・学習した内容を教科・領域につなげる
- ◆ **方法 → 教・領**  
・学習した方法を教科・領域につなげる
- ◆ **教・領 → 内容**  
・教科・領域で学習した内容を生かす
- ◆ **教・領 → 方法**  
・教科・領域で学習した方法を生かす

- 9 発信した活動について四校で交流する。



1年生に生き物クイズをだしたり、生き物マップを公民館に掲示したりして、地域の人にも発信したよ。他校の皆さんも参考にしてくださいね。

### 社会科「わたしたちのまちのようす」

【教・領 → 方法】

- 絵地図づくりを通して、マップにまとめる手順（方法）を学習している。

### 国語科「つたわる言葉で表そう」

【内容 → 教・領】

- 海洋教育の学習の振り返りを、「伝わる言葉で表そう」の題材にする。

### 3年生「有明海と諏訪川の生き物をしらべよう」(25時間)

段階	つかむ段階	調べる段階
配時	3	8
学 習 活 動	<p>1 校区にある世界文化遺産「宮原坑」と有明海のことについて、知っていることを出し合う。①</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 駛馬小学校の校区には宮原坑がある (世界文化遺産)。</li> <li>・ 給食で有明海産の海苔を食べたことがある。</li> <li>・ めずらしい生き物がすんでいる。</li> </ul> <p>2 干潟観察でたくさんさんの生き物と出会い、「諏訪川や干潟、有明海の生き物を調べる」という課題をつくる。①</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 有明海や諏訪川には、陸にはいない生態をもつ生き物がたくさん棲息していることを知る (生き物クイズなどを通して)。</li> <li>・ 身近な川や海には、知らない面白い生き物がたくさんいるんだ。</li> <li>○ 有明海にすむ生き物を調べて、身近な諏訪川の生き物にも調べて、駛馬生き物マスタ―」になるうという課題をつくる。</li> <li>・ 生き物がどんな生活をしているか詳しく調べたい。</li> <li>・ 私たちが生き物のことを調べて、みんなに教えてあげよう。</li> </ul> <p>【四校合同】</p> <p>3 四校の地域の地理的特徴を基に、調査対象を役割分担する。①</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ みなと小学校：有明海の海中や汽水域→ノリ、エツ、コノシロ など</li> <li>・ 天領小学校：有明海の干潟 →トビハゼ、ワラスボ、ムツゴロウ など</li> <li>・ 駛馬小学校：諏訪川の川辺 →カワムツ、スジエビ、ドンコ、ドジョウなど</li> <li>・ 天の原小学校：諏訪川の川辺 →シロハラコカゲロウ、オイカワ、カダヤシ など</li> </ul>	<p>4 諏訪川の支流「鳴川」にすむ生き物について、実際に行って調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ GT から諏訪川の支流鳴川にすむ生き物について教えてもらおう。②</li> <li>※ GT：ネイチャースクール和川さん</li> <li>・ たくさんさんの種類の生き物がいた。詳しく調べてみよう。</li> <li>○ 諏訪川支流「鳴川」の生き物について調べ進める。④</li> </ul> <p>オイカワ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ とでもうごきが早く、つかまえるのが大変だった。</li> </ul> <p>カニ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 岩や石のうらにいた。おすとめすの見分け方を教えてもらったよ。</li> </ul> <p>ドジョウ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 葉っぱや水草の下がすみかだったよ。</li> </ul> <p>【四校合同】</p> <p>5 四校で調べたことを交流し、絶滅しかけているという事実から、その原因を調べるとい新な課題をつくる。②</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 四校でそれぞれ調べた生き物の生態について交流する。</li> <li>・ 同じ水の中の生き物でも、好んでいる環境が全く違うんだね。</li> <li>○ 調べた生き物の中には絶滅しかけていている種もいるという事実から、その生き物たちのことをたくさんさんの人たちに知ってもらおうという新な課題をつくる。</li> </ul>

大牟田市立駛馬小学校 「海洋教育」 カリキュラム

段階	深める段階	広げる段階
配時	10	4
学	<p>6 水中の生き物のことをたくさんの人に発信するための方法を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ インターネットを使い、自分の興味を持った生き物について調べる。</li> <li>○ 自分たちで調べきれなかったことや、疑問点をGTの先生に聞く②             <ul style="list-style-type: none"> <li>・何を食べているのかな。夜はどこで寝ているのかな。</li> </ul> </li> </ul> <p>※ GTしてはネイチャーガイド柿川さん</p>	<p>8 4校で調べた川や海の生き物のことについて発信する。③</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・横造紙に調べた生き物たちの絵と特徴をまとめ、生き物マップを作ろう。地域の人に生き物のことを知ってもらうために、公民館においてもらう。</li> <li>・すわ川ランドをひらいて、1年生を招待しよう。</li> </ul> </div>
習	<p>7 話し合っって決めた方法にしたがって、発信の準備をする。⑧</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 呼びかける方法について話し合い、表現物を作成する。③             <ul style="list-style-type: none"> <li>・諏訪川や有明海には珍しい生き物がたくさんいて、それぞれに住みかがあることをつたえたいな。</li> <li>・みんなが興味を持ってくれるようにクイズもあたら楽しんでもらえそうだ。</li> </ul> </li> </ul>	<p>9 四校で調べたことを交流し、諏訪川の上流、中流、下流そして有明海の生き物を知ってもらうために地域に呼びかけるという新たな課題をつくる。②</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大好きな生き物のことをみんなに知ってもらえと嬉しいな。</li> </ul>
活	<p>【四校合同】</p>	<p>○ これまでの学習を振り返り、まとめる。①</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・知らなかつた生き物のことについて知れてよかつた。</li> <li>・生き物にはそれぞれすみやすい環境があることが分かつたから、その環境をこわさないようにしなければいけない。</li> <li>・諏訪川や有明海は、これからもずっと生き物たちが楽しく暮らせるような住みかであつてほしいな。</li> </ul>

# 4年

ストーリーマップ


## 海を守る | クリーンアップ諏訪川・有明海

**つかむ段階 (3時間)**

- 1 諏訪川でのカヌー体験を振り返り、水面や護岸の様子について気がついたことを出し合う。
- 2 諏訪川の流域を調査し、「諏訪川的环境について調べる」という課題をつくる。

**海の時間**

川の上流と中流と下流では、環境が違うかもしれないね。どんな違いがあるか調べてみよう！



**調べる段階 (8時間)**

- 4 諏訪川の中流域にある、浮くゴミと浮かぬゴミについて量と種類を調べる。


中流域だけでなく、上流域から流れてきた浮くゴミもあるかもしれない。もし、そうだったら下流域や有明海まで流れていっているかもしれない。



**合同学習**


- 3 四校の地域の地理的特徴を元に、調査対象を役割分担する。

中流域のゴミ拾いをして、ゴミの分別をやってみよう。



- 5 調べたことを交流し、「諏訪川流域にあるゴミの現状から、諏訪川を守る取組について多くの人に発信する」という新たな課題をつくる。

ポスターやパンフレットを作って、諏訪川流域にある公民館（勝立、駿馬、三川）に置いてもらって、多くの人に伝えよう。



**他教科の関連**

理科「雨水のゆくえ」 【教・領 → 内容】

○流れる水のゆくえを調べる学習を通して、川の水が高い場所から低い場所へ流れていくことを学習している。

社会科「くらしとごみ」 【教・領 → 内容】

○ごみの量をへらすために自分たちにできることを考える学習をしている。



### 深める段階（7時間）

- 6 諏訪川のゴミの現状と諏訪川を守る取組について多くの人に発信するための方法を考える。
- 7 多くの人に発信するための方法を話し合っ、発信の準備をする。



私たちがクリーンアップ諏訪川の新聞を作ったよ。他にもポスターをつくって地域や上流域の皆さんにポイ捨てをしないように伝えよう！

### 広げる段階（7時間）

- 8 四校で諏訪川や有明海的环境を守ることにについて発信する。

川をきれいにする取組をしてみたけど、自分たちだけでは限界があるみたいだね。地域の人にも知らせたり、呼びかけたりしてみよう。



### 他教科の関連 記号の意味

- ◆ **内容** → 教・領
  - ・学習した内容を教科・領域につなげる
- ◆ **方法** → 教・領
  - ・学習した方法を教科・領域につなげる
- ◆ **教・領** → 内容
  - ・教科・領域で学習した内容を生かす
- ◆ **教・領** → 方法
  - ・教科・領域で学習した方法を生かす

- 9 発信した活動について四校で交流する。



伝えたい相手にあわせて、ポスターの内容や掲示場所を工夫して発信しているね。参考にしよう！

### 国語科「新聞を作ろう」

【教・領 → 方法】

- 新聞づくりを通して、新聞の特徴や割り付け、記事の書き方を学習している。

### 国語科「調べて話そう生活調査隊」

【教・領 → 方法】

- 調査の報告をしたり、それらを聞いて意見を述べたりする学習をしている。

## 4年生「クリーンアップ諏訪川・有明海」(25時間)

段階	つかも段階	調べる段階
配時	2	8
学	<p>1 諏訪川でのカヌー体験を振り返り、水面や護岸の様子について気がついたことを出し合う。①</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 諏訪川には、オイカワやセボシタビラ等大好きな生き物たちの住みかがある。(前学年の知識)。</li> </ul> <p>2 諏訪川の流域を調査し、「諏訪川環境について調べる」という課題をつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 川の上流と中流と下流の環境の違いについて調べる。</li> <li>・ 川の上流と中流と下流に行くにつれて、水質が悪くなっているね。</li> </ul> <p>※ ユネスコが作成している動画を視聴させせることも考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 諏訪川にはごみの問題が無いか調べるとい課題をつくる。</li> <li>・ 世界の海と同じように諏訪川にもごみ問題があるのか調べてみよう。</li> </ul>	<p>4 諏訪川のごみの量や種類を調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 地域の人と一緒に諏訪川の清掃活動を行う。④</li> </ul> <p>※ 保護者や地域の方に清掃活動への参加を広く呼びかける(子どもの見守りを兼ねて)。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ いろんな種類のごみがたくさん落ちてきているね。上流から流れてきたゴミもあるみたいだね。</li> <li>○ ごみを持ち帰って分別し、それぞれのごみの量と種類を調べる。②</li> </ul> <p>(例) 諏訪川のごみの量と種類</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 浮遊ごみ (ペットボトル、空き缶)</li> <li>→ 量がとても多い(様々なところから流れてきていると推測できる)</li> <li>・ 炊飯器、湯沸かしポット</li> <li>→ 量は少し(現地で捨てられたごみだと推測できる)</li> </ul>
習	<p>3 四校の地域の地理的特徴を基に、調査対象を役割分担する。①</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 海のごみは、海に直接捨てられるものと、川から海に流れ込むものがあるのではないかという予想を立て、調べる場所を分担する。</li> <li>・ みなと小学校：元三池海水浴場(沿岸部)</li> <li>・ 天領小学校：三池堰(河口部)</li> <li>・ 天の原小学校：諏訪川周辺(上流部)</li> <li>・ 駛馬小学校：諏訪川周辺(中流部)</li> <li>→ 天領小と天の原小と駛馬小学校については、水質調査も行う。</li> </ul>	<p>【四校合同】</p> <p>5 四校で調べたことを交流し、「諏訪川流域にあるゴミの現状から、諏訪川を守る取組について多くの人に発信する」という新たな課題をつくる。②</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 四校でそれぞれ調べたごみの問題について交流する。</li> <li>・ 世界と同じようにごみの問題があるね。</li> <li>○ 諏訪川を守る取組について多くの人に発信するという新たな課題をつくる。</li> </ul>
活		
動		

大牟田市立駛馬小学校 「海洋教育」 カリキュラム

段階	深める段階	広げる段階
配時	8	7
学	<p>6 諏訪川のゴミの現状と諏訪川の環境を守る取組について多くの人に発信するための方法を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 川のごみが生き物に与える影響について資料等で調べる。③</li> <li>・ プラスチックは化合物だから自然には還らず、細かな破片となって生き物が吸い込んでしまい、肺などに溜まっていくんだな。</li> <li>○ 川のゴミと水質についての話を聞く。②GT：大牟田市環境保全課</li> </ul> <p>7 多くの人に発信するための方法を話し合っ、発信の準備をする。⑥</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 呼びかける方法について話し合い、表現物を作成する。⑥</li> </ul> <p>〈誰に、どこに (対象)〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自分たちの地域だけではなく、ごみは川を伝って流れてきているから諏訪川などの近くの公民館にも呼びかけよう。</li> </ul> <p>〈どんな方法で〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 公民館などには、ポスターやチラシを貼らせてもらおう。</li> </ul>	<p>9 四校で諏訪川や有明海の環境を守ることにについて発信する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 作成した表現物を使って発信する。⑥</li> </ul> <p>〈誰に、どこに (対象)〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自分たちの地域だけではなく、ごみは川を伝って流れてきているから諏訪川などの近くの公民館にも呼びかけよう。</li> </ul> <p>〈どんな方法で〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 公民館などには、ポスターやチラシを貼らせてもらおう。</li> <li>○ 地域などに呼びかける。(時間外)</li> </ul> <p>※ 公民館などへポスター、チラシの掲示を依頼する。</p>
習	<p>8 川や海のごみや水質が生き物に与える影響について四校で調べたことを交流し、問題解決のために地域に呼びかけたことを伝え合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>②</li> <li>・ 人間の生活の中で出されるごみや生活排水が海に悪影響を与えているということだね。問題や解決方法を地域に発信しよう。</li> </ul> <p>○ これまでの学習を振り返り、まとめる。①</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自分たちの生活が海の生き物に大きく関わっていることが分かった。</li> <li>・ 川や海のことを考えてこれからの自分の生活を考えたいことが大切だ。</li> </ul>	<p>【四校合同】</p> <p>8 川や海のごみや水質が生き物に与える影響について四校で調べたことを交流し、問題解決のために地域に呼びかけたことを伝え合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>②</li> <li>・ 人間の生活の中で出されるごみや生活排水が海に悪影響を与えているということだね。問題や解決方法を地域に発信しよう。</li> </ul> <p>○ これまでの学習を振り返り、まとめる。①</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自分たちの生活が海の生き物に大きく関わっていることが分かった。</li> <li>・ 川や海のことを考えてこれからの自分の生活を考えたいことが大切だ。</li> </ul>

# 5年 ストーリーマップ


## 海を活用する | 有明海の歴史と産業を調べよう

**つかむ段階 (3時間)**

**海  
の  
時  
間**

- 1 石炭採掘と運ばれ方の歴史について、GTの話聞いて、分かったことを出し合う。
- 2 「室町時代から明治時代にかけての石炭採掘と運ばれ方について調べる」という課題をつくる。

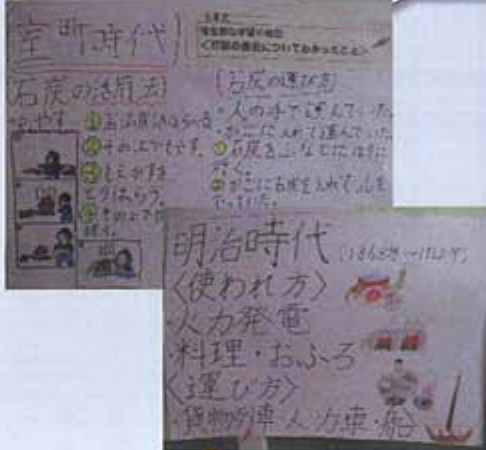
時代と共に石炭の運ばれ方がどのように変わっていったか調べよう。



**調べる段階 (8時間)**


- 4 室町時代、江戸時代、明治時代の石炭採掘と運ばれ方について調べる。

年代によって、石炭の採掘場所や方法、運ばれ方が違うんだね！



**合同学習**


- 3 四校の地域の地理的特徴や校区の特性を基に、調査対象を役割分担する。



駿馬小学校は、石炭の運ばれ方を調べるんだね。  
本、ウェブサイトやGTの山田さんに質問したりしてまとめよう。

- 5 調べたことを交流し、「物を運ぶための川や海の活用についてたくさんの人に発信する」という新たな課題をつくる。

年代によって、川や海の活用方法が変わっていきことが分かったよ！みんなに知らせたいな！



**他教科の関連**

社会科「日本の工業生産と貿易・運輸」  
【教・領 → 内容】  
○貿易を支える港と運輸手段について学習している。

社会科「日本の工業生産と貿易・運輸」  
【教・領 → 内容】  
○貿易を支える港と運輸手段について学習している。

### 深める段階（7時間）

- 石炭の採掘と運ばれ方の歴史についてたくさんの人に発信するための方法を考える。
- 話し合って決めた方法にしたがって、発信の準備をする。



私たちは宮原坑ロードを作ったよ。  
学校の掲示物や公民館にも掲示して地域の皆さんにも石炭の運ばれ方を知ってもらおう！  
6年生になったら、宮原坑のガイドパネルに加えよう。

### 広げる段階（7時間）

- 四校で調べた海が人の生活に与えている恩恵や影響について発信する。



廊下に宮原坑ロード作成して掲示したり、校内放送でクイズにして出題したり、公民館に掲示したりして、地域の人にも発信したいな。他校のみんなにも知らせたいな！

### 他教科の関連 記号の意味

- ◆ **内容** → 教・領
  - ・学習した内容を教科・領域につなげる
- ◆ **方法** → 教・領
  - ・学習した方法を教科・領域につなげる
- ◆ **教・領** → 内容
  - ・教科・領域で学習した内容を生かす
- ◆ **教・領** → 方法
  - ・教科・領域で学習した方法を生かす

- 発信した活動について四校で交流する。



校内や地域の人に、石炭の採炭と使われ方の歴史について発信しました。

### 国語科「グラフや表を用いて書こう」

【教・領 → 方法】

- 調べたことをリーフレットにまとめる方法を学習している。

### 国語科「グラフや表を用いて書こう」

【教・領 → 方法】

- 調べたことをリーフレットにまとめる方法を学習している。

## 5年生「有明海の歴史と産業を調べよう」(25時間)

段階	つかむ段階	調べる段階
配時	2	7
学 習	<p>1 石炭採掘と運ばれ方の歴史について、GTの話を聞いて、分かったことを出し合う。①</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・時代と共に石炭の運ばれ方がどのように変わっていったんだね。</li> </ul> <p>2 「室町時代から明治時代にかけて、石炭の運ばれ方について調べる」という課題をつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 室町時代から明治時代にかけて、石炭の運ばれ方について話し合う。</li> <li>・輸出や輸入、人の行き来のためにも利用しているね。</li> <li>○ 四年生から視点を広げ、私たちは有明海とどのような関わっている(利用している)のか調べるとい課題をつくる。</li> <li>→ 四年生までは、「人の生活が、実は海に悪影響を与えている」という消極的な関わりだった。五年生は「利用している」という積極的な関わりで考える。</li> </ul>	<p>4 室町時代、江戸時代、明治時代の石炭採掘と運ばれ方について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 室町時代、江戸時代、明治時代の石炭採掘と運ばれ方について調べる。⑤</li> <li>→ 年代によって、石炭の採掘場所や方法、運ばれ方が違うんだね。</li> </ul> <p>・室町時代 → かごに入れて人が背負って運んでいた。</p> <p>・江戸時代 → ① 鉄やつるはしやかごなどで坑外へ。② 大八車で運搬。</p> <p>・明治時代 → 大牟田から小さな船で長崎などへ</p> <p>→ 貨物列車、人力車、船。</p>
活 動	<p>【四校合同】</p> <p>3 四校の地域の地理的特徴を基に、調査対象を役割分担する。①</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ それぞれの校区の産業の様子や地理的特長に着目し、有明海と産業の関わりを考え、調査対象を「漁業」「三池港の輸送」「森林(林業)」 「石炭の運ばれ方」に焦点化して調査を役割分担する。</li> <li>・みもと小学校：漁業を介した海とのかかわり(漁業協同組合)</li> <li>・天領小学校：三池港を介した海とのかかわり(輸送、歴史)</li> <li>・駛馬小学校：石炭の運ばれ方を介した海との関わり(輸送、歴史)</li> <li>・天の原小学校：林業を介した海とのかかわり(水質改善、保林)</li> </ul>	<p>【四校合同】</p> <p>5 調べたことを交流し、「物を運ぶための川や海の活用について皆さんの人に発信する」という新たな課題をつくる。②</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 四校でそれぞれ調べた産業と海との関わりについて交流する。</li> <li>・年代によって、川や海の活用方法が変わっていくことが分かったよ。</li> <li>○ それぞれの産業で問題も分かったことから、産業面に関する問題を具体的に調べるという新たな課題をつくる。</li> </ul>

大牟田市立駛馬小学校 「海洋教育」カリキュラム

段階	深める段階	広げる段階
配時	9	7
学	<p>6 石炭の採掘と運ばれ方の歴史についてたくさんの人に発信するための方法を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 石炭の採掘と運ばれ方の歴史についてたくさんの人に発信するための方法を考える。④</li> <li>・ 私たちは宮原坑ロードを作って、廊下に掲示しよう。</li> <li>・ 学校の掲示物や公民館にも掲示して地域の皆さんにも石炭の運ばれ方のことを知ってもらおう</li> <li>・ 6年生になったたら、宮原坑のガイドパネルに加えよう。</li> </ul>	<p>8 四校で調べた海が人の生活に与えている恩恵や影響について発信する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 四校で調べた海が人の生活に与えている恩恵や影響について発信する。④</li> <li>・ 校内放送にクイズとして、出題したり、公民館に掲示したりして、地域の人も発信したいな。他校のみんなにも知らせたいな！</li> </ul> <p>※ 掲示については、各所へ願い出れば引き受けてもらえる</p>
習	<p>7 話し合っ決めて決めた方法にしたがって、発信の準備をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 呼びかける方法について話し合い、表現物を作成する。⑤</li> </ul> <p>※ 「人は昔から海を漁業や運輸、林業の面から活用し、現在でも生活と切り離せない関係である。しかし、人の開発が海に悪い影響をあたえている。このままでは、海を活用できなくなってしまう」というストーリーで表現物をまとめさせたい。</p> <p>〈誰に、どこに(対象)〉</p>	<p><b>【四校合同】</b></p> <p>9 発信した活動について発表する。②</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 校内放送にクイズとして、出題したよ。</li> <li>・ 公民館に掲示して、地域の人も発信したよ。</li> </ul>
動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生活面（ごみや水）については4年生が呼びかけてくれる。自分たちはできるだけたくさんの人（不特定多数）に呼びかけたがいね。</li> <li>・ たくさんの人が集まるショッピングモールや駅、市役所が効果的だ。</li> </ul> <p>〈どんな方法で〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自分たちの地域には、学習発表会で呼びかけるといいね。</li> <li>・ 人が集まるところには、みんなの目に留まるポスターがいいな。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ これまでの学習を振り返り、まとめる。①</li> <li>・ 生活だけでなく、わたしたちは海を活用しながら生活しているんだね。</li> <li>・ これからも活用できるように考えて行動することが大事なな。</li> </ul>

# 6年

ストーリーマップ


海を活用する

## 海や川との共存発信プロジェクト

**つかむ段階 (3時間)**

1 石炭が有明海海底にできた背景について、GT話を聞いて、分かったことを出し合う。  
2 「有明海と宮原坑との新たなつながりについて調べる」という課題をつくる。

有明海と宮原坑って、運輸の他につながりがあったんだ！調べてみよう。



海の時間


**調べる段階 (8時間)**

4 宮原坑と有明海の運輸としてのつながりだけでなく、有明海海底資源である石炭とのつながりを調べる。

海底資源の石炭は、海の恩恵だね。有明海に海底にあった石炭と採掘の歴史についてみんなに知らせたいな。

6 石炭のでき方  
泥炭 亜炭 褐炭 石炭

4000万年 海のめぐみ



**3 四校の地域の地理的特徴や校区の特性を基に、調査対象を役割分担する。**

駿馬小学校は、宮原坑と有明海のつながりを調べるんだね。本やウェブサイトやGTの中野さんに質問したりしてまとめよう。



合同学習

**5 調べたことを交流し、「海の恩恵石炭について、宮原坑とのつながりを発信する」という新たな課題をつくる。**

石炭は4000万年前の有明海の恵みであり、宮原坑と深いつながりがあったことが分かったよ！みんなに知らせたいな！



**他教科の関連**

理科「土地のつくりと変化」  
【内容→教・領】  
○石炭が有明海海底にできた背景を理科の学習「土地のつくりと変化」に生かすことができる。

国語科「情報と情報をつなげて伝えるとき」  
【内容→教・領】  
○宮原坑や子どもボタニティアガイドの紹介のリーフレット作りで学習したことを国語科「情報と情報をつなげて伝えるとき」に生かすことができる。



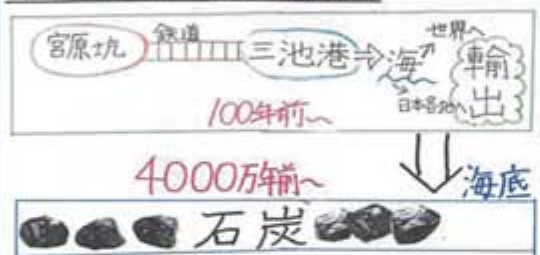
### 深める段階（7時間）

- 6 海の恩恵石炭について、宮原坑とのつながりについて、たくさんの人に発信するための方法を考える。
- 7 話し合って決めた方法にしたがって、発信の準備をする。

私たちはパネルを作ったよ。学校の掲示物や公民館に掲示して地域の皆さんにも石炭の運ばれ方を知ってもらおう！  
宮原坑のガイドパネルに加えよう。



### 7. 宮原坑と海とのつながり



### 広げる段階（7時間）

- 8 四校で考えた、海との共存プロジェクトについて発信する。

大牟田市世界遺産文化財室やおもてなし観光課とつながって、宮原坑で子どもボランティアガイドの中に付け加えて多くの人々に伝えたいな！

### 8 これからわたし達にできること

- ① 宮原坑のガイド  
↓  
海のめぐみである石炭のことを伝える
- ② 引き継いでもらい  
続けていく



### 他教科の関連 記号の意味

- ◆ 内容 → 教・領
  - ・学習した内容を教科・領域につなげる
- ◆ 方法 → 教・領
  - ・学習した方法を教科・領域につなげる
- ◆ 教・領 → 内容
  - ・教科・領域で学習した内容を生かす
- ◆ 教・領 → 方法
  - ・教科・領域で学習した方法を生かす

- 9 「海洋教育こどもサミット 2021in おおむた」で九州・沖縄地区のみんなと意見交流する。

白浜小も天の原小も、山と川と海とのつながりから海の環境を守るために、自分たちができることを考えて行動したことを発信していたね。



### 社会科「明治の新しいづくり」

【教・領 → 内容】

- 明治維新以降、日本が欧米の文化を取り入れつつ近代化を進めたことを学習している。

### 社会科「世界の中の日本」

【教・領 → 内容】

- 地球規模で発生している課題の解決に向けた連携や協力などから、グローバル化する世界で日本が果たしている役割について学習している。

6年生「海や川との共存発信プロジェクト」(25時間)

段階	つかむ段階	調べる段階
配時	2	7
学	<p>1 石炭が有明海海底にできた背景について、GT話を聞いて、分かったことを出し合う。①</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・有明海と宮原坑って運輸の他につながりがあることがわかったね。</li> </ul> <p>2 「有明海と宮原坑との新たなつながりについて調べる」という課題をつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「有明海と宮原坑との新たなつながりについて調べる」という課題をつくる。</li> </ul>	<p>4 宮原坑と有明海の運輸としてのつながりだけでなく、有明海の高底資源である石炭とのつながりを調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 大牟田市世界遺産・文化財室の方に調べた内容のアドバイスをもらう。⑤</li> </ul> <p>※「継続して行動できること」「地域の人と協働して行動できること」の視点で案を作成していく。下のプランを教師側から提案し、修正する話合いも考えられる。</p>
習	<p>【四校合同】</p> <p>3 SDGsの意味を確認し、行動対象を役割分担する。①</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ SDGsの目的や内容を確認する(海洋教育で取り組んでいることがSDGsの目的に合致している、というスタンスで)。</li> <li>○ これまでの学習を基に、それぞれの校区の産業の様子や地理的特長に着目して、行動対象を役割分担する。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・みなと小学校：漁業協同組合の連携し水産資源を守るために活動</li> <li>・天領小学校：港振興室と連携し沿岸部開発の持続可能性を考える活動</li> </ul>	<p>子どもボランティアガイドの内容の充実 →ガイドバネルに付加修正を加え、海の恩恵である石炭のことをさらに詳しくする。</p>
活	<ul style="list-style-type: none"> <li>・天の原小学校：森林組合、またはJAと連携し、海への栄養を与える役割としての林業の在り方を考える活動</li> <li>・駛馬小学校：大牟田市世界遺産・文化財室と連携し、宮原坑子どもボランティア活動のガイドに海の恩恵を入れて発信する活動</li> </ul>	<p>【四校合同】</p> <p>5 調べたことを交流し、「海の恩恵石炭について、宮原坑とのつながりを発信する」という新たな課題をつくる。②</p>

段階	深める段階	広げる段階
配時	8	8
学 習 活 動	<p>6 海の恩恵石炭についての、宮原坑とのつながりについて、たくさんの人に発信するための方法を考える。⑧</p> <p>○ 私たちはパネルを作ったよ。 学校の掲示物や公民館に掲示して地域の皆さんにも石炭の運ばれ方のことを知ってもらおう。</p> 	<p>8 四校で考えた、海との共存プロジェクトについて発信する。</p> <p>○ 「海洋教育こどもサミット in 大牟田」や学習発表会、「全国海洋教育サミット」で発信する準備をする。④</p> <p>※ サミットでの発信方法については、みもと小学校、天領小学校、天の原小学校と事前に打ち合わせた上で準備を進める。</p> <p>9 駛馬小学校で取り組んだ活動について、各所に発信する。</p> <p>○ 「海洋教育こどもサミット in 大牟田」で発信する。③</p> <p>○ 「全国海洋教育サミット」で発信する。(時間外)</p> <p>○ 宮原坑子どもボランティアガイドで来場者に発信する(時間外)</p>  <p>○ これまでの学習を振り返り、まとめる。①</p> <p>・自分たちの継続した取組が、海をよりよくしていくことに繋がるね。</p> <p>・海の状態が改善されれば、自分たちの生活もよりよくなるんだ。</p>

# 3年

## ストーリーマップ

### 海や川に親しむ | 海や川の生き物のために

海 の 時 間	つかむ段階 (6時間)	調べる段階 (8時間)
	<p>1 校区に面する有明海のことについて、知っていることを出し合う。</p> <p>2 GTから有明海の生き物についての話を聞き、「有明海の生き物を調べる」という課題をつくる。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">有明海には、わたしたちが知らなかった生き物がたくさんいるね。</p> 	<p>4 野間川にすむ生き物について調べる。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">ゲンゴロウを見つけたよ。ゲンゴロウは、絶滅危惧種で珍しい生き物だと教えてもらったよ。 他の学校の友だちに教えよう！</p> 
合 同 学 習	<p>3 四校の地域の地理的特徴を基に、調査対象を役割分担する。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">わたしたちの校区の野間川には、どんな生き物がいるのかな。</p> 	<p>5 調べたことを交流し、「様々な生き物のことをたくさんの人に発信する」という新たな課題をつくる。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">それぞれの場所に違う生き物がいたね。他の人にも知ってもらいたいな。</p> 
	他 教 科 の 関 連	<p>社会科「わたしたちのまちと市」 【教・領 → 内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 天の原校区には、諏訪川の上流支流である野間川が流れていることを学習している。</li> <li>○ 大牟田市の西側は有明海に接し、三池港があることを学習している。</li> </ul>

### 深める段階（6時間）

- 6 野間川や有明海の生き物のことを異学年の友達に発信するための方法を考える。
- 7 話し合って決めた方法にしたがって、発信の準備をする。

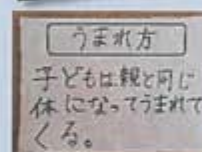
わたしたちは、模造紙に住処や特徴をまとめたよ。クイズも入れて友達が楽しく見ることができるように工夫したよ。



### 広げる段階（5時間）

- 8 四校で調べた川や海の生き物のことについて発信する。

わたしたちの校区の野間川に住む生き物について、他学年の教室へ紹介に行ったよ。まとめた模造紙を見てもらった友達に感想も書いてもらったよ。



### 他教科の関連 記号の意味

- ◆ 内容 → 教・領
  - ・学習した内容を教科・領域につなげる
- ◆ 方法 → 教・領
  - ・学習した方法を教科・領域につなげる
- ◆ 教・領 → 内容
  - ・教科・領域で学習した内容を生かす
- ◆ 教・領 → 方法
  - ・教科・領域で学習した方法を生かす

- 9 発信した活動について四校で交流する。

図鑑にしたり地図をつくったり、いろいろなアイデアで発信しているね。これからの参考にしたいな。



### 理科「動物のすみか」

【教・領 → 内容】

- 動物は、まわりのしぜんとかかわり合っ生きてくことを学習している。

### 社会科「わたしたちのまちと市」

【教・領 → 方法】

- 調べたことをまとめ、発表・発信する方法を学習している。

3年生 「海や川の生き物のために」 (25時間)

段階	つかむ段階	調べる段階
配時	6	8
学 習 活 動	<p>1 有明海のことについて、知っていることを出し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・有明海の有名な生き物には、ムツゴロウがいる。</li> <li>・有明海で作られる海苔を食べたことがある。</li> <li>・めずらしい生き物がすんでいる。</li> </ul> <p>2 「有明海の生き物を調べる」という課題をつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ GTから有明海にすむ生き物について教えてもらう。</li> </ul> <p>※ GT「有明海を学ぶ会」の柿川先生</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・有明海には、わたしたちが知らない生き物がまだまだたくさんいるみたいだね。実際にどんな生き物がいるか見つけてみたいな。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 有明海の干潟に行き、生き物調査を行い、見つけた生き物について、GTから説明を聞く。</li> <li>・有明海には、わたしたちが知らなかった生き物がたくさんいるね。</li> <li>・シオマネキを見つけたよ。シオマネキが何を食べるか教えてもらったよ。シオマネキのことについて、もっと調べてみたいな。</li> </ul>	<p>4 野間川にすむ生き物について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 野間川の生き物調査をする。</li> </ul> <p>※ GT「有明海を学ぶ会」の柿川先生</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ゲンゴロウを見つけたよ。ゲンゴロウは、絶滅危惧種で珍しい生き物だと教えてもらったよ。他の学校の友だちに教えたいな。</li> <li>・野間川にいた生き物は、干潟にはいなかつたね。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 野間川の生き物紹介の準備をする。</li> </ul> <p>【紹介についての視点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 生き物について(焦点化：グループで生き物を一つずつ)</li> <li>・住んでいるところ、食べ物、特長等</li> <li>○ 海や川の楽しさについて</li> <li>・海で多くの生き物を発見できること、面白い生き物がいること等</li> <li>○ 活動を通して考えたことについて</li> <li>・海や川の生き物が減っていると感じたけど、どうしてだろう。等</li> </ul>
	<p>【四校合同】</p> <p>3 四校の地域の地理的特徴を基に、調査対象を役割分担する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・みなと小学校：有明海の海中や汽水域</li> <li>・天領小学校：有明海の干潟</li> <li>・駛馬小学校：諏訪川中流</li> <li>・天の原小学校：諏訪川上流（野間川）</li> </ul> <p>→ サワガニ・アメンボ・ゲンゴロウ・タカハヤ</p>	<p>【四校合同】(生物多様性)</p> <p>5 それぞれの地域の川や海に住んでいる生き物について知り、それらを様々な人に知ってもらおうという課題を設定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 四校でそれぞれ調べた生き物の生態について交流する。</li> <li>・野間川にいた生き物の特徴を絵や言葉で説明できたよ。</li> <li>・同じ水の中の生き物でも、好んでいる環境が全く違うんだね。</li> </ul>

段階	深める段階	広げる段階
配時	6	5
学	<p>6 野間川や有明海の生き物のことを異学年の友達に発信するための方法を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 紹介する対象・内容・方法について話し合う。</li> <li>※ 「調べる段階」の合同授業における紹介を基に作成する。</li> <li>・ 見つけた生き物を写真や絵で伝えてみよう。</li> <li>・ それぞれの教室に行って、食べ物や特徴をまとめたカードを見せながら伝えよう。</li> <li>・ 生き物が住んでいるところなど、クイズを入れても面白いかもしれないね。</li> </ul>	<p>8 四校で調べた川や海の生き物のことについて発信する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 校内や地域に呼びかける。</li> <li>※ 校内掲示や公民館等への訪問で発信することが考えられる。</li> <li>・ 他の学年の友達にも生き物のことを伝えることができたから、他にもたくさんの人に知ってもらいたいね。</li> </ul>
習	<p>7 話し合っただけの方法にしがたがって、発信の準備をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 担当グループに分かれて、横造紙やカードにまとめたり、紹介原稿を作ったりする。</li> </ul>	<p>【四校合同】</p> <p>9 地域等に発信したこと（対象・方法・内容）について交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 他の地域にも私たちが調べた野間川の生き物を紹介してもらえたいね。私たちが野間川だけでなく、他の学校の近くの川や海の生き物を伝えることができたね。</li> <li>・ こんなに珍しい生き物がわたしたちの大牟田には住んでいないから、私たちが大人になってもこの生き物が住めるようにしていきたいね。</li> </ul>
活	<p>【アメンボ】 （名前の由来） 食べ物の餌のおいがるからアメンボになった。 （色） 黒や茶色、ときどき赤色もいる。 （食べ物） ユスカリや小さい虫を食べる。</p> <p>【サワガニ】 （生まれ方） 親と同じ形のまま生まれてくる。 （すみか） 一生、水のきれいな谷川に住んでいる。</p> <p>【タカハヤ】 （食べ物） こげや小さい昆虫を食べる。 （体） 目の近くにある小さいひげのようなもので音を聞いている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ これまでの学習を振り返り、まとめる。</li> <li>・ 知らなかった生き物のことについて知れてよかった。</li> <li>・ 生き物にはそれぞれすみやすい環境があることが分かったから、その環境をこわさないようにしなければいけない。</li> <li>・ 自分たち人間のことがばかり考えてはいけない。</li> </ul>

# 4年

## ストーリーマップ

### 海や川を知る・守る | 海や川の環境のために

海の時間

#### つかむ段階 (3時間)

- 1 干潟観察等、3年生で学習したことを出し合う。
- 2 「川や海的环境について調べる」という課題をつくる。

大牟田でもごみがたくさん出ていることを社会や総合で学習したね。



#### 調べる段階 (10時間)

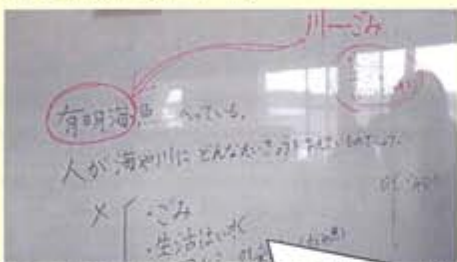
- 4 諏訪川上流(鳴川)のごみや水質について調べる。

上流の方は、ごみがあまりなかったね。きれいな水の中にすむ生き物がいたから、上流の水はきれいなことがわかった。他の学校の友だちに教えよう！



合同学習

- 3 四校の地域の地理的特徴を基に、調査対象を役割分担する。



諏訪川の上流の支流(鳴川)には、どれくらいごみがあるかな。

- 5 それぞれの地域の川や海のごみの状況について知り、それらを様々な人に知ってもらおうという課題を設定する。

ごみの量が違うね。海のごみが多いのは、川のごみが流れ着いているんだね。



他教科の関連

社会科「健康な暮らしとまちづくり」  
総合「リサイクルの仕組みを調べよう」  
【教・領 → 内容】  
○ 大牟田市の家庭から出るごみの量やごみを減らすための取組について学習している。

理科「雨水のゆくえ」  
【教・領 → 内容】  
○ 水は、高いところから低いところへ流れることから、川の水の流れ方について学習している。



### 深める段階（6時間）

6 諏訪川、有明海のごみの状況やごみを減らすことについて、地域等に発信するための方法を考える。

7 話し合って決めた方法にしたがって、発信の準備をする。

有明海を守るために、海や川のごみを減らすようポスターで呼びかけるよ。



### 広げる段階（6時間）

8 四校で調べた川や海のごみの状況やごみを減らすことについて発信する。

自分たちでできることを考えて、学校の周りのごみ拾いをみんなでしたよ。お店にポスターを貼ってもらって、レジ袋を減らすようにするのもいいね。



### 他教科の関連 記号の意味

#### ◆ 内容 → 教・領

・学習した内容を教科・領域につなげる

#### ◆ 方法 → 教・領

・学習した方法を教科・領域につなげる

#### ◆ 教・領 → 内容

・教科・領域で学習した内容を生かす

#### ◆ 教・領 → 方法

・教科・領域で学習した方法を生かす

9 発信した活動について四校で交流する。

他の学校も地域に呼びかけているから、多くの人が気を付けてくれると思うよ。



社会科「健康な暮らしとまちづくり」  
総合「リサイクルの仕組みを調べよう」

【教・領 → 方法】

- ごみを減らすために、私たちにできることは何かを考える学習をしている。

社会科「健康な暮らしとまちづくり」  
「自然災害にそなえるまちづくり」  
「昔から今へと続くまちづくり」

【教・領 → 内容・方法】

- 市役所や地域等、様々な人と協力しながら問題を解決することを学習している。
- 調べたことをまとめ、発表・発信する方法を学習している。

4年生「海や川の環境のために」(25時間)

段階	つかむ段階	調べる段階
配時	3	10
学 習 活 動	<p>1 干潟観察等、3年生で学習したことを出し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・有明海にしかない珍しい生き物が棲んでいる(前学年の知識)。</li> <li>・人間の生活の影響で絶滅しかけている生き物もある(前学年の知識)。</li> </ul> <p>2 「川や海の環境について調べる」という課題をつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 海の汚染が問題になっているということを知る。</li> <li>・生活排水や工場排水が海や川に流されて、水を汚しているんだな。魚たちがたくさん死んだりしているのもそのせいかな。</li> <li>・マイクログラブラスチックを魚が食べて、その魚を人間が食べること、人間にも悪い影響を与えているんだな。</li> </ul> <p>※ ユネスコが作成している動画を視聴させることも考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自分たちに身近で珍しい生き物の棲む有明海には環境問題が無いかわかるという課題をつくる。</li> <li>・世界の海と同じように有明海にも汚染や生き物の減少等の問題があるのか調べてみよう。</li> </ul>	<p>4 諏訪川上流(鳴川)のごみや水質について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ GTの話聞く。</li> <li>※ GT「有明海を学ぶ会」の柿川先生</li> <li>・上流は、人があまり住んでいないから、ごみも少ないんじゃないかな。</li> <li>○ 鳴川の生き物やごみ・水質調査を行う。</li> <li>・干潟にいない生き物がいたよ。水がきれいだから、こんな生き物がいるんだね。</li> <li>・上流の水は透き通っていて水質もいいね。ごみも少なくてきれいだな。</li> <li>○ 他校に報告するために、上流のごみや水質について整理する。</li> <li>・上流には、ビニル袋やペットボトルなど、家から出たごみが少ない。</li> <li>・浮いているごみは、ほとんどなかったよ。</li> <li>・川底が見えるくらい、水が透明だった。</li> <li>・中流や下流は、どのようなごみがあったのだろうか。</li> </ul>
	<p>【四校合同】</p> <p>3 四校の地域の地理的特徴を基に、調査対象を役割分担する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 海の環境は、生活排水やごみなどに原因があるのではないかわかるという予想を立て、調べる場所を分担する。</li> <li>・みなど小学校：元三池海水浴場(沿岸部)</li> <li>・天領小学校：三池堰(河口部)</li> <li>・駛馬小学校：諏訪川周辺(中流部)</li> <li>・天の原小学校：諏訪川周辺(上流部：鳴川)</li> </ul>	<p>【四校合同】</p> <p>5 それぞれの地域の川や海のごみの状況について知り、それらを様々な人に知ってもらおうという課題を設定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 四校でそれぞれ調べたごみの状況について交流する。</li> <li>・上流には、ほとんどごみがなかったのに、有明海の沿岸にはたくさんのごみが落ちていたんだな。これらのごみは、どこから来ているのだろうか。</li> <li>○ 人が捨てたり、それらが流れ着いたりしている事実から、有明海や諏訪川のごみ問題について発信するという課題をつくる。</li> </ul>

段階	深める段階	広げる段階
配時	6	6
学	<p>6 諏訪川、有明海のごみの状況やごみを減らすことについて、地域等に発信するための方法を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 紹介する対象・内容・方法について話し合う。</li> <li>※ 「調べる段階」の合同授業における紹介を基に作成する。</li> <li>・ 鳴川で見つけたごみや他の学校が見つけた海のごみについても書き加えて発信しよう。</li> <li>・ 1学期の総合の学習で作ったリサイクルのついてまとめたものも一緒に使うことができるかもね。</li> <li>・ 地域の人に伝えたいね。お店などにも貼ったらどうかね。</li> </ul>	<p>8 諏訪川、有明海のごみの状況やごみを減らすことについて発信する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 校内や地域に呼びかける。</li> <li>※ 校内掲示や公民館・お店等への訪問で発信することが考えられる。</li> <li>・ 呼びかけるだけじゃなくて、私たちにできることは何かを考えてごみを減らす取組をしてみたいね。</li> <li>・ 地域のごみ拾いをするのはどうかね。</li> </ul>
習	<p>7 話し合って決めた方法にしたがって、発信の準備をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 担当グループに分かれて、川や海のごみについてまとめたたり、個人でポスターをかいたりする。</li> </ul>	<p>【四校合同】</p> <p>9 地域等に発信したこと（対象・方法・内容）について交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 上流にはないごみが下流にはたくさんあったけど、上流に住んでい</li> <li>るからいいではなくて、私たちもごみが川や海に流れないようごみを出すことを減らしていきたいね。</li> <li>・ 私たちは、自分たちの地域に発信したけど、他の学校でも同じような内容をそれぞれの地域に発信できたよだから、これが他の地域にも広がっていくといいね。</li> </ul>
活 動	<p>【川や海のごみの状況の発信】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 諏訪川から有明海までの「ごみマップ」を作って、ごみの量や種類がわかるようにしよう。なぜ下流や海に多いのか、自分たちで考えたことも加えよう。</li> </ul> <p>【ごみを減らすことの発信】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ レジ袋をもらうことを減らすようにしていきたいね。「マイバックを使おう」など呼びかけるポスターを作ろう。</li> <li>・ 自分が出したごみは、ポイ捨てせず、バックなどに入れて家に持って帰るように呼びかけるポスターを作ろう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ これまでの学習を振り返り、まとめ。</li> <li>・ 3年生の干潟観察では、珍しい生き物がたくさんいた。鳴川にも、きれいな水にしか住めない生き物もいた。それらの住み処を守るためにも、これからごみのない川や海にしたいといけない。</li> <li>・ そもそも、出すごみを減らすようにしたい。買物にはエコバック、必要な物以外は買わないなど、できることをしたい。</li> </ul>

# 5年

## ストーリーマップ

### 山・川・海を守る、活用する | 山・川・海と私たちのために

**つかむ段階 (3時間)**

**海  
の  
時  
間**

1 有明海や諏訪川・野間川のことについて、学んだことを出し合う。

G Tの柿川先生から、野間川をきれいにすることが、有明海をきれいにすることと教えてもらったね。



2 「有明海と人とのかかわりについて調べる」という課題をつくる。

**調べる段階 (10時間)**

4 玉川付近の農業や源流から諏訪川までのつながりについて調べる。


山からの湧き水だけを使って、農業を使わないで米作りをしている山下さんの思いがわかったよ。  
他の学校の友だちに教えよう！



**合  
同  
学  
習**


3 四校の地域の地理的特徴を基に、調査対象を役割分担する。

山の方に近い校区なので、農業や林業と自然とのかかわりを調べよう。



5 それぞれの地域で調べた産業と海、私たちの生活と自然(海や水)とのかかわりについて知り、それらを様々な人に知ってもらうという課題を設定する。

みなと小の水害の学びが興味深かった。水や自然と人とのかかわりについて、もっと考えてみたい。



**他教科の関連**

社会科「日本の国土とわたしたちの暮らし」  
「未来を支える食料生産」  
【教・領 → 内容】

- 地形や気候の関係を学習している。
- 農業や水産業の工夫や努力、海と森とのつながりを学習している。

理科「生命のつながり」  
「流れる水のはたらきと土地の変化」  
【教・領 → 内容】

- 植物の成長には、日光や肥料が関係していることを学習している。
- 洪水の被害や洪水に備える工夫について学習している。

**深める段階（4時間+社会科）**

- 6 海を持続可能にするための取組について調べる。（社会科：国土の自然とともに生きる）
- 7 山・川・海のつながりやそれらとのかかわり方について、地域等に発信する方法を考え、準備をする。



きれいな水を山・川・海へとつないでいくことが大切だね。わたしたちにもそれは恩恵ともなるし、影響にもなるんだね。

**広げる段階（8時間）**

- 8 四校で調べた山・川・海のつながりやそれらとのかかわり方について発信する。

1年生から6年生までそれぞれ問題を作ったよ。廊下やESDコーナーに貼って、それぞれの学年の友達にクイズを解いてもらったよ。



**他教科の関連 記号の意味**

- ◆ **内容** → 教・領
  - ・学習した内容を教科・領域につなげる
- ◆ **方法** → 教・領
  - ・学習した方法を教科・領域につなげる
- ◆ **教・領** → **内容**
  - ・教科・領域で学習した内容を生かす
- ◆ **教・領** → **方法**
  - ・教科・領域で学習した方法を生かす

- 9 発信した活動について四校で交流する。

三池港は、大牟田にとって、これまでもこれからも大切な文化財だと私たちが広めていけるといいな。



**社会科「国土の自然とともに生きる」**

【教・領 → 内容・方法】

【内容 → 教・領】

- 自然災害と国土の自然条件、自然災害への対策、林業の工夫や努力、環境を守るための取組や考え方について学習している。

**社会科「日本の国土とわたしたちの暮らし」**

【未来を支える食料生産】

【国土の自然とともに生きる】

【教・領 → 方法】

- 調べたことをまとめ、発表・発信する方法を学習している。

大牟田市立天の原小学校 「海洋教育」カリキュラム  
5年生「山・川・海と私たちのために」(25時間)

段階	つかむ段階	調べる段階
配時	3	10
学	<p>1 有明海や諏訪川・野間川のことについて、学んだことを出し合う。 ・生活から出るごみが生き物に悪影響を与えている(前学年の知識)。 ・野間川をきれいにするのが有明海をきれいにするにつながる(1学期の知識)。</p> <p>2 「有明海と人とのかわりについて調べる」という課題をつくる。 ○ 人が海を利用している場面について話し合う。(社会科の既習の想起) ・社会科で学習した通り、魚を獲って生活している人たちがいるね。 ・有明海では、海苔の養殖が盛んだということを学習したね。 ・水揚げした魚をフェリーで輸送していたね。</p>	<p>4 玉川付近の農業や源流から諏訪川までのつながりについて調べる。 ※ GT 樺野の農家の山下さん ○ 農業に携わる方の話を聞き、山と産業とのかかわりについて調べる。 ・山(土・川)からの恵みがあるので、水田(米)をつくれるんだな。 ・山からの養分が、川から海へと流れているんだな。だから、有明海で水産業ができるんだな。 ・山の役割や恵みのおかげで、農業や水産業ができるんだな。 ○ 玉川付近の農業の様子や諏訪川へのつながりについて調べる。 ・田んぼの近くには、湧き水が出ていて、細い川になっている。これが、諏訪川につながっているんだな。 ・川の栄養分が減ったり川が汚れたりしないよう、様々な工夫をしながら米作りをしているんだな。 ・農業を使わず自然の力だけで行う農業には苦労もたくさんだけど、その分自然の恵みを生かしながら、自然の恵みをこの先にも残すことができる素晴らしい方法なんだな。</p>
習	<p>○ 四年生から視点を広げ、私たちは有明海とどのような関わっている(利用している)のか調べるという課題をつくる。 一 四年生までは、「人の生活が、実は海に悪影響を与えている」という消極的な関わりだった。五年生は「利用している」という積極的な関わりで考える。</p>	<p>【四校合同】 5 それぞれの地域で調べた産業と海、私たちの生活と自然(海や水)とのかかわりについて知り、それらを様々な人に知ってもらおうという課題を設定する。 ○ 私たちの生活と自然とのかかわり(恩恵と災害)について発信するという課題をつくる。 ・私たちは海や水とどのように付き合っていくべきだろうか。</p>
活	<p>【四校合同】 3 四校の地域的的特徴を基に、調査対象を役割分担する。 ○ それぞれの校区の産業の様子や地理的特長に着目し、有明海と産業の関わりを考え、調査対象を焦点化して調査を役割分担する。 ・みなと小学校：海に起因する自然災害 ・天領小学校：運輸の面から見た三池港の働き ・駛馬小学校：石炭輸出の歴史 ・天の原小学校：自然の恩恵を生かした農業、林業の役割</p>	<p>【四校合同】 5 それぞれの地域で調べた産業と海、私たちの生活と自然(海や水)とのかかわりについて知り、それらを様々な人に知ってもらおうという課題を設定する。 ○ 私たちの生活と自然とのかかわり(恩恵と災害)について発信するという課題をつくる。 ・私たちは海や水とどのように付き合っていくべきだろうか。</p>

段階	深める段階	広げる段階
配時	4(＋社会科)	7
学 習 活 動	<p>6 海を持続可能にするための取組について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 林業における課題や取組について調べる。(社会科「森林とともに生きる」⑥)</li> <li>・山の土の栄養分を豊富にするためには、森林を維持することが大切だ。植林することで、森林の減少を防ぐ活動もしているんだな。</li> <li>・間伐などをして日光が届くようにすることも森林や山の土にとっては必要なことなんだな。</li> <li>・豊かな山を守るための募金活動をしているところもあるんだな。</li> <li>○ 農業や林業の視点から、川や海についての考えを整理する。</li> <li>・川の水を綺麗にすることばかり考えてはいけないんだね。海に流れる栄養分のことを考えて水を綺麗にする必要があるね。</li> <li>・栄養分のある川の水を海へ送ることができるよう、農業でも有機栽培など、薬品を使わない取組がされている。私たちは川の水を汚さないことが大切だ。</li> <li>・まずは、地産地消で地元の農家が作っているお米を買うことも、有機栽培を続けるための支えになるんじゃないかな。</li> </ul> <p>7 山・川・海をつながりやそれらとのかかわり方について、地域等に発信する方法を考え、準備をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 呼びかける方法について話し合い、表現物を作成する。</li> <li>※「調べる段階」の合同授業における紹介を基に作成する。</li> <li>・他の学年の友達には、クイズ形式で出せるといいね。それぞれの学年の友達に分かるように、1・2年生には少し易しい問題を作ろう。</li> </ul>	<p>8 四校で調べた山・川・海をつながりやそれらとのかかわり方について発信する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 校内や地域に呼びかけろ。(FMたんの活用)</li> <li>※ 校内掲示や公民館等への訪問で発信することが考えられる。</li> <li>・FMたんとでも山下さんの農業の取組や山・川・海をつながりについて発信できただので、たくさんの人に伝わっているといいな。</li> </ul> <div data-bbox="687 286 1002 1099" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【四校合同】</p> <p>9 地域等に発信したこと(対象・方法・内容)について交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・みなと小学校の学習と私たちの学習を結びつけると、人の生活の豊かさだけを考えた自分勝手な行動も、自然のことを考えて行っている産業も、私たちの生活に返ってくることを分かった。</li> <li>・天領小学校と鞍馬小学校の学習から、三池港が自分たちの住む大牟田にとつて、これまでもこれからも大切な文化財だと分かった。</li> </ul> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ これまでの学習を振り返り、まとめろ。</li> <li>・これからも海を活用しながら生活するためには、山の恵みを維持していくことや農業や林業を工夫していくことが大切だね。</li> <li>・私たちの生活はいい悪いにかかわらず、海や水と密接にかかわっているんだね。自然にとつていいことは、私たちにとつてもいいことかもしれない。だからこそ、自然により行動をしていきたい。</li> </ul>

# 6年

## ストーリーマップ

山・川・海を守る、活用する

# 自然と私たちの未来のために

海の時間

### つかむ段階（2時間）

- 1 これまで海洋教育で学習してきたことについて振り返る。
- 2 「海・川・山と共生するための行動を考える」という課題をつくる。

自然とかかわってきた人たちから、これまで様々なことを学んだね。



### 調べる段階（4時間）

- 4 大牟田市の山・森林に関する課題について聴取する。

里地・里山が放棄されて荒れたこと、成長が早い竹が増えていることがわかった。山や森も手入れをしないと養分のある豊かな土がつかれないんだな。



合同学習

大牟田市の山・森林には、どんな問題があるのだろう。



わたしたちも実際に観察してみたいな。山・森林と有明海とのつながりや問題をもう少し広く考えてみよう。



他教科の関連

理科「私たちの生活と環境」

【教・領 → 内容】

- 私たちの生活が環境とどのように関わっているか考える学習をしている。

理科「生物どうしの関わり」

【教・領 → 内容・方法】

- 生物と持続可能な環境との関わりについて学習している。
- 観察、実験などを通して、より妥当な考えをつくり出す学び方を学習している。



### 深める段階（12時間）

- 6 山・森林の状況やその影響について実際に観察・体験する。

土の養分がこんなに違うんだ。竹林が侵攻すると土砂崩れや洪水などの水害も起こるんだな。



竹細工を一つ作るのに、こんなに労力と時間がかかった。大変だな。

#### 他教科の関連 記号の意味

- ◆ 内容 → 教・領
  - ・学習した内容を教科・領域につなげる
- ◆ 方法 → 教・領
  - ・学習した方法を教科・領域につなげる
- ◆ 教・領 → 内容
  - ・教科・領域で学習した内容を生かす
- ◆ 教・領 → 方法
  - ・教科・領域で学習した方法を生かす

#### 理科「植物の成長と日光・水の関わり」

【教・領 → 内容・方法】

- 植物の体のつくりと働きについて学習している。
- 観察、実験などを通して、より妥当な考えをつくりだす学び方を学習している。

### 広げる段階（7時間）

- 7 取り組んだ活動について、発信する準備をする。

「山・川・海のつながり」「人とのつながり」をテーマにして発信しよう。

- 8 取り組んだ活動について発信・交流する。【合同学習 ※海洋サミット】



全国各地でも山・川・海のつながりから、それぞれの環境問題について取り組んでいるんだな。

- 9 環境保全課に竹の活用の提案する。



これから続けていけそうな取組を提案することが大切だね。

#### 理科「生物と地球環境」

#### 社会科「世界の中の日本」

【内容・方法 → 教・領】

- 人の生活と持続可能な環境との関わりについて学習している。
- 生物や環境、人とのつながりについて探究・追求する学び方を学習している。

6年生「自然と私たちの未来のために」(25時間)

段階	つかむ段階	調べる段階
配時	8	8
学	<p>1 これまで海洋教育で学習してきたことについて振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・野間川や有明海には多くの生き物がいたが、生き物が減少している。生活排水やごみなどの環境問題が原因の一つだ。(前学年までの既習)</li> </ul> <p>2 「海・川・山と共生するための行動を考えよう」という課題をつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自然にかかわる人々とともに自然を守るための活動を考え、実行するという課題をつくる。</li> </ul> <p>→「自然と人にとってよいこと」という考え方を確認し、環境問題に対して、今していることを話し合う。また、今後私たちにできることを一人ひとりが実行していく思いをもたせる。</p>	<p>4 大牟田市の山・森林に関する課題について聴取する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>※ GT:市役所環境保全課</li> <li>○ 里地・里山の減少、獣害・竹害についての話を聞く。</li> <li>・アライグマが、特定外来生物だと初めて知った。輸入された動物が野生化して増え、昔からいた動物が減っていることも問題なんだな。</li> <li>・里地・里山が放棄されて荒れ果てたこと、成長が早い竹がどんどん増えていくことがわかった。山や森も手入れをしないと養分のある豊かな土がつかないんだな。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 竹を効果的に活用する方法を提案する。</li> <li>・竹を切って、いろいろな竹細工を作ったらどうだろうか。</li> <li>・竹を使ったお祭りなどをして、たくさんの人を呼んだらいいのでは。</li> <li>・思いつきで活用する方法を伝えただけで、実際にできるのだろうか。</li> </ul>
活	<p>【四校合同】</p> <p>3 各地域の諸団体と協働しながら活動する見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 課題解決に向けて各諸団体と協働して活動する必要なことを理解し、各校の地域特性を踏まえ、共に活動できそうな団体等を考える。</li> <li>・天の原小学校：山、森林の視点からの環境問題への取組</li> </ul> <p>※ SDGs17「パートナーシップ」を前提に、各専門性を生かしながら協働することが大切であることを押さえる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 今後、4校で協働して活動するプログラムの見直しをもつ。</li> </ul>	<p>【四校合同】</p> <p>5 各学校が捉えた問題、その問題を解決するための行動計画について知り、取り入れられそうな内容や計画について交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自分たちの今後の活動計画について考える。</li> <li>・みなと小学校は、消防団や大牟田市防災対策室の方と取り組むそうだ。わたしたちも山・森林に詳しい人と取組を考えてみたい。</li> <li>・わたしたちも実際に観察してみたいな。山・森林と有明海とのつながりや問題をもう少し広く考えてみよう。</li> </ul>

大牟田市立天の原小学校 「海の時間」 カリキュラム

段階	深める段階	広げる段階
配時	1 2	7
学	<p>6 山・森林の状況やその影響について実際に観察・体験する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学校周辺の竹林の様子を観察する。</li> <li>・竹が隙間なく茂っていて、土にまで日光が当たっていないよ。</li> <li>・本場に竹ばかりが育っている。他の木々が見当たらないな。</li> <li>○ 里地・里山ウォークラリー、間伐体験をする。山・川・海のつながりについて説明を聞く。</li> <li>※ 夜須高原自然の家</li> <li>・竹林、人工林、天然林では、地面の色の濃さや土の温かさが全然違うな。これは、養分の違いでもあったよ。</li> <li>・竹林が侵食すると、その他の木々の居場所を奪っていた。山が水を蓄えたり、川・海にゆっくりと水を流す働きも弱くなったりして、土砂崩れが起きやすくなった。</li> </ul>	<p>7 取り組んだ活動について、発信する準備をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「山・川・海のつながり」「人とのつながり」をテーマにして、つながりを考えて行動する大切さを伝えよう。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【四校合同】</p> <p>8 取り組んだ活動について発信・交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>※ 「海洋教育こどもサミット in 大牟田」「全国海洋教育サミット」</li> <li>・全国各地でも山・川・海につながりから、それぞれの環境問題について取り組んでいるんだな。</li> <li>・それぞれの地域の海も一つにつながっている。それぞれの地域でできることを続けていくことが、海洋問題の解決につながる。</li> <li>・私たちの取組を他の地域にも紹介できてよかった。</li> </ul> </div>
活	<p>9 環境保全課に竹の活用について提案する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 取り組んだことを基に、「自分たちができることから大牟田市へ」「環境保全課から大牟田市へ」という視点に分けて提案する。</li> <li>○ これまでの学習を振り返り、まとめる。</li> <li>・他の学校の友達や自然にかかわる人々など、たくさんの人たちと一緒に環境問題について考えていくことで、解決することができた。これからは、いろんな人たちと協力して問題を解決していきたいな。</li> <li>・自然と私たちの生活は、いつもつながっている。これから先もずっとつながっているのだから、自然にも人にもよりい取組を続けていきたいな。</li> </ul>	<p>9 環境保全課に竹の活用について提案する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 取り組んだことを基に、「自分たちができることから大牟田市へ」「環境保全課から大牟田市へ」という視点に分けて提案する。</li> <li>○ これまでの学習を振り返り、まとめる。</li> <li>・他の学校の友達や自然にかかわる人々など、たくさんの人たちと一緒に環境問題について考えていくことで、解決することができた。これからは、いろんな人たちと協力して問題を解決していきたいな。</li> <li>・自然と私たちの生活は、いつもつながっている。これから先もずっとつながっているのだから、自然にも人にもよりい取組を続けていきたいな。</li> </ul>

## 4 海洋教育推進校の共通・合同実践

有明海干潟観察会 

## 1 目的

有明海の干潟観察を通して、有明海の自然や生息する生物について調べる活動を通して、海に親しみ、海に進んで関わろうとする子どもを育てる。

## 2 活動の実績（日時、場所、参加児童数、指導者等）

学校名	日時	活動場所	参加児童数	指導者
大牟田市立 天領小学校	令和2年 9月15日（火）	荒尾漁業 協同組合前 打越海岸	3年生児童 76人	3年担任3名 校長、主幹教諭 「有明海を守る会」2名
大牟田市立 みなと小学校	令和2年 10月13日（火）	荒尾干潟水 鳥・湿地セ ンター 荒尾干潟	3年生児童 47人	3年担任2名 校長、主幹教諭 「荒尾干潟水鳥・湿地セ ンター」館長様1名
大牟田市立 天の原小学校	令和2年 10月15日（木）	旧三池海水 浴場	3年生児童 46人	3年担任2名 校長、主幹教諭 「ネイチャーガイド大牟 田自然案内人」2名
大牟田市立 駿馬小学校	令和2年 10月14日（水）	旧三池海水 浴場	3年生児童 44名	3年担任2名 校長、主幹教諭 「ネイチャーガイド大牟 田自然案内人」2名

## 3 日程（例：駿馬小学校）

- 13：30 学校出発（貸切バスにて参加者・指導者等の目的地への移動）
- 13：45 目的地着（旧三池海水浴場）
- 13：50 オリエンテーション
- 14：00 生き物観察・採取
- 14：40 生き物調べ（採取した生き物についてゲストティーチャーから解説）
- 15：00 手洗い、片付け、帰校準備、ゲストティーチャーへのお礼の言葉
- 15：30 目的地出発
- 15：50 学校着

## 4 準備物

- 児童：長靴、軍手、着替え用の靴下、水筒、タオル、赤白帽子、着替え入れ用の袋
- 教師：生き物採取用バケツ（グループ各6）、荷物置き用ブルーシート、救急用具  
ガンツメ又はスコップ（児童各1）

## 《外部連携及び事前準備等》

- ゲストティーチャーに「世界文化遺産『三池港』と有明海を学ぶ会」への事前指導（有明海の生き物について）と干潟観察における生き物についての解説を依頼
- 地域「子ども見守り隊」への見守り協力依頼
- 目的地への移動のための貸切バス手配
- 旧三池海水浴場、荒尾漁協への干潟観察実施についての事前連絡（手洗い場の使用許可）

## 推進校

みなと小

天領小

駿馬小

天の原小

海洋教育のねらいの一つである「海の自然に親しみ、海に進んでかかわろうとする子ども達を育てる」ために、天領小学校・みなと小学校の3年生が有明海の荒尾干潟へ、天の原小学校・駿馬小学校の3年生が旧三池海水浴場に干潟観察会に行きました。干潟観察会では、『世界文化資産「三池港」と有明海を学ぶ会』『ネイチャーガイドオオムタ 自然案内人』の方方をゲストティーチャーとして招き、子ども達と一緒に干潟の生き物採集をし、有明海に生息する様々な生き物の生態について教えていただきました。子ども達は体験的に「海」について学び、様々な生き物が生息する「海」の素晴らしさを感じ取っていました。

### 荒尾漁協前の荒尾干潟



南北約9.1km、東西約3.2kmにもなる広大な荒尾干潟に子ども達も驚きました。



ゲストティーチャーの方々と一緒に、干潟の生き物を探します。石の下や石と石のすき間等にいろいろな生き物が隠れています。

### 旧三池海水浴場



干潟から、カニやヤドカリなど様々な生き物を見つけることができました。



見つけた生き物について、ゲストティーチャーの方から詳しく説明していただきました。

推進校

みなと小

天領小

駿馬小

天の原小

# 海洋教育オンライン合同授業



## 1 目的

オンラインを活用した合同授業を通し、海洋教育における学習のねらいや流れを共通理解するとともに、それぞれの学校の取組を交流することにより、海の環境保全、三池港の利用、海との共生など 地域の特性を活かした学習活動について理解を深める。

2 日時 令和2年10月～令和3年2月(各学年実施日時は次ページに記載)

## 3 参加児童、会場、指導者

3年生	参加児童数	会場	指導者
天領小学校	77名	3年1組教室 多目的室	3年担任・主幹教諭・校長
みなと小学校	47名	外国語室	3年担任・主幹教諭
天の原小学校	46名	音楽室	3年担任・主幹教諭
駿馬小学校	44名	音楽室	3年担任・主幹教諭
4年生	参加児童数	会場	指導者
天領小学校	85名	4年1組教室 多目的室	4年担任・主幹教諭・校長
みなと小学校	35名	4年1組教室	4年担任・主幹教諭
天の原小学校	40名	音楽室	4年担任・主幹教諭
駿馬小学校	49名	音楽室	4年担任・主幹教諭
5年生	参加児童数	会場	指導者
天領小学校	85名	5年1組教室 多目的室	5年担任・主幹教諭・校長
みなと小学校	45名	外国語室	5年担任・主幹教諭
天の原小学校	40名	音楽室	5年担任・主幹教諭
駿馬小学校	44名	音楽室	5年担任・主幹教諭
6年生	参加児童数	会場	指導者
天領小学校	73名	6年1組教室 多目的室	6年担任・主幹教諭・校長
みなと小学校	39名	外国語室	6年担任・主幹教諭
天の原小学校	42名	音楽室	6年担任・主幹教諭
駿馬小学校	51名	音楽室	6年担任・主幹教諭

## 4 準備物

児童:自校の取組発表に使うフリップ等

教師:会場設営 オンライン合同授業システム接続 黒板



3年 第2回合同授業の様子



5年 第1回合同授業の様子

### 《外部連携及び事前準備等》

- オンライン合同授業システム事前接続確認(1週間前:各校 主幹教諭)
- 学習内容や当日の流れの打ち合わせ(各校主幹教諭 担任)
- オンライン合同授業における発表内容を他校へ連絡(各校担任)
- 会場設営(各学校:大型テレビ, パソコン, カメラ, WIFI, スピーカー, マイク, 黒板等)

推進校

みなと小

天領小

駿馬小

天の原小

みなと小学校・天領小学校・駿馬小学校・天の原小学校の3・4・5・6年生が、オンラインで「海洋教育合同授業」を3回行いました。

子ども達は、各学校における海洋教育の学習や取組についてお互いに紹介し、もっと知りたいことを質問したり、感想を交わし合ったりしました。

この合同授業を通して、4校の子どもたちが、お互いの取組のよさを理解するとともに、他校の取組のよさを自分たちのこれからの学びや取組の参考にすることができました。

## 5 各学年合同授業の日時・ねらい

### 3年生

	第1回	第2回	第3回
日時	10月8日(木) 14:20~15:05	11月25日(水) 10:45~11:30	3月3日(水) 9:40~10:25
ねらい	第3学年の海洋教育におけるプログラムや学習形態について見通しを持つとともに、4校が協働しながら活動していくことに対して意欲を高める。	各学校が調べた生き物の名前や特徴、生き物調査を通し絵の感想や疑問等を交流し、自分の学校や地域への発信に向けて課題を見いだすことができる。	各校の情報発信などの取組を知り、次年度の学習活動に取り入れたいことを考えることができる。

### 4年生

	第1回	第2回	第3回
日時	10月16日(金) 10:45~11:30	11月30日(月) 10:45~11:30	3月3日(水) 11:35~12:20
ねらい	第4学年の海洋教育におけるプログラムや学習形態について見通しを持つとともに、4校が協働しながら活動していくことに対して意欲を高める。	各学校で担当した、各流域でのゴミや水質についての調査を通して、感想や疑問等を交流し、自分の学校や地域への発信に向けて課題を見いだすことができる。	各校の情報発信などの取組を知り、次年度に取り入れたいことを考えることができる。

### 5年生

	第1回	第2回	第3回
日時	10月12日(月) 10:45~11:30	12月7日(月) 10:45~11:30	3月4日(木) 9:40~10:25
ねらい	第5学年の海洋教育におけるプログラムや学習形態について見通しを持つとともに、4校の地理的特徴を基に、調査対象を役割分担することができる。	各学校で役割分担した領域の学習を進める中で「調べたこと」「調べて明らかになった課題」「今後の計画」等を報告し合うことで、それぞれの学校が捉えた内容や課題、その課題を解決するための行動計画等について知り、今後の報告において、取り入れたい他校の内容や方法を考えることができる。	各校の情報発信などの取組を知り、次年度に取り入れたいことを考えることができる。

### 6年生

	第1回	第2回	第3回
日時	10月7日(水) 10:45~11:30	11月27日(金) 10:45~11:30	1月22日(金) 13:20~16:30
ねらい	第6学年の海洋教育におけるプログラムや学習形態について見通しを持つとともに、4校が協働しながら活動していくことに対して意欲を高める。	各学校が捉えた問題、その問題を解決するための行動計画について知り、取り入れられそうな内容や計画の良さについて考え、交流することができる。	「海洋教育こどもサミット2021inおおむた」海洋教育バイオニアスクールプログラム成果報告会として実施

## 推進校

みなと小

天領小

駿馬小

天の原小

# 海洋教育推進校学習交流会

## 1 目的

海洋教育推進校であるみなと小学校、天領小学校、駿馬小学校、天の原小学校の児童が顔を合わせ、各校のこれまでの取り組みや今後の計画を交流することで、児童が主体的に実践を行い、4校が協力して海洋教育を進めていくことができるようにする。

2 日時 令和2年9月30日(水) 13時40分～16時05分

3 会場 オンライン(Zoom)

## 4 参加児童

○大牟田市立みなと小学校6年生 39名 ○大牟田市立駿馬小学校6年生51名  
○大牟田市立天領小学校6年生 74名 ○大牟田市立天の原小学校6年生42名

## 5 指導者

○大牟田市海洋教育推進校職員(各校の海洋教育推進協議会ワーキンググループ委員、6年担任)  
○「世界文化遺産『三池港』と有明海を学ぶ会」会員の方々  
○東京大学大学院教育学研究科附属海洋教育センター主幹研究員 及川幸彦 先生  
○東京大学大学院教育学研究科附属海洋教育センター特任研究員 高倉美帆 先生  
※大牟田市教育委員会学校教育課指導室 指導主事

## 6 日程

13:40 はじめの言葉(天の原小学校 代表児童) 来賓紹介(駿馬小学校 主幹教諭)

13:45 日程及び趣旨説明(天領小学校 主幹教諭)

13:50 交流会及・海洋クイズ(進行 天の原小学校 主幹教諭)

①アイスブレキング(15分間):

・心をそろえて(じゃんけんの手・文字揃え →どの学校?(3ヒントクイズ)

②海洋クイズ(40分間)

・「世界文化遺産『三池港』と有明海を学ぶ会」の柿川先生から(20分間)

・東京大学 特任研究員の嵩倉先生から

14:45 休憩

15:00 取組の紹介(進行 みなと小学校 主幹教諭)

○各校2分程度×4校(みなと→天領→天の原→駿馬)

○感想交流

15:20 講話・講評(東京大学大学院教育学研究科附属海洋教育センター 及川 主幹研究員)

・講師紹介(天領小学校 校長)

・講師による講話・講評

16:00 お礼の言葉(天領小学校 代表児童)

16:03 おわりの言葉(天の原小学校 代表児童)

16:05 後片付け(ワーキンググループ委員)・掃校(引率:6年担任)

## 8 準備物

児童:探検バック、筆記用具

教師:機器設置、アイスブレキング用道具(データ)、クイズ提示札(データ)、各校のプレゼン用データ

## 《外部連携及び事前準備等》

○東京大学大学院教育学研究科附属海洋教育センターへの講師依頼と打合せ(オンライン:Zoom)

○「世界文化遺産『三池港』と有明海を学ぶ会」へのゲストティーチャー依頼と打合せ

○オンライン(Zoom)の事前確認等

○会場及び機器設置(各校でのZoomの設定、Webカメラ、プロジェクター、パソコン、コロナ対策等)

○オンラインのホスト:東京大学



推進校

みなと小

天領小

駿馬小

天の原小

大牟田市海洋教育推進校であるみなと小、天領小、駿馬小、天の原小の6年生が、オンラインでつながり、「海と人との共生」について今まで学んできたことやこれから取り組んでいくことについて発表・交流しました。子供たちは、「世界文化遺産『三池港』と有明海を学ぶ会」の方による有明海の生き物クイズや東京大学の先生による海に関するクイズを解いたり、講師の及川先生の話や各校の取組の発表を聞いたりしながら、楽しい雰囲気の中で交流を行い、これからの海を通じた学習に意欲を高めていました。



①  
オンラインで、みなと小学校、天領小学校、駿馬小学校、天の原小学校の6年生全員が集合し、学習交流会がスタート。



②  
初めて出会った4校の6年生が、これから仲良く交流できるように、画面を通して楽しくゲームをしました。



③  
「世界文化遺産『三池港』と有明海を学ぶ会」の方から、海の世界や生き物についてのクイズを出してもらいました。

東京大学の嵩倉先生からも、海に関するクイズを出していただき、海への関心を高めることができました。



④  
各学校の海洋教育の取組についてお互いに発表し合い、グループで取組についての感想を交流しました。

最後に及川先生から、各校の取組の特色やよさ、これからの学びの可能性などについてお話をいただきました。

推進校

みなと小

天領小

駿馬小

# 「三池港」合同見学

1 目的

海の環境や船舶を用いた人や物の輸送・災害と海など「海を知る・守る・活用する」観点から、三池港とその成り立ちについて実際に学ばせるとともに、海洋教育推進校の児童がともに学ぶ機会をもち、互いの親交を深めさせる。

2 日時 令和2年11月17日(火) ①9時30分～12時15分 ②13時30分～16:15

3 会場 天領小学校 及び 三池港

4 参加児童

○大牟田市立みなと小学校5年生 44名      ○大牟田市立天領小学校5年生 85名 6年生 73名  
○大牟田市立駿馬小学校5年生 45名

5 指導者

○国土交通省九州地方整備局博多港湾・空港整備事務所職員  
○大牟田市立みなと小学校 5年生担任2名 主幹教諭1名 校長1名  
○大牟田市立天領小学校 5年生担任3名、6年生担任3名 主幹教諭1名 校長1名  
○大牟田市立天の原小学校 5年生担任2名 主幹教諭1名 校長1名

6 日程

○講話(進行:天領小主幹)

- (1) 始めの言葉(司会)
- (2) 講話「有明海と災害」

国土交通省 九州地方整備局 博多港湾・空港整備事務所

(3) 質疑・応答

(4) 終わりの言葉(司会)

○三池港見学

【午前】

1班(A)	2班(B)	3班(C)
駿馬小5年+天領小6年 児童数約40名+引率教師3名程度	駿馬小5年+天領小6年 児童数約40名+引率教師3名程度	駿馬小5年+天領小6年 児童数約40名+引率教師3名程度
10:00 開会		
10:05~10:45 体育館で出前講座(企画調整課 提督係長:テーマ)		
10:50 天領小学校バスにて出発(児童・引率教師・事務局スタッフ)→10:55~11:05 あいあい広場にて規則整列、説明、規則行動		
11:05~11:15(10分間) 関門の説明	11:05~11:20(15分間) 海燈見学	11:05~11:15(10分間) 視点場
11:20~11:30(10分間) 視点場	11:25~11:35(10分間) 関門の説明	11:20~11:35(15分間) 海燈見学
11:35~11:50(15分間) 海燈見学	11:40~11:50(10分間) 視点場	11:40~11:50(10分間) 関門の説明
11:55~12:00 あいあい広場に集合・バスに乗り・各校へ移動		

【午後】

1班(A)	2班(B)	3班(C)
みなと小5年+天領小5年 児童数約43名+引率教師3名程度	みなと小5年+天領小5年 児童数約43名+引率教師3名程度	みなと小5年+天領小5年 児童数約43名+引率教師3名程度
13:40 開会		
13:45~14:25 体育館で出前講座(企画調整課 提督係長:テーマ)		
14:30 天領小学校バスにて出発(児童・引率教師・事務局スタッフ)→14:35~14:45 あいあい広場にて規則整列、説明、規則行動		
14:45~14:55(10分間) 関門の説明	14:45~15:00(15分間) 海燈見学	14:45~14:55(10分間) 視点場
15:00~15:10(10分間) 視点場	15:05~15:15(10分間) 関門の説明	15:00~15:15(15分間) 海燈見学
15:15~15:30(15分間) 海燈見学	15:20~15:30(10分間) 視点場	15:20~15:30(10分間) 関門の説明
15:35~15:40 あいあい広場に集合・バスに乗り・各校へ移動		

7 準備物

○児童:探検バック、赤白帽子、筆記用具      ○教師:救急用具

《外部連携及び事前準備等》

- 国土交通省九州地方整備局博多港湾・空港整備事務所への出前講座依頼
- 参加児童のグループ分け(港湾事務所の計画による)
- 目的地移動への貸切バスの手配

推進校

みなと小

天領小

駿馬小

みなと小学校、天領小学校、駿馬小学校の子どもたちが、海洋教育の学習の一環として、世界文化遺産「三池港」の合同見学を行いました。この三池港見学は、国土交通省九州地方整備局博多港湾・空港整備事務所の方々に「三池港のひみつ探検」というプログラムを組んでいただき、三池港がつくられた歴史的な背景やその働き、現在の三池港の施設や海運における働きなどについて実際に見学しながら学ばせてもらうものです。また、海洋環境整備船「海煌」の見学・説明などを通して、子ども達は、三池港について多くのことを学ぶことができました。



はじめに、みなと小・駿馬小の子ども達が天領小学校に集まり、国土交通省の方から、三池港や有明海についてクイズを交えながら楽しく教えていただきました。

そして  
三池港へ

### 「あいあい広場」

三池港のくつろぎスペース「あいあい広場」で、三池港の歴史や港の働きについてお話を聞きました。



### 「海洋環境整備船「海煌」」

有明海の環境調査や海遊ゴミ回収をしている海洋環境調査船「海煌」を見学しました。



## 九州地域海洋教育連絡協議会「博多会議（オンライン）」

## 1 目的

九州・沖縄における「海洋教育パイオニアスクール」各校・地域の学校・地域間交流を通して、さらなる海洋教育の充実を期する。

2 日時 令和2年9月8日（火） 14時30分～17時00分

3 会場 各地域、学校等よりZoomによるオンラインで開催

## 4 参加者

○東京大学大学院教育学研究科附属海洋教育センター

特任教授	日置	光久
主幹研究員	及川	幸彦
特任准教授	丹羽	淑博
特任研究員	川上	真哉
特任研究員	嵩倉	美帆
チームリーダー	中嶋	竜生

○日本財団海洋事業部海洋チーム

○笹川平和財団海洋政策研究所

○大牟田市立みなと小学校

校長	馬籠	秀典
校長	荒木	秀敏
校長	高口	直喜
校長	萩島	弥穂
校長	原口	毅
校長	田邊	理
教育課長	大浜	譲
校長	松堂	直美
指導主事	平田	和也

○大牟田市立天領小学校

○大牟田市立天の原小学校

○大牟田市立駿馬小学校

○佐賀県唐津市立佐志小学校

○佐賀県唐津市立入野小学校

○沖縄県竹富町教育委員会

○沖縄県竹富町立船浮小中学校

○沖縄県糸満市教育委員会

## 5 日程

14:30 開会

14:40 自己紹介

各学校より本年度の取組について

16:00 質疑・協議 情報交換

16:30 講評

「九州における海洋教育に期待すること」

東京大学大学院教育学研究科附属海洋教育センター

特任教授	日置	光久
主幹研究員	及川	幸彦

17:00 閉会

## 6 準備物

各校の海洋教育に関する取組の概要が分かる資料（プレゼン資料）

## 《事前準備等》

○東京大学大学院教育学研究科附属海洋教育センターへの出席依頼と日程調整及び依頼状の送付

○九州・沖縄地区の海洋教育パイオニアスクールへの出欠確認と日程調整及び案内状の送付

○会議場の確保（九州各地からの交通の便を考慮し、福岡市博多区博多駅近辺が望ましい）

※今回は、コロナ感染防止のためオンラインで開催

# 海洋教育 こどもサミット2021 in おおむた

## 1 目的

九州・沖縄地区の海洋教育推進モデル校(海洋教育パイオニアスクール)の児童が一堂に会し、これまでの海洋教育に関する学習の成果を交流することにより、「海と人との共生」についての理解及び考え方を深める。

## 2 日時 令和3年1月22日(金) 13時20分～16時30分

## 3 会場 大牟田文化会館小ホール、及び 各学校

## 4 参加児童

- |              |     |                |      |
|--------------|-----|----------------|------|
| ○大牟田市立みなと小学校 | 6年生 | ○沖縄県竹富町立上原小学校  | 代表児童 |
| ○大牟田市立天の原小学校 | 6年生 | ○沖縄県竹富町立船浮小中学校 | 代表児童 |
| ○大牟田市立天領小学校  | 6年生 | ○沖縄県立竹富町立白浜小学校 | 代表児童 |
| ○大牟田市立駿馬小学校  | 6年生 | ○鹿児島県与論町立茶花小学校 | 代表児童 |

## 5 指導者及び参加者

- 東京大学大学院教育学研究科附属海洋教育センター
  - ・センター長 田中智志 氏
  - ・特任教授 日置光久 氏
  - ・主幹研究員 及川幸彦 氏
  - ・特任研究員 布施梓 氏
  - ・特任研究員 進士淳平 氏
  - ・特任研究員 嵩倉美帆 氏
- 公益財団法人日本財団海洋事業部海洋チーム
  - ・チームリーダー 中嶋竜生 氏
- 大牟田市教育委員会 教育長
- 大牟田市教育委員会学校教育課 指導室長・指導主事

## 6 日程

- 12:50 受付開始
- 13:30 開会行事
  - ・開会の言葉(駿馬小学校 校長)
  - ・主催者挨拶(大牟田市教育委員会 教育長 ・ 天領小学校 校長)
- 13:35 ポスターセッション
  - ・各学校の発表 ・意見交流 ・整理
  - ・Aグループ(水産資源と環境の視点) ・Bグループ(海に関係する資源の視点)
  - ・Cグループ(海の活用の視点)
- 15:00 パネルディスカッション
  - ・参加校代表児童による意見交換
  - ・指導助言 東京大学大学院教育学研究科附属海洋教育センター 主幹研究員 及川幸彦氏
- 16:05 講評 東京大学大学院教育学研究科附属海洋教育センター 特任教授 日置光久 氏
- 総括 東京大学大学院教育学研究科附属海洋教育センター センター長 田中智志 氏
- 16:25 閉会行事
  - ・閉会の挨拶(公益財団法人日本財団海洋事業部 海洋チームリーダー 中嶋竜生 氏)
  - ・閉会の言葉(みなと小学校 校長)
- 16:35 後片付け(大牟田市海洋教育推進協議会委員・WG)

## 7 準備物

- 児童:発表提示資料
- 教師:発表展示資料、展示用具、救急用具、記録用カメラ

### 《外部連携及び事前準備等》

- 東京大学海洋教育センター、日本財団、各教育委員会等への共催・後援依頼、及び講師依頼と打合せ
- 大牟田市外参加校とのZOOMによる会議による事前の打ち合わせ
- 大牟田市内各学から文化会館まで代表児童を運ぶ車の手配
- 「大牟田文化会館」への会場・必要機器等の借用申請
- 関係者等へのパンフレットの作成と配付
- 会場設営(横断幕、プロジェクター、パソコン、ポスター・案内等の掲示)

# 海洋教育 こどもサミット2021 in おおむた

海洋教育に取り組む九州・沖縄地区の子どもたちが、それぞれの学校や地域での取組を発表・交流し合う「海洋教育こどもサミット」がインターネットのzoomを介して開催されました。ポスターセッションでは、自分たちの地域の自然や文化の特徴を生かした海洋教育の取組について、用紙にまとめて提示し、分かりやすく他校の子どもたちや参加された方々に伝え、質問や意見を交わしました。また、パネルディスカッションでは、ABCのそれぞれのグループで出た意見をもとに、「私たちがつくる未来の海」について話し合い、お互いの学びや交流を深めていきました。

## ポスターセッション

各学校が、それぞれのブースにわかれ、学校や地域での取組について説明し、参加者の質問を受けたり、意見交換を行ったりしました。

### Aグループ

#### 〈水産資源と環境の視点〉

#### みなと小学校



有明海のみどころや、学校が7月豪雨で浸水被害を受けたことから、地球温暖化と海洋温暖化に原因があることを考え、地球温暖化を防ぐためにできることについて発表しました。また、有明海の現状として魚がへった原因について海がきれいになったことを説明しました。私たちにできることは、ポスターやゲーム化、動画作成についても発表しました。

#### 上原小学校

「魚まき集会」と「クリーン作戦」について発表しました。「魚まき集会」では、海の自然生物の講話や網修理、魚焼き講座、について発表しました。「クリーン作戦」では、漂着ゴミを集めて調べた分かったこと、行動・発信として、地域・観光客に向けてポスターづくりを行ったことも説明しました。まとめとして、自然を守り続けていくため、一人一人が行動し続ける等を説明しました。

#### 船浮小中学校

**(ポスターセッションの整理)**  
東京大学海洋教育センター 高倉美帆 先生  
におこなっていただきました。

『海と自分たちとの関わり方』を考えを深めるために、「サンゴの産卵を観察しよう」と「海の再生可能エネルギーを学ぼう」をテーマにして、活動した過程に沿って発表しました。特に、まとめの段階で作成した「船浮湾 海の世界マップ」や「海の問題新聞」、動画等で発信したことも説明しました。また、学習を通して、むだを少なくし、再利用する。今ある大切な資源（環境・エネルギー）と共存することについても発表しました。

### Bグループ

#### 〈海に関係知る視点〉

#### 駛馬小学校



校区には、有明海につながる環訪川が流れ、世界文化遺産である宮原抗もある。現在、宮原抗ボランティアガイドをしていることを発表しました。次に、宮原抗と海のつながりや石炭が海底でできるわけを説明しました。これから私たちにできることは、宮原抗のガイドや海の恵みである石炭について伝えていくことを発表しました。

#### 白浜小学校

ビーチクリーンをしたきっかけや、実際に7月、11月に実施したときのペットボトルについて調べた結果、海外のゴミが漂着していることや島に埋められている事、潮や風向きとの関係でゴミや貯まりやすくなったり、増えている国がある事を発表しました。魚の影響としてマイクロプラスチックゴミのことや、町や山、川、海が繋がっていることから私たちがゴミを減らすことが海洋ゴミを減らすことにつながる事を発表しました。

#### 天の原小学校

**(ポスターセッションの整理)**  
東京大学海洋教育センター  
布施 梓 先生  
におこなっていただきました。

※糸満南小学校  
(意見交流から参加)

※西表小中学校  
(視聴のみの参加)

天の原小学校は、「森・川・海」のつながりについて発表しました。まず、学校周辺にある竹林について調べたこと説明しました。次に、森の役割と川の氾濫について話をしました。そして、自分たちにできること、皆ですつと取り組めること等について説明をしました。

## Cグループ

### 〈海に関係する視点〉

#### 天領小学校



天領小学校は、干潟観察を通して見つけた有明海の生き物を、海まつりでクイズやポスターなど伝えた事を説明しました。次に、校区を流れる諏訪川で行ったカヌー体験や水質調査の事を発表しました。そして、三池港の魅力や私たちが海と共に生きるためには海の環境と町の豊かさのバランスが大事である事を発表しました。

#### 茶花小学校

島っこアイデアコンテスト、どこでもいつでもだれでもと議論を楽しめる映像PR作戦について発表しました。このアイデアを考えた理由や素材集めや動画編集などどのように活動したかについて詳しく発表しました。最後に、作成した動画を見てもらい、島の魅力を発掘、発信することでにぎやかな島にしていきたいという想いを伝えました。

#### 白浜小学校

海神祭について調べた事を発表しました。地域の方に聞いたり、資料をもとに調べました。白浜海神祭のはじまりや海神祭の流れ、当日の様子について発表しました。そして、これからの海神祭について、地域の思いを知り、考えた結果、地域の人々の気持ちが1つになり作り上げていこうとする想いや、この想いを僕たち若い世代が忘れずに受け継ぎ、白浜を支えていくことが大切であること等を発表しました。

#### (ポスターセッションの整理)

東京大学海洋教育センター 進士淳平 先生  
におこなっていただきました。

※糸満小学校  
(意見交流から参加)

※船浦中学校  
(視聴のみの参加)

## パネルディスカッション

全体テーマを『私たちがつくる未来の海』とし、まず初めに、「自分たちの地域の海で自慢したいこと、心配していること」について、ABCのグループの代表が、ステージ上やzoomの画面を通して発表しました。

次に、「そのために、どんな学びをしているか」について、参加者全員で議論を行いました。そして、「未来の海をつくるために、これから自分で、みんなで取り組んで行きたいこと」について話し合いました。自分たちができることとして、ゴミを減らすことや、エネルギーの使い方を自然エネルギーやLEDにするなど活発な意見交流ができました。



【東大】及川幸彦

言葉で表現できるようになることが大切であること等、今後に向けてのアドバイスもいただきました。

東京大学海洋教育センター  
主幹研究員 及川幸彦 先生

## 講評・総括

東京大学海洋教育センター長の田中先生や特任教授の日置先生から、今回の海洋教育サミットについての成果や今後に向けてのアドバイスをいただきました。



【東大】田中智志  
東京大学海洋教育センター  
センター長 田中智志 先生



【東大】日置光久  
東京大学海洋教育センター  
特任教授 日置光久 先生

## 閉会后

閉会后、今回の会議に参加した児童、東京大学海洋教育センターの先生方、関係者の皆様でzoom画面での記念撮影をおこないました。



## 第8回全国海洋教育サミット

全国で海洋教育に取り組んでいる小・中・高等学校や関係機関・団体の約50団体の人たちがオンラインを通して、それぞれの実践や取組について交流し合い、これからの「海洋と人類との共生」について共に考える「第8回全国海洋教育サミット」が、東京大学大学院教育学研究科附属海洋教育センター(COLE)、公益財団法人日本財団主催で行われました。みなと小学校・天領小学校・駿馬小学校・天の原小学校の各校代表の子供たちも、このサミットに参加し、各校の海洋教育の取組や自分たちの考えを、ポスターセッションで発表しました。

今回の海洋教育サミットは、「海洋教育における体験の再考」というテーマのもと、全国の学校・自治体、社会教育施設等が各々の実践や研究の成果を発表する実践・研究発表と、「海洋と人類の共生のために、どんな体験が必要か」についてのトーク・セッションが行われました。

子供たちは、実践・研究発表で自分たちの取組や考えを発表するとともに、全国各地での取組について発表を聞いたり、質問をしたりしながら海についての学びを深めました。

### 実践・研究発表



みなと小学校



天領小学校



駿馬小学校



天の原小学校

実践・研究発表では、海洋教育に取り組む全国の学校・団体が、9グループに分かれて50もの発表がありました。大牟田市の海洋教育推進校の代表の子供たちも、それぞれの学校の特色ある取組について堂々と全国の方々に発表しました。



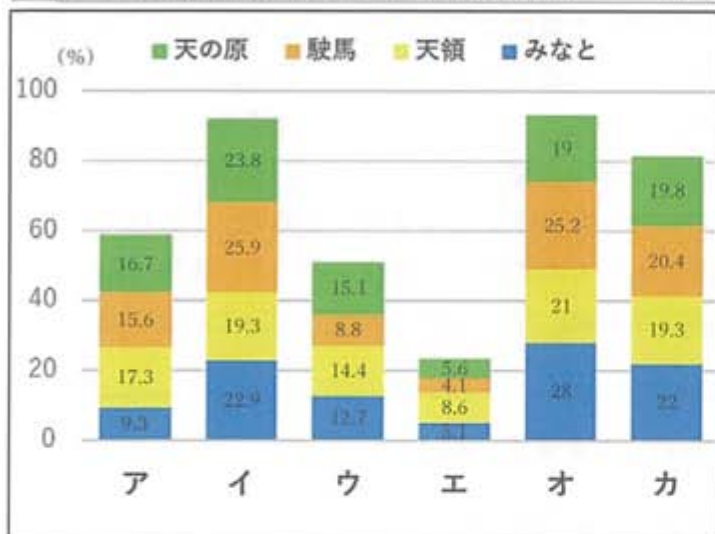
## 6

## 実践結果の分析と課題

(各校6年生を対象に、令和3年1月に実施したアンケート結果から分析)

### 今年度の海洋教育を通して、「学習した」と考えるものを全て選びましょう。

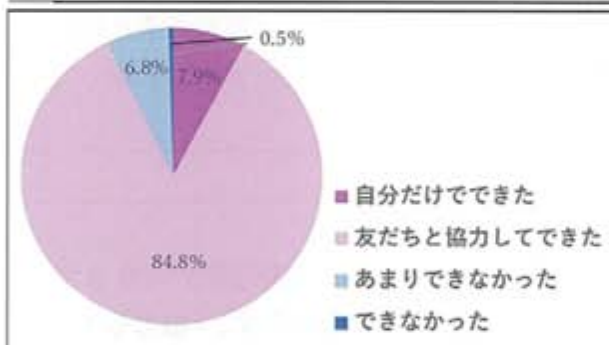
- 1 ア 生き物は、それぞれに合った環境の中で生きている    イ 人間の生活と森、海、資源などは関係しあっている  
ウ 生き物の命や資源、環境には限りがある                    エ 作ったり使ったりすることは、平等でなければならない  
オ 未来のためには、様々な人の協力が必要である            カ 未来のためには、人は責任をもって行動することが大切である



4校ともに「イ 関係性」「オ 連携性」「カ 責任性」を学習したと考えている児童が多い。また、みなとは「オ 連携性」、天の原は「ウ 有限性」が高い値を示すなど、各校におけるカリキュラムの重点に対して高い値が示されていることが分かる。このことから、カリキュラムの内容は各校とも有効に機能していると考えられる。今後、ひとつの学校が学んだことを情報共有することで、他校にも「学び」として認識されるように、オンライン合同学習の内容を改善していく必要がある。

### 2 学習の中で、自分で調べる方法を考えたり、調べたことをまとめたりすることができましたか。

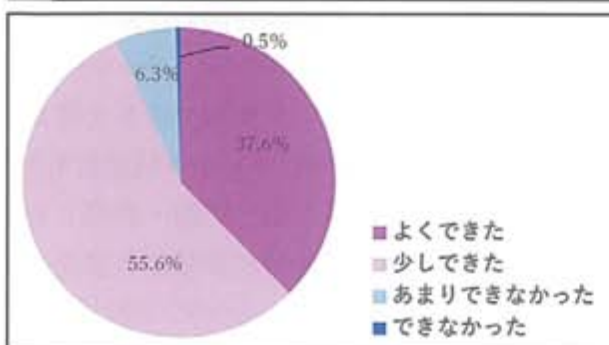
- ア 自分だけでできた    イ 友だちと協力してできた    ウ あまりできなかった    エ できなかった



4校の総集計値から、「友だちと協力してできた」と回答した児童の割合が圧倒的に多い。肯定的評価が全体の約93%を占めることから、課題解決的な学習の展開は児童の問題解決の方法選択、整理・表現の方法選択の力の育成に効果的であったと考える。反面、否定的評価の児童が一定数見られることから、今後は個別の働きかけを行っていく必要がある。

### 3 様々な立場の人やものへのえいきょうや、「自分たちできるか」を意識しながら問題を解決する方法を考えたことができましたか。

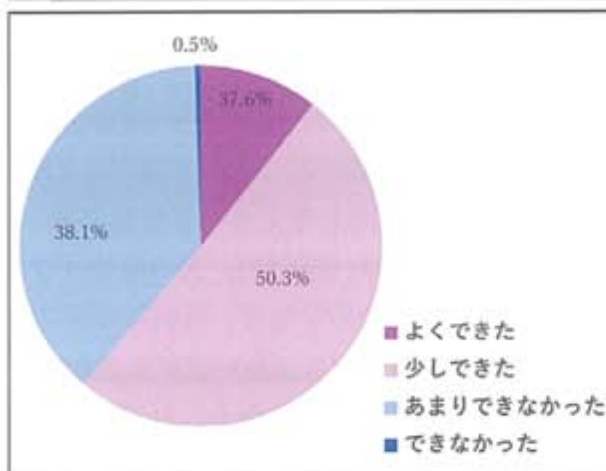
- ア よくできた    イ 少しできた    ウ あまりできなかった    エ できなかった



4校の総集計値から、肯定的評価が約93%を占めている。また、技能面と比較して、最上位の評価が多いことが特徴的である。このことから、4校で協働したり、児童の行動化を促したりする学習プログラムは、児童の多角的な判断力を高めるために非常に有効であると考えられる。今後は、技能面と同様に、個別の働きかけを行っていく必要がある。

3 学習したことや自分たちの活動を、分かりやすく相手に伝えることを意識しながら、話したりまとめたりすることができましたか。

ア よくできた    イ 少しできた    ウ あまりできなかった    エ できなかった



4校の総集計値からは、肯定的評価が約88%を占めていることが分かる。しかし、知識・技能、思考・判断と比較すると、「できなかった、あまりできなかった」と回答した児童の割合が増えている。また、海洋教育サミットの様子から、表現力に課題があることが挙げられている。このことから、資質能力に関しては表現力が一番の課題であると考え、「発表」としての表現力には一定の効果を見せているので、今後は「やり取り」としての表現力に重点を置いて、教科・領域との関連を深め、学習活動を展開していく必要がある。

4 今年度の学習を通して、「考えるようになった」ことを書きましょう。

記述回答の結果から、児童の回答内容は主に以下の二つに分類される。

① 自分の行動変容の必要性について考えている

二酸化炭素が増えていることが分かったから二酸化炭素を減せる行動をしなければいけないことが大切だと考えるようになりました。

回答の中で一番多く見られた視点であった。4校の学習活動によって具体的な内容は異なるが、大部分は環境保護に関する

内容であった。海洋の学習を通して、児童が環境への関心を高め、行動変容の必要性を感じ取っていることが分かる。

② 協働的な取組の必要性について考えている

今までたくさん問題が解決できなかったことは、「2人時間がある」として、協力して、1人でやるよりも早くできました。そして1人1人が地球温暖化から節電などを心がけることが大切だと思いました。この1人1人の行動が地球温暖化解決への1歩だと考えました。

4校で学習対象が異なっていたにも関わらず、「協力して取り組むことが必要」「一人だけでは解決できない」ことを考えている児童が多く見られた。

木が増えると日光があたらなくなると、かんばつしないといけないけど、かんばつをするには、すごく時間がかかるし、いろんな人の協力ができないんだなと思った。だから、環境を守るためには、いろいろな人が支えあって、私たちにもできることを考えることが必要だと思った。

これは、海洋を通じた学習の中で、問題の要因の複雑な結び付きに突き当たり、ジレンマを感じたことが要因であると考えられる。これは、「未知の状況にも対応できる思考・判断・表現」を育成するために非常に有効であることから、今回の学習プログラムの大きな成果であると考え、今後も、ジレンマと向き合うプログラムを展開していきたい。

〈参考〉

5 あなたが「特に大切だ」と思う事柄を三つ選び、大切だと思う順番に並べましょう。

※ 学習プログラムを通じた児童の意識とSDGsとの関連を調べたものである。経年変化で見るため、今年度は参考資料としての取扱いとする。海洋教育を通して児童の意識が様々な視点へと広がっていることが分かる。(黄で示した箇所は5.0%を上回っているもの)

SDGsのターゲット		1番目に選択	2番目に選択	3番目に選択
みなと	1 貧困を無くそう	1.9%	0.9%	0.9%
	6 安全な水とトイレを世界中に	5.6%	2.8%	2.8%
	7 エネルギーをみんなに そしてクリーンに	1.9%	4.6%	1.9%
	11 住み続けられるまちづくりを	0.9%	2.8%	4.6%
	12 つくる責任 つかう責任	0.0%	0.9%	1.9%
	13 気候変動に具体的な対策を	5.6%	6.5%	7.4%
	14 海の豊かさを守ろう	0.9%	0.9%	5.6%
	15 陸の豊かさも守ろう	2.8%	2.8%	1.9%
	16 平和と公正をすべての人に	6.5%	7.4%	2.8%
	17 パートナーシップで目標を達成しよう	7.4%	3.7%	3.7%
天領	1 貧困を無くそう	2.4%	6.3%	6.3%
	6 安全な水とトイレを世界中に	4.3%	5.8%	2.4%
	7 エネルギーをみんなに そしてクリーンに	1.0%	2.4%	1.4%
	11 住み続けられるまちづくりを	1.4%	1.9%	4.3%
	12 つくる責任 つかう責任	0.5%	0.5%	1.4%
	13 気候変動に具体的な対策を	5.3%	3.9%	5.8%
	14 海の豊かさを守ろう	1.4%	2.4%	1.4%
	15 陸の豊かさも守ろう	0.0%	1.4%	4.8%
	16 平和と公正をすべての人に	15.0%	3.4%	2.9%
	17 パートナーシップで目標を達成しよう	1.4%	4.8%	1.9%
駛馬	1 貧困を無くそう	0.0%	6.4%	5.7%
	6 安全な水とトイレを世界中に	5.0%	3.5%	2.8%
	7 エネルギーをみんなに そしてクリーンに	3.5%	4.3%	6.4%
	11 住み続けられるまちづくりを	1.4%	2.8%	1.4%
	12 つくる責任 つかう責任	0.0%	0.0%	0.0%
	13 気候変動に具体的な対策を	4.3%	5.7%	8.5%
	14 海の豊かさを守ろう	0.0%	3.5%	4.3%
	15 陸の豊かさも守ろう	0.0%	1.4%	2.1%
	16 平和と公正をすべての人に	15.6%	2.8%	1.4%
	17 パートナーシップで目標を達成しよう	4.3%	3.5%	1.4%
天の原	1 貧困を無くそう	6.8%	3.4%	3.4%
	6 安全な水とトイレを世界中に	0.9%	5.1%	5.1%
	7 エネルギーをみんなに そしてクリーンに	5.1%	1.7%	1.7%
	11 住み続けられるまちづくりを	0.9%	2.6%	2.6%
	12 つくる責任 つかう責任	0.0%	1.7%	1.7%
	13 気候変動に具体的な対策を	6.0%	6.0%	6.0%
	14 海の豊かさを守ろう	0.0%	3.4%	3.4%
	15 陸の豊かさも守ろう	0.9%	1.7%	1.7%
	16 平和と公正をすべての人に	7.7%	3.4%	3.4%
	17 パートナーシップで目標を達成しよう	5.1%	4.3%	4.3%



## 推進協議会 会長

○ 大牟田市教育委員会	教育長	安田 昌則
-------------	-----	-------

## 推進協議会 委員

○ 大牟田市教育委員会	指導室長	小宮 武士
○ 大牟田市教育委員会	総括指導主事	中村 敏明
○ 大牟田市立みなと小学校	校長	馬籠 秀典
○ 大牟田市立天領小学校	校長	荒木 秀敏
○ 大牟田市立駛馬小学校	校長	萩島 弥穂
○ 大牟田市立天の原小学校	校長	高口 直喜
○ 東京大学大学院教育学研究科 附属海洋教育センター	主幹研究員	及川 幸彦

## ワーキンググループ 委員

○ 大牟田市立みなと小学校	教 頭	宮崎 紀子
	主幹教諭	下地 徹
	研究主任	荒川 正明
	海洋教育担当者	石橋 剛志
○ 大牟田市立天領小学校	教 頭	溝上 尚子
	主幹教諭	森 洋祐
	研究主任・海洋教育担当者	奥蘭 信宏
○ 大牟田市立駛馬小学校	教 頭	樋口 広一
	主幹教諭	西峯 幸子
	研究主任・海洋教育担当者	江田 あずさ
○ 大牟田市立天の原小学校	教 頭	北原 栄司
	主幹教諭	樋口 広一
	研究主任・海洋教育担当者	住吉 主堂
○ 東京大学大学院教育学研究科 附属海洋教育センター	特任研究員	嵩倉 美帆

～・～・～・～・～・～・～ おわりに ～・～・～・～・～・～

私たちの身近には、日本有数の干潟をもつ室の海「有明海」があります。児童が「ふるさと大牟田の海『有明海』や川、自然や文化を大切にし、守りたい」という思いをもち、自分たちの生活の中でできることを主体的に実行し、広く海や地球環境について考えていく人に育ってほしいと、平成29年度より、大牟田市立みなと小学校、天領小学校、天の原小学校の3校が大牟田市海洋教育推進校として海洋教育に取り組んで参りました。本年令和2年度より、駛馬小学校があらたに加わり、4校で取組を進めているところです。

みなと小学校は、世界文化遺産「三池港」を校区に有し、三池港を軸に海の環境を守るために自分たちにできることを考えたり、調べた三池港のよさや魅力を他校や地域に発信したりして学習を展開しました。令和2年7月の豪雨災害後、海洋の温暖化に起因する問題等にも取り組み、身近な諏訪川、有明海をこれから先もずっと守りたいという思いをもち、自分たちにできる活動や広報活動を積極的に行いました。

天領小学校は、有明海に注ぐ諏訪川に隣接し、川から海を見る視点で学習を進めました。体験活動を通して、有明海や諏訪川の生き物に愛着を持った後、自分達の生活排水が有明海や諏訪川を汚していることに気づき、今できることを実行したり、地域に発信したりしました。また、その学習を生かし、ふるさとの川や海を将来どのような姿に発展させ、どう守っていくのか現実的なまちづくりの未来設計について考え、発信しました。

天の原小学校は、生活排水、竹害等が海に与える影響や上流の森の栄養分と海の豊かさの関係を学習したことで、校区を流れる小さな野間川も山や海につながっていることを実感しました。子どもたちは様々な人の思いや願いを学び、森も川も海も守りたいという思いを強くしました。身近な生活を見直し、環境を守るために自分たちに何ができるかを考え、それを子どもたち自身から発信し、課題解決に取り組む姿が見られました。

駛馬小学校は、諏訪川と有明海のつながりを、生息する生き物、環境、産業・資源の観点で調べました。川や海にすむ生き物の多様性や希少性とその生き物の生態を維持するための環境の大切さや大牟田市の発展の基盤となった石炭は海の恩恵であるということを改めて見つめ直し、「自分たちにできることを考え、実行し、続けていこう。」「川や海の価値をたくさんの方々に発信していこう。」という意欲や行動力を身につけていきました。

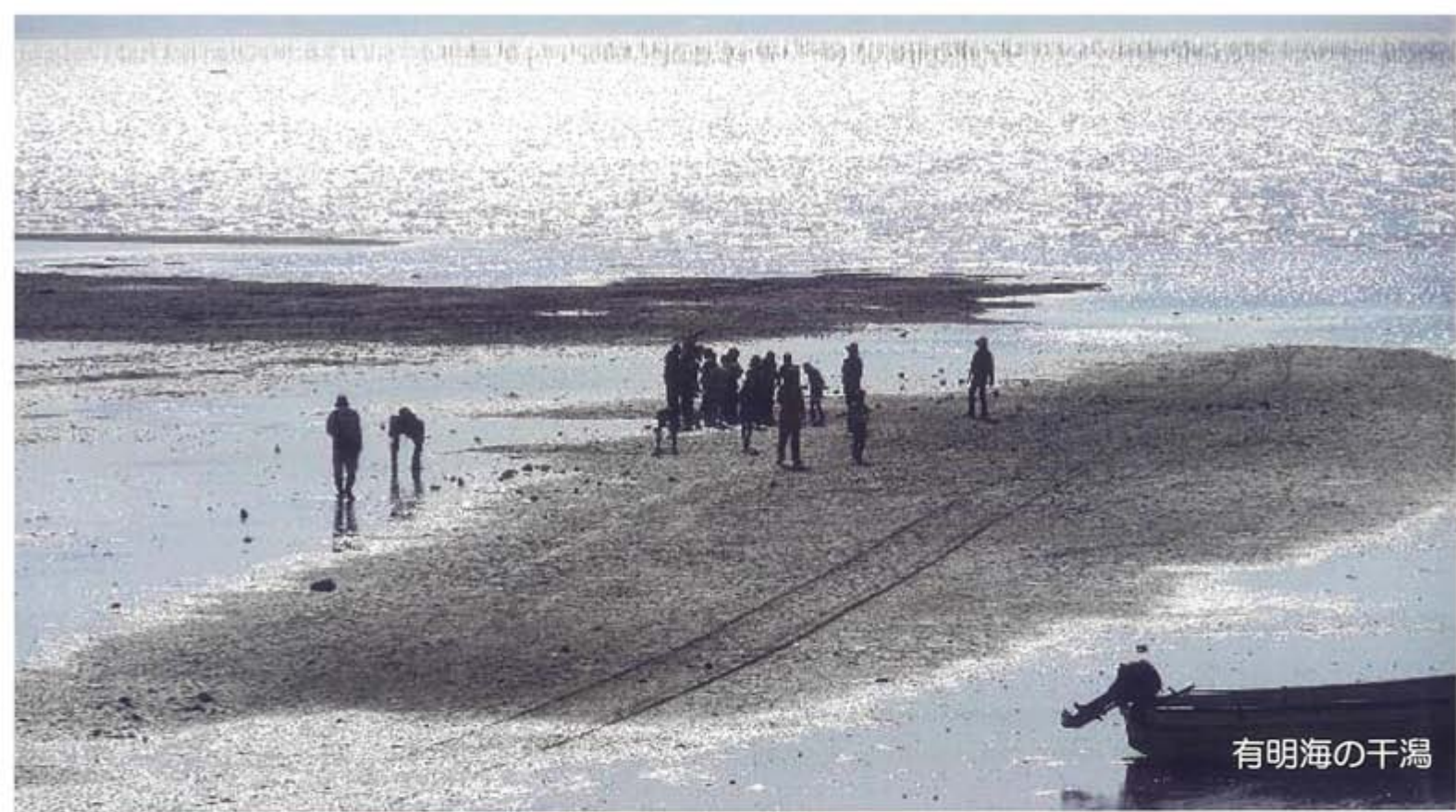
今年はコロナ禍で活動を行うにも難しい面はありましたが、例年通りではなく今年だからこそできる内容を考え、工夫し学習を行う子ども達の姿に大きな力を感じました。また、オンライン（Zoom）という新たに繋がる方法も手にし、今後の学習の幅が広がる可能性を感じることもできました。これまでの学習交流会やテレビ会議、子どもサミット等に加え、ICTを駆使した交流を行うことでお互いの学びを発信し、さらに学習を深めていきたいと思えます。そして、カリキュラムマネジメントや教材開発をさらに進め、「海と人との共生」を実現する子どもの育成に努めて参ります。

最後になりましたが、東京大学大学院教育学研究科附属海洋教育センターをはじめ、4校の学習を支えていただいたゲストティーチャーやすべての皆様に心から感謝いたします。

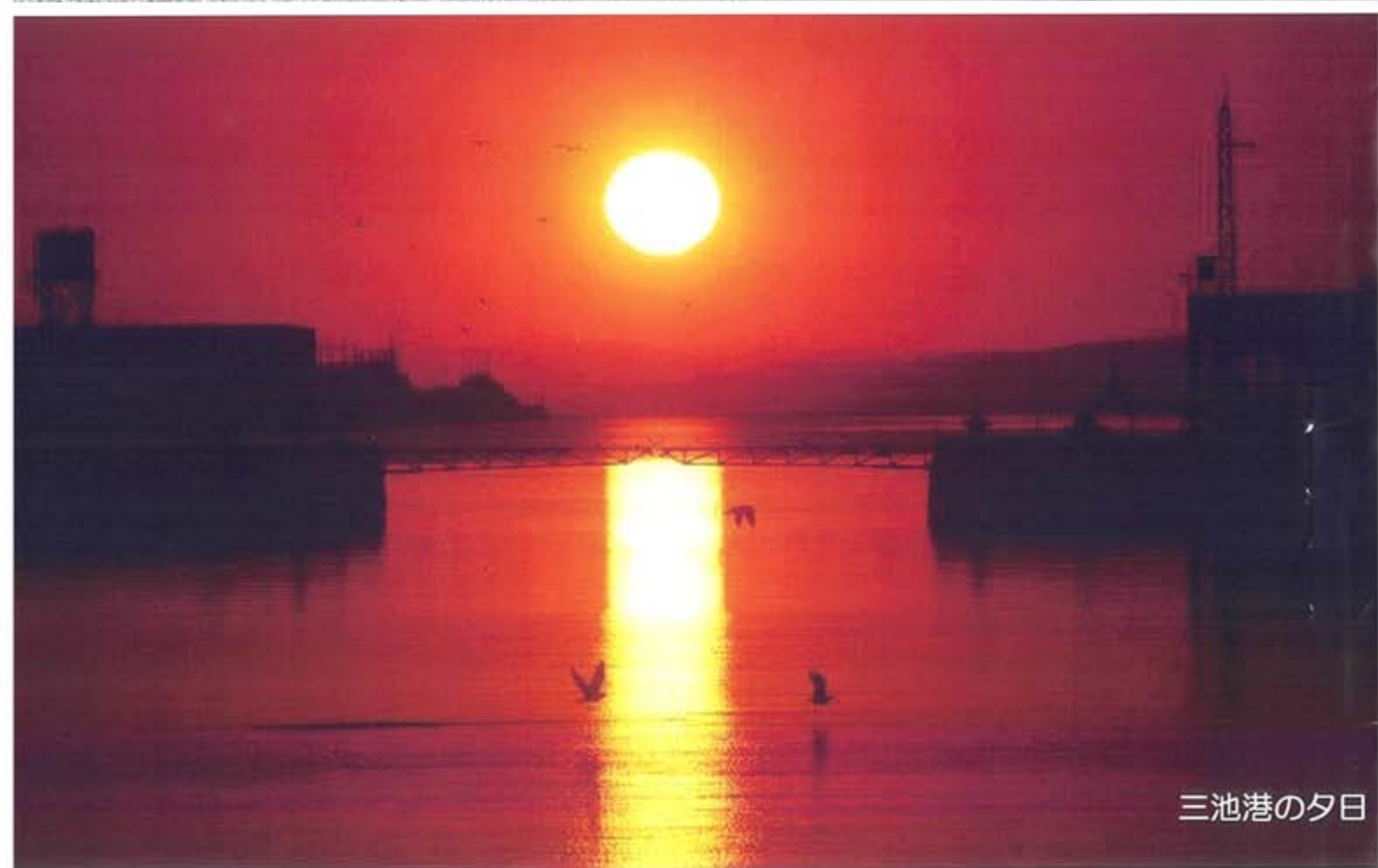
令和3年3月

大牟田市立みなと小学校	教頭	宮崎 紀子
大牟田市立天領小学校	教頭	溝上 尚子
大牟田市立天の原小学校	教頭	北原 英司
大牟田市立駛馬小学校	教頭	樋口 広一





有明海の干潟



三池港の夕日

大牟田市教育委員会 大牟田市海洋教育推進協議会

大牟田市立みなと小学校 大牟田市立天領小学校 大牟田市立天の原小学校 大牟田市立駿馬小学校

## 海洋教育パイオニアスクールプログラム

Ocean Education Pioneer School Program

日本財団/東京大学大学院教育学研究科附属海洋教育センター/笹川平和財団海洋政策研究所

14 海の豊かさを守ろう



日本 THE NIPPON  
財団 FOUNDATION

東京大学海洋学研究所  
海洋教育推進  
研究センター

笹川平和財団

海洋政策研究所